

こどもエコクラブくしろのみなさんへ
師範から一言！

見やすく、おもしろい新聞になっていますね！完成度がとても高いと感じました。新聞社の人が作った新聞を読んでいるような気持ちになりましたよ。
まず全体構成がよく読みやすいです。また細かいところまでこだわって作っていることも伝わってきました。
タイトルには北海道の形にまとめられたみなさんの写真、記事の区切り線には森の絵やキタサンショウウオの学名を使うなど、よく考えて作ったことがわかります。
文章も要点がおさえられており、わかりやすいです。とくに感心したのは、自然環境に詳しくない人でも理解ができるように、補足の情報がついているところです。キタサンショウウオの生態の絵や、水質の目安を示すグラフを入れたのは、読み手を考えたよい工夫だと思います。
たくさんの生き物が暮らしている、釧路に行ってみたくなるような新聞ができましたね。

とっておきのゴシンドウ★

紙面の制約があるので新聞に何をどこまで書くかは悩むところですが、新聞を読んだ人がもっと知りたくなる情報があるように思いました(よい新聞という証拠です)。
例えば、「この水質調査の結果から何が分かるのかな？川の状態は前よりよくなっているの？」「ヘイケボタルが暮らしやすい環境って何？」「ウチダザリガニをどうやって食べたのかな？味は？」などなどです。
新聞を読んだ人から出そうな質問を想定しておき、実際に壁新聞を見もらったときに、みなさんがその質問に答えられる機会があると楽しそうですね。交流のきっかけになりますし、みなさんの活動や釧路の自然のことを深く伝えられる機会にもなると思います。壁新聞を活用しながら、釧路の良さを多くの人たちに伝えてみてください。



おおぼし保育園エコフレンドのみなさんへ
師範から一言！

おおぼし保育園エコフレンドのみんな、こんにちは！
みんながやっているエコ活動をまとめて壁新聞にしてくれました。
この新聞をみて、みんなが楽しそうに、えがおでやっているのを見て、とってもすばらしいなと感じました。どうやったら楽しくなるかな、と保育園の先生方が考えてくれたのですね。
ペットボトルのキャップ集めは、病気の治療を受けられない子ども達をすくいましょうと言うことでキャップ集めをいろいろなところでやっています。おおぼし保育園でもワクチン 13 人分を集め、提供できたようですね。すごい！すごい！もう一つ保育園で考えたことは、ワクチンとして社会に貢献することだけでなく、子ども達のおもちゃを作るようにしたことがすばらしいです。自分たちが遊べるおもちゃを作ります！と先生が言うともども達も一生懸命にがんばってキャップ集めをするでしょう。
エコ活動って楽しくなければ長続きしないですよ。その意味でキャップでおもちゃを作り、自分たちで遊ぶようにしたのは、先生方のクリーンヒットですよ。写真に出ているおもちゃはどうやって遊ぶのでしょうか？ごめんなさい。私はやったことがないので、どうやって遊ぶのか分かりませんでした。でも子ども達は楽しそうに、真剣にやっているようすが分かります。
福島ひまわり里親プロジェクトは私もやっています。一粒の種からひまわりの花が咲いて、実を結ぶと、とってもたくさんの種が取れますのでうれしいですね。子ども達もみんなで力を合わせて鉢に種を植えました。時々水をあげて、早く大きくなれと面倒を見たのでしょう。ひまわりの花がとってもたくさん咲いている写真を見ました。子ども達はVサインを出していたり、このくらい大きい花だよと言っている子もいるようですね。ひまわりの高さは子ども達の高さと同じくらいですかね。花が枯れたら種を取ります。みんなで手分けして種取りをしたのでしょうか。1粒からどのくらいの種がとれたのかな？また、来年もやりたいですね。
ミルク缶から楽器のたいこを作っているのを見てすばらしいなと感じました。私は初めて見ました。ミルク缶も使い終わったら捨てるのではなく、リサイクルして別の物に変える、それが“たいこ”とはビックリしました。これも子ども達が使う楽器に変身したので、とってもすばらしいです。これは保育園の音楽会で使うのだと思いますので、保護者の方に紹介するのでしょうか。園児たちが作った楽器です！と紹介するのだと思います。
壁新聞に子ども達を書いた顔や人がありました。文章は無理でしょうから、少しでも子ども達も新聞作成に参加したことが分かります。良いですねー！新聞の周囲に貼ってあるお菓子やキャラクターの写真は、どういうことでしょうか。ごみ拾いで集めたごみを写真にとって貼り付けたものもあるのかな？こんなに小さい絵や写真は どうやって準備したのでしょうかね？
また、次回、子ども達の楽しそうな場面を壁新聞にして送ってください。楽しみにしています。

青森県青森市 おおぼし保育園エコフレンド
壁新聞のタイトル:わたしたちがやっているエコ活動

とっておきのゴシンドウ★
ごみ拾い活動もやったのですね。こんなところにもごみが落ちているよ！
と言う写真をもてどこかな？とちょっとわかりませんでした。こどもの
目線では大人も気が付かない所を発見することもあるでしょう。道路を
歩く時は、車に気をつけましょう。写真では保育園の大人の方が写って
いませんが、一緒にいると思います。こどもは夢中になると周りのことに
気が付かないこともあるのでしょう。周りを良くみるように、そして走らな
いなど保育園の先生方は、十分注意をしているでしょうが、ぜひとも事故
を起こさないように注意してください。ごみの種類は、どんなごみが多か
ったですか？都会では、やっぱりたばこの吸い殻が多いようです。昔はも
っと多かったと思いますが、最近ではたばこを吸わない人も増えているよう
で、少なくなっていますが、それでもたばこのごみが多いようです。
こども達はてぶくろやごみをつまむ道具を持っていませんが、大丈夫でし
ょうか？保育園のこどもたちがごみ拾いをしているところを大人が見る
と、ごみを捨ててはいけないなと気がついてくれると思いますので、と
っても良い活動だと思います。



青森県弘前市 HEP21 エコクラブ
壁新聞のタイトル:わたしたちとたんぶり池の仲間たち

19-02-02

HEP21 エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
毎年、送られて来る「わたしたちとたんぶり池の仲間たち」の壁新聞はきめ細かく活動を紹介していま
す。こんなすばらしい壁新聞をつくれるのは、一つには4歳から中学3年生までの14人の力のあるメ
ンバーと10人のサポーターからなる強力な団結力のあるクラブだからでしょう。
それにしても見ごたえのある、読み応えのある壁新聞です。新聞の周囲には、毎日測定したpHと伝導
度のデータがあります。毎日ですよ！ビックリしました。どのような体制で、誰が、多分、分担を決めて
誰かに負担が掛からないように順番で測定したのでしょね。
こんなに毎日、雨は降りませんのでたんぶり池の水をサンプルにしたのかとも思いますが、いずれにし
ても測定した時の天気の情報、雨、曇、晴なども書くといいと思います。
それに台風前後の雨、雪のpH、伝導度の測定や弘前城堀水のpH、伝導度の測定などもあり、HEP21
エコクラブの活動の主体は、pHと伝導度の測定かと思うところが！たんぶり池の仲間たちと言うこと
で、たんぶり＝トンボをはじめとして、アカハライモリ、ホタル、カナヘビなどの生き物の話、さらにエコク
ッキングや夏休みの自由研究としてまとめたことなどいろいろな活動を記事にしまとめてくれました。
弘前城堀水調査も、大変注意深くサンプリングと測定を行っていることがよく分かります。せんぱいた
ちから水のサンプリングの仕方から、測定するやり方まで、しっかりと注意することを教えてもらって
いるでしょう。30年前のデータと最近5年間のデータをグラフ化するととてもおもしろい結果が出てい
ますね。
数字を並べただけでは、気が付かない、見つけにくいことが、グラフにすると発見ができます。グラフに
してみようと気が付いたことも大変すばらしいです。
みんなで調べたことを夏休みの自由研究としてまとめて発表したようですが、とても良いと思います。自分たちの調べたことを他の人たちに覚えて
もらうことにより、さらにいろいろな意見、考えが出てくるでしょう。それにみんなの活動のすばらしさも知ってもらうことができ、みんなの力が高く評価され
ることにもつながります。
14人のメンバーのうち7人がそれぞれの活動を1枚ずつにまとめて書いてくれました。これも大変おもしろく読みました。たくさんの生き物にふれあ
えてよかった。水晶を発見したことがうれしかった。ホタルはきれいです。でもアメリカ人に見せたら、それほど感激しなかったのは予想外でした。トン
ボの写真がきれいに撮れた。しっぽが2本に分かれたカナヘビを見つけた。めずらしいトンボを捕まえることができた。エコクッキングの機会もあ
ったようで、自分が作ったのは、やはりおいしいですね。弘前城堀水調査で結果が去年とちがっていて、どうしてだろう？原因は何だろうと疑問に思
ったことは、すばらしい！自分なりの原因を考えて、他の人と議論してみると良いと思います。たんぶり池の仲間たちカレンダーを作るに当たって、イ
ラストを募集しているそうですね。どんなイラストが応募されてくるか楽しみです。



青森県弘前市 HEP21 エコクラブ
壁新聞のタイトル:わたしたちとだんぶり池の仲間たち

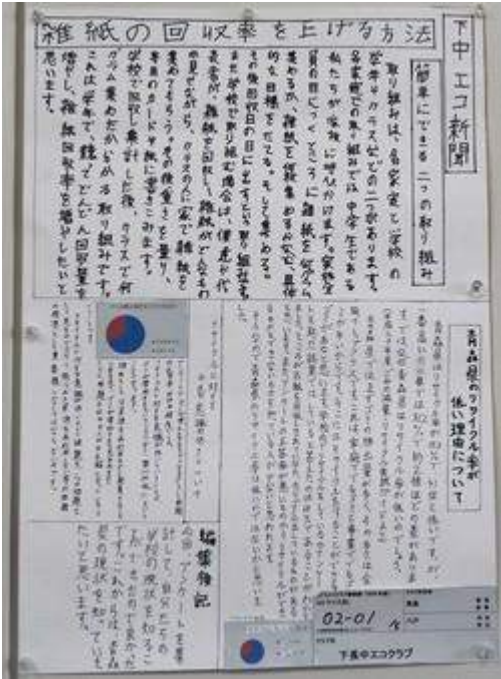
感想の中にも書いてありますが、この壁新聞をつくるにあたり、みんながそれぞれ自分の工夫や力を出して、全員の共同作品として新聞ができているようで、本当にすばらしいできばえでした。
HEP21 エコクラブとだんぶり池とは切っても切れない関係ですので、これからもこの壁新聞にあるような活動は続けてください。それとともに、次はまた一つ、何か新しい見方や考え方、行動を加えられると、すばらしさが倍増すると思います。次回の壁新聞は、どんな内容で、どんなできばえの新聞が届くのか？とても楽しみです。

とっておきのゴシンドウ★
台風前後でのpH や伝導度の違いを、台風 24 号と 25 号でなぜ違うのか、考え、検討してくれました。風の向きとごみや海塩の流入かなと考えて見ました。良いところに目を付けましたね。
それに冬と夏のpH の違いにも関心が向きましたね。雨のpH を測ると、雨には二酸化炭素が溶けますのでpH は 5.6 位になるでしょう。大陸からのごみや黄砂などが飛んでくると黄砂にはアルカリ性の砂が、ごみには自動車排ガスや工場の排ガスに起因する酸性物質が入りますので、黄砂の場合は、pH は中性側に振れ、自動車の排ガスや工場の排ガスの場合は中性側から酸性側に振れるのではないのでしょうか？
雪の場合はどうなるでしょうか？雪は固体ですので二酸化炭素は溶けませんので、基本的には雪を融かすと中性だと思えます。但し、雪の表面に自動車排ガスや工場の排ガスが付着すると酸性になるでしょう。逆に黄砂が付着するとアルカリ性になると思います。そんなことを考えて、予測してみて、観測を続けるとおもしろいのではないのでしょうか？
どうしてpH は 30 年前と同じように 2016 年は低くなったのか？伝導度も場所によって大きなちがいが出ていますが、結果を考える時は、その時の状況をよく理解して考えないと、何年前の結果はどうしてかを考えるのは、難しいと思います。……だろうと考えるのは、どうにでも考えることができますが……
と言うことで次回に測定結果が出たときに、前回と同じか？違う場合はどうしてか？をその場で考えるのが良いと思います。みんな意見を出し合って考えるのが良いと思います。考えた結果をサポートに相談するとか、水のことにくわしい専門家に相談するなりをしたらどうでしょうか？
最後にまた HEP21 エコクラブについて、言いますが、自分たちなりにデータを考察して、原因はこうではないかと考えています。とってもすばらしいです。正しいか、誤っているかは問題ではありません。自分なりに結果を考察することが、実験や観察、研究の基本です。これが出来ている HEP21 エコクラブのみなさんは、もう何も言うことはないくらい、立派なエコクラブです。

青森県八戸市 下長中エコクラブ
壁新聞のタイトル:雑紙回収 19-02-01 (A2 サイズ)

下長中エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
公開資料データ、アンケート結果などのデータを使って現状を考察し、改善取り組みを提案しているという組み立てがしっかりしていて中学生らしくまとまっています。実際に学校内でアンケートを取るという行動まですめられています。すばらしいです。
まずは、アンケートによって、回答されたみなさんがリサイクルについて考えるきっかけになったことでしょう。「簡単にできる取り組み」として家庭と学校に分け、考えられていることもいいですね。
次はまず提案活動をできることから具体的に実現していけるようすすめていってください。また、学校で雑誌を回収したことによる意識の変化、雑誌だけでなく他のものもリサイクルするものが増えたなどの波及効果までも調べられると面白い結果が得られるでしょう。期待しています。

とっておきのゴシンドウ★
内容を読ませる新聞として、タイトルを付けうまく整理されています。タイトルについては、「～について」と記すのを、「なぜ、青森県のリサイクル率は低い？」、「31% はリサイクルをしていない」など興味を持たせるもの、タイトルだけで内容がわかるようなものを工夫されると、さらに多くの人に読んでもらえる新聞となると思います。
多少色を付けたり、写真を入れると見やすくなるかもしれません。
アンケートについては、「リサイクルをしているか」は、古紙・雑誌だけでなく、一般的なものについての質問だったのでしょうか？「ゴミが増えすぎるとどうなるか」の「正解」は何なのでしょう？（ゴミが増えすぎたときの影響はいろいろあり、師範も教えていたみたいです）アンケートの質問事項や、誰を対象に、何人から回答があったアンケートであるかなどの基礎情報についても紹介されるとさらに中学生らしい新聞となるかと思えます。



青森県十和田市 緑と太陽の保育園グリーン・キッズ
壁新聞のタイトル:①ひまわりのせいくらべ ②グリーンキッズ ミニ

19-02-04、05 (全2枚) 幼児

緑と太陽の保育園グリーン・キッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

みんなで大事にヒマワリを育てたんですね。小さなタネから芽が出て、最初は小さかったのに、グングン大きくなって、2メートル30センチなんて、みんなの何倍もの高さになったのですね。葉っぱも、自分の手よりも大きいとか、自分たちで育てたヒマワリと直接比べられて、その大きさもよく分かったと思います。良かったですね。来年も、その次も、新しいタネから、元気に育つとよいですね。何か月も、大きさを計って記録に残して、壁新聞にわかりやすくまとめています。がんばりましたね。ヒマワリのタネをくれた万田酵素さんもよろこんでいるでしょうね。

サポーターへのおきゴシドウ★

大胆な構図と色使い、インパクト大です。写真も効いていると思います。単に大きさが分かるだけでなく、子供たちの感動も伝わってくるようです。葉っぱの大きさと手の大きさのコメントに合わせての「手のスタンプ？」での葉っぱの表現なのでしょうか、ちょっと笑みがこぼれそうです。ただ、ぐるっと回す新聞の絵の構成から、文字が逆さまになっているものがあります。壁に貼られるとさすがに読みにくいです。ここも、アイデアで改善できると良いですね。



緑と太陽の保育園グリーン・キッズ②ミニの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

実物の写真もたくさん載せてあり、先生たちががんばったことがよく伝わってきます。トイレトペーパーのアイデアや、いろいろな手作り・リサイクルのおもちゃのアイデア、グリーンカーテンの勉強など、みなさんで協力してすすめたのですね。私もこういうおもちゃなどときどき作ろうとしますが、なかなかかっこよく作れません。さすが、保育士のみなさん！ですね。

子供たちは、シンプルなものの方が自分の想像力を働かせて、自由に遊ぶような気がします。想像力を発揮できる余裕を持った進め方ができると良いですよ。『時間』も重要な要素ですね。

サポーターへのおきゴシドウ★

先生たちの工夫はよく伝わってくるのですが、子供たちの姿がよく見えません。こどもエコクラブは主役は子供たちなので、子供達のことのうまく表現できると良いと思います。遊んでいるときの子供たちの写真や生の声などがあるだけでもずいぶんちがうと思います。

子供たちは、おもちゃの作成にも参加しているのでしょうか？一緒に作るものもあっても良いですよ。自分で作ったおもちゃで遊んだり、自慢するのも良いのではないのでしょうか？

最後に私のお勧めは「カズー」という楽器、牛乳パック1枚で何人分も作ることも可能だし、他の材料も豊富、作ってすぐに遊べます。(変声になる楽器なので、とても賑やかになってしまいますが。)こどもエコクラブで作った時にも大好評でした。ネットで調べるとたくさん作り方の情報が出てきますよ。

宮城県仙台市 泉ヶ丘エコクラブ
壁新聞のタイトル:泉ヶ丘エコクラブ新聞

19-04-01

泉ヶ丘エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

写真とイラストが多く使われていて、カラフルな新聞ですね！エコに関する幅広い活動をみなさんが楽しんでやっていることが分かります。読んだ人が、活動に参加してみたくなるような新聞に出来上がっていると思いました。

様々な活動のことが書かれていますが、活動ごとに写真や文章がまとまっているのでよみやすいです。活動を通じて考えたことや感じたことも書いてあるため、生き生きとした新聞になっています。みんなで一緒に行った活動だけでなく、普段各メンバーが気を付けているエコな生活を記事にしているのもとくちよ的です。新聞を読んだ人が「自分でもできそう」「私もやっているよ」など、エコ活動について身近に感じられる記事だと思いました。

エコクラブキャラクターになったエコ太郎のその後の活躍についても、これからの壁新聞などでぜひ教えてください。

とっておきのゴシドウ★

エコについてあまりくわしくない人が読んだときに、みなさんの活動がどのような「エコ」を目指しているのか、伝わりにくい記事があったように感じました。たとえばかぼちゃのエコクッキングは「野菜の皮など、ふだん捨てているような材料も工夫して使うこと」、さんちゃんまつりのゲームでは「ペットボトルや新聞紙などを楽しく再利用すること」が目的だったのでしょうか？みなさんが取り組んだ「エコ」の目的を一言加えると、新聞を読んだ人にもその大切さがもっと伝わると思います。新聞を読んでくれた人に本当に伝えたい事はなんなのか、そしてそのことが伝わるように記事を考えてみると、よりすてきな新聞になると思います。



イオン石巻 イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

「ゴミ」について定義から考えているのはとてもよいですね。みなさんが書かれて
いるように、始めからゴミだったものというのではなくて、ゴミに変わるのですよね。
ゴミかどうかは、人の考え方次第とも言えます。
1年間に出るゴミの量を積み重ねると、国際宇宙ステーションよりも高くなる、とい
うのはおどろきました。近年、ゴミの量は減っていると聞きますが、それでもこんな
にたくさんのごみが出ているのですね。
リサイクルについては、それぞれどんなものにリサイクルされるのか、ていねいに
調べられましたね。私が子どもの頃(平成の初め頃)は、新聞紙や雑誌、缶やびん
位しかリサイクルされていなかったのですが、みなさんの壁新聞を読んで、今は
色々なものがリサイクルできるようになったんだと実感しました。私のように昔と
比べて、改めてリサイクルについて感じる人も多いと思いました。

とっておきのゴシドウ★

ゴミを減らす理由については、みなさんで話し合った過程も書いてみると、いろい
ろな視点で考えたことがもっとよくわかると思います。また、ちょっとした考え方のコ
ツですが、ポジティブな言葉で書いてみるのはいかがでしょうか。「ゴミを減らすとい
いこと」「ゴミを分別するとこんなステキなことがあるよ」というように、自分にも地球に
もいいことがあるよ、という表現にしてみると、読む人も「やってみよう」と前向きに
取り組みやすいと思います。
3Rの取り組みについて、すぐに取り組めることがたくさん書かれていますが、実際
に取り組んでみての感想もあると良いですね。一つの物に対して、3Rを流れて書
いてみるのもよいと思いますよ。



マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

秋田県のエネルギー資源にテーマをしばって作っているの、読んだ人に内容が
伝わりやすい新聞になっていると思いました。
人の生活圏に近いところに油田があるという、秋田の珍しい事例にも興味をもてま
すね。字もていねいに書かれており、とてもよみやすいです。
資源の状況について、文章だけでなく数値やグラフを使って説明しているので、正
確に伝わると思います。また、まとめの記事を設けて、そこに活動をふまえた考え
を書いてあるのもよいアイデアだと思いました。
さてCO2を出してはいけない社会を目指して、世界全体で取り組みが進められて
います。そのような社会になったとき、これまで利用されてきた秋田のエネルギー
資源はどうなるのでしょうか。まとめのところで、使用エネルギーを減らす提案がされ
ていますが、そのとき私たちの生活はどんな風に変わっているのかな？これからの
エコ活動で分かったことがあったら、今後の壁新聞などでぜひ教えてくださいな
ね。

とっておきのゴシドウ★

秋田らしい新聞を目指したからだと思いますが、記事との関係が分かりにくいイラスト
が一部あるように思います。紙面をにぎやかにするためにイラストは効果的ですが、
読んだ人が「？」となってしまうイラストがたくさんあると、かえって新聞が読みにくくな
る場合があります。記事の内容や全体の構成などとのバランスを見ながら、使うイラ
ストを考えてみてはどうでしょう。

またまとめのところで「家電は意外と・・・」「どれも人が・・・」とありますが、活動を通じて、どうしてそのように感じたのでしょうか。活動
で調べた内容と、その後考えたこと・感じた事の間をつなぐ説明を一言加えると、より分かりやすい新聞になると思いました。



ひろおもてエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

しんぶん全体に生きもののイラストやおりがみがあって、にぎやかでたのしさが伝わってきます。

水辺の観察ではオタマジャクシやカエルがたくさんいたようです。カエルはどんな色をしていて、体にもようなどがありましたか？大きいカエルだったようですが、よく知っているモノとくらべると、どれくらい大きかったのかが分かりやすいです。たとえば、手をグーにした大きさとくらべてみるとどうかな？このようなことをじっくり観察すると、あとでしらべたときに種類(しゅるい)が分かると思います。絵をかいてくるのもいいですね。

ヒラタカゲロウとタニガワカゲロウのちがいをよく観察しているなあ、と感心(かんしん)しました。ほとんどのカゲロウは尾(お)が3本ですが、ヒラタカゲロウは2本なのでみわけやすいですね。

ゴミひろいをがんばってくれました。感想(かんそう)にもかいてくれましたが、ゴミがなくなってきれいになるととても気持ちがいいものです！でもゴミをまちの中にする人がいなくなることが一番(いちばん)大切です。そうすればゴミひろいをする必要もなくなります。

とっておきのゴシンドウ★

ホタルをたくさん見たり、手の上で観察したりして、心にのこる体験ができましたね。とんでいるすがたは光が動いているようにしか見えませんが、手の上で観察するとおしりがと光っていることに気づいたと思います。どんな光り方をしていましたか？ホタルの種類(しゅるい)によっても光り方がちがうので、またこんど光り方も観察してみてください。

ホタルは光ることによって、なにをしているのかな？人は言葉(ことば)をはなすことができますが、ホタルははなすことができないので「光」をつかってコミュニケーションをしています。



しんそう世界だいすきクラブのみなさんへ

師範から一言！

4月からの活動の様子が写真で綴られ、1年間の様子がよく分かる新聞に仕上げることができました。みんなの活動の様子とあわせて、生きものの写真も取り込んでくれているので、その自然状態も推測できました。

特に印象に残った記事は、7月の保和苑観察会です。ヘビトンボの幼虫が観られるなんて、すごいですね。ヘビトンボが住むには、きれいな水の流れが必要ですから、豊かな自然が残されている場所ですね。水戸の市街地に、このような自然があるなんて驚きです。セミの抜け殻には、ニイニゼミがありました。7月に観察したので、このセミの抜け殻が多かったのでしょう。季節感も感じられる報告でした。

紙面の下半分はエコプロ(環境とエネルギーの未来展)について記されているので、取材した報告かな？さまざまな企業の取り組みを、図を使い分かりやすく記述してくれました。手書きの絵が工夫されていて感心しました。

1年間、いろいろな活動ができましたね。今年はどういうことにチャレンジするのか、また新聞を見るのを楽しみにしています。

とっておきのゴシンドウ★

活動の様子が分かりやすくまとめられた新聞でした。ただ、エコプロの記事は、いつ、どこで取材をしたのかなど、基本的な情報が分からなかったのもので、そのことの記述がほしいと思いました。同様の記事を記す際、次回からは気をつけてください。新聞をつくる際、誰が見るか分かりませんから、5W1H(Who(だれが)When(いつ)、Where(どこで)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように))を意識した紙面構成を心がけるとよいと思います。

また、全国の友達が、ホームページを通して新聞を見ます。誰もが活動の様子を理解できるように、これからも工夫を重ねていってください。



逆川こどもエコクラブの①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

音を利用して千波湖の環境を調べたことをまとめた新聞ですね。聴覚を利用して自然を感じ取る視点が、すばらしいと思いました。“音とひびきの風景”というタイトルもステキです。耳から感じる自然は、どのように感じる事ができたのでしょうか？いつもとはちがう世界が現れたと思います。

結果をまとめる際は、自然の音かどうかという点と、季節に左右される音かどうかという点について、まとめてくれました。その結果、虫などの鳴き声からは季節を感じたり、人工音が聞こえる場所を区別したりすることができました。何気ない風景の中でも、音を使って自然を見直すことができるなんて、とてもおもしろいと思いました。

「思ったこと」に記されていましたが、異なる季節で同じ観察をすると、ちがった風景が見えることでしょうか。ぜひトライして、その結果をまとめてほしいと思いました。次回も継続して調査してほしい内容です。

とっておきのゴンドウ★

今回の音の観察は、かんたんな方法で調べることができるものでしたが、その視点がすばらしく、楽しく新聞を見ることができました。この観察を発展させるためには、どうしたらよいでしょうか？いくつかの要素を加えると、よりダイナミックな結果が出てくるかもしれません。例えば、時間の要素を加えることです。季節によるちがいもありますが、昼と夜でもちがうはずです。また、音が出ている周辺の環境などを調べてもよいでしょう。それから、音の量をはかるのもおもしろいかもしれません。調査内容を発展させてほしいと思いました。

あともう一つ、全国の人が新聞を見ることを考えると、千波湖の位置などをくわしく記してほしいと思います。ちょっとした工夫を重ねていってください。

【やってみよう】『エコロジカルとれーにんぐ 2019！第2回:きくきく♪サウンドわーど』にも挑戦してみてくださいね！みんなのまわりではどんな音が聞こえるかな？（<http://www.j-ecoclub.jp/topics/info/201907031625.html>）



逆川こどもエコクラブの②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

昔、化学の授業で勉強した“周期表”を思い出しながら、新聞を見ている。元素には順番があつて、語呂合わせで「水(H)兵(He)リー(Li)べ(Be)僕(B, C)の(N, O)船(F, Ne)・・・」と記憶していました。新聞では、その順番通りに並べてあったので懐かしく思い出されました。元素は、周期表の位置によって特徴があります。その点についても、色分けされて見やすくなっていました。また、その元素が使われる物が記してありました。さまざまな物の材料として元素が使われていることが分かりました。

元素の中には、時に人間に害を与える可能性があるものもあることが分かりました。原子力発電に使われているウランなどですね。東日本大震災で生じた原子力発電所事故は、未だに復旧していないので、元素の力は時に恐ろしくもなりますね。

元素について改めて知る機会になった新聞でした。

とっておきのゴンドウ★

元素を表にして記してくれました。元素の利用方法が記してあったので、身近な物として意識することができました。

一方で、化学の周期表を見れば分かる内容がありました。周期表から離れて、人間と元素の関係などをくわしく知りたいと思いました。たとえば、福島原発の事故では、水戸でも放射性物質の飛散を確認したのではないのでしょうか。そのことについて、元素と関連させて記事にまとめてほしかったと思いました。より身近な事象の記事にすると、読み手は興味をわきますよね。

元素は、物質の基本です。私たちは、それらをよく知らないで使用していることが、たくさんあります。物の仕組みを知ることは大切です。元素について多くの人に知ってもらう工夫を、これからも続けてください。



茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

壁新聞を読んで、千波湖と涸沼でのビオトープづくりの様子がよくわかりました。特に、この壁新聞を見てよかったのは、ビオトープ作りの目的や活動の内容が簡潔に書かれ、そして自分たちの体験談や感想がきちんと述べられていることです。千波湖の話題では、ビオトープに植物を植える際には、しっかりと植えないと跡形もなく流されることが記されていました。自らの体験から得た知識を、他の人にしっかりと伝えたいという気持ちが、この記事から感じられました。涸沼の話題では、一年前に植えた植物が根付いたようすが記されていました。育った植物の間から、コシアキトンボやアオモンイトトンボが飛び立った様子を見たときは、とても感動したのだらうと想像することができました。また、ビオトープの活動をいつ行ったのか、活動日がきちんと書かれていました。活動の様子が、ていねいに作文されていて非常に読みやすい記事でした。これからも、読んでわかりやすい記事づくりに心がけてください。

とっておきのゴシドウ★
千波湖と涸沼のビオトープづくりの様子を左右に分けて、そして写真を取り入れながら、壁新聞づくりをしてくれました。記事の内容が分かりやすく、活動の様子がとてもよくわかりました。ビオトープという言葉を知らない人のために、その説明をした点も工夫のひとつですね。さらに壁新聞のグレードをアップするためにアドバイスすると、写真にキャプションを入れることを提案します。今回、カメやトンボ、活動の様子などの図や写真を貼ってくれました。でも、それが何の写真なのか残念ながら分からないものがありました。例えば、カメの図に「植物を植えたビオトープにいたカメ」というようなキャプションを付けると、新聞の情報がふえます。図や写真からも、情報を得ることができますから、充実した紙面構成ができるのです。次回、壁新聞をつくる時には参考にしてください。活動の様子をまとめて壁新聞作成に取り組むのは、逆川エコクラブの恒例の行事ですね。まとめることで、活動の振り返りができます。次の壁新聞も楽しみに待っています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブの④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

「常磐の森」再生プロジェクトの概略が分かりました。常磐の森は、水戸の市街地に隣接していますが、雑木林や湿地が広がる自然豊かな森ですね。偕楽園にも接していますから、双方をあわせると、とても広い緑地となります。その常磐の森が、放置されていたということで、再生プロジェクトが始動したことが分かりました。前と後の写真がありましたので、変化の様子がよく分かりました。あわせて、作業はたいへんだったなど、想像することもできました。水の流れを改修したり、卵を放流したりすることで、ゲンジボタルの成虫が飛び回するような自然をつくることもできました。今後の活動も期待しています。

とっておきのゴシドウ★
「常磐の森」再生プロジェクトについては、知らないことが多かったので、この記事でその様子が分かりました。ただ、概略しか示されていなかったの、具体的にどんな活動をしたのか、くわしく知りたいと思いました。特に、常磐の森をどのような環境にしたいのかについては興味があります。管理方法によっては森の様子が大きく変わります。どんな森にしたいかという、ランドデザインのようなものがあるといいですね。ゲンジボタルが飛ぶ環境をつくるのが目標ではなくて、そのような環境をつくることで、どんな環境を復元させるかということが大切です。機会をみつけて、紹介していただく。それから、言葉の使い方で気になることがありました。ホタルの発生を、“再生”としていますが、もともといた生きものが復活したのか、他から持ってきた生きものかで、言葉の使い方が違うと思うので、注意してください。また、他から生物を持ち込んだ場合は、移入種(外来種)となるような場合もあります。自然再生には、いろいろな考え方がありますから、それらも考慮したプロジェクトを推進してってください。期待しています。



逆川こどもエコクラブの⑤の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
涸沼(ひぬま)の歴史がよく分かる構成になっていました。時間の経過を示したオレン
ジの帯から時代順にトピックが記されているので、涸沼の変遷(へんせん)がよく
分かりました。特に、形の変化を見ると、縄文時代や弥生時代は海とつながっていた
涸沼が江戸時代には湖化して、東北地方からの物資を運ぶための船が行き来する
ようになります。昭和になると干拓が進み現在の形になります。涸沼は、人の生活と
関わりながらダイナミックに姿を変えてきたのですね。
そのような大きな時代の変化の中でも、たくましく生きてきた小さなトンボのヒヌマイト
ンボがいることもおどろきです。ヒヌマイトンボは汽水に生息するというので、発
見されるのは近年になってからです。水辺の環境は、人との関わりで改変されやす
いところですが、有史以前からずっとヒヌマイトンボは生きてきました。生きも
ののたくましさにも思いを寄せて、涸沼の歴史を考えてほしいと思いました。
涸沼は、ラムサール条約にも登録されました。これをきっかけに、より多くの人に涸
沼を見守ってほしいですね。これからの、みんなの活躍を期待します。



とっておきのゴンドウ★
涸沼の特長を、分かりやすくまとめることができました。壁新聞として見ると、ちょっと体裁を工夫することができそうです。新聞
は、見出し、リード文、本文などから構成されます。そのことを考えると、タイトルを見出しや小見出し風にアレンジすることができ
ます。伝えたい内容にもよりますが、“海とつながっていた涸沼”とか、“東北と江戸をつないでいた涸沼”などの見出しをつけて、
解説するのもひとつの方法です。また、囲み記事などで、小菅先生のお話の内容などを掲載してほしいと思いました。
新聞としてみると、いろいろ工夫できると思います。この次に、まとめることがあったときは、新聞の配置を思い浮かべ
ながら紙面構成を考えてみてください。次も、楽しみにしています。

逆川こどもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
英宏の泉に生息するゲンジボタルとヘイケボタルのちがいを紹介してくれました。体長
や生息場所のちがいを、左右に並べて一目で分かるようにしてありました。簡潔、明
瞭で、見やすい紙面になりました。
ゲンジボタルは流れのある小川に生息するのに対して、ヘイケボタルは流れのない水
田のような所に生息しますね。それを考えると、英宏の泉は、小川の流れのような場
所も、水田のような止水域もあるのかな？多くの生きものが生息するには、多様性に
富んだ環境が必要ですから、その一端をのぞいたようか気がしました。
英宏の泉は、ホタル復活までの活動など、とても注目されている場所です。これから、
どのような取り組みをしているのか、みんな考えてみてください。



とっておきのゴンドウ★
ゲンジボタルとヘイケボタルを説明するポスターとして見ると、簡潔で見やすい紙面構
成ですが、何かを伝えたい壁新聞であることを念頭に置くと、ちがった紙面構成が考
えられます。
今回は、ゲンジボタルとヘイケボタルを調べてくれましたので、“両種が生息するすば
らしい環境があること”が、伝えなかったことだと思いました。そうすると「2種のホタル
が生息 ～多様な環境が英宏の泉に～」のような見出しができます。英宏の泉を知ら
ない人もいますので、その概略説明も必要ですね。英宏の泉でゲンジボタルがいる場
所とヘイケボタルがいる場所のちがいを、地図で示したりするとより実感がわきます。
図鑑で調べるほかに、英宏の泉のオリジナルの話を、とても知りたくなりました。ま
た、英宏の泉が、将来どのような姿になってほしいか考えてほしいと思いました。英宏
の泉での活動の報告を、楽しみにしています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
プランクトンは、はじめて見たのでしょうか？けんぴきょうなどの道具を使ってみる小さなプランクトンの世界は、とてもおもしろいですね。
かべしんぶんでは、みどりいろや、ふかみどりなどの、いろがついているプランクトンと、それがいプランクトンがいることが、わかりました。とても、たいせつなことに気がついたと思いました。プランクトンには、草のように光をあびて育つなかまと、どうぶつのようにえさを食べて育つなかまがいます。そのくべつを、しっかり行うことができました。すばらしいと思います。とくに、みどりいろのものは、うごかないことに気づいたことに、かんしんしました。
それから、プランクトンのスケッチが、すばらしいです。とくに、ゾウミジンコとミジンコのちがいなどは、よくかんさつしていると思いました。
これからも、いろいろなことに、きょうみをもって、しらべていってください。そして、また、しんぶんにとまとめてください。



とっておきのゴシンドウ★
一生懸命にスケッチした様子をうかがうことができました。スケッチをすることは、物をよく見ることに繋がります。小さな生きものの世界ですが、そこにも多様な世界が存在することに気づいたのではないのでしょうか。新しい世界を知ると、新しい見方や考え方が身につくものです。これからも、いろいろな体験を味わうことをおすすめします。
新聞の体裁を考えると、いつ、どこでなどの内容が記されていると、よいと感じました。まだ、小さいお子さんと思われるので、新聞の構成にとられることはありませんが、データを残すことは、とても大事です。基本的な記録は残すような心がけをしていってください。これからの活躍を期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
英宏の泉は、放置されていた沢を清掃し、ホタルが飛び交うまで環境を再生したことで知られています。いろいろな所で、活動の様子を知ることができますが、沢の水質をきちんとまとめた報告は、はじめてでしょうか？沢の上流から下流にかけて、万べんなく調査を行っていることが見て取れました。また、生物の種組成から水質を見極めていた点は、生きものを大切にしている会の趣旨にも合致しますね。下流より上流がきれいだという発見もありました。なぜ上流はきれいなのかななどの理由を、これから突き止めてほしいと思いました。
これからの活動も期待します。



とっておきのゴシンドウ★
科学的な観点と、新聞的な観点の双方から、壁新聞を見直してみましよう。それでは、まず科学的な観点から紙面を振り返ってみましよう。まずデータの扱いを正確にしたいと思います。そのために、調査の方法や、「いつ・どこで・だれが」といった記録を正確に記したいと感じました。また、多く人は水生生物の名前を知らませんから、写真には名前がほしいですね。細かくなってしまうかもしれませんが、参考にしてください。
次に、新聞的な観点で見ると、タイトルの工夫が必要でしょう。読んでほしい内容に焦点を当てた“見出し”がいいですね。今回の新聞だったら「自然豊かな英宏の泉 ～生物調査で判明～」のような“見出し”はどうでしょうか。
面白い内容なので、工夫次第でいろいろなアイディアが浮かぶと思います。みんなに何を伝えたいか、伝えるにはどうしたらよいかを考え、紙面の構成を考えてみてください。さらなる発展を期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

サケについて、クイズ形式にまとめてくれました。“サケが卵を産む場所？”“どうして海に行くの？”・・・など、みんなが知りたいような内容を示してくれたので、とても楽しく読むことができました。壁新聞は、読み手に興味を持ってもらうことが大切です。楽しく読むことができる工夫がありました。Goodです！

それから、サケの稚魚のお腹にあるオレンジ色の袋みたいなものは「さいのう(臍嚢)」ということも知りました。専門家でしか知らない言葉ですね。よく調べたと思います。サケの稚魚が、海に行くわけも知りました。海に行くことは知っていたのですが、どうしてなのか理由は知りませんでした。「チコちゃんに叱られる！ - NHK」の問題にもなりそうですね。

身の回りの自然現象をもう一度見直して、チコちゃんにしかられないようにしたいと思いました。

とっておきのゴシドウ★

興味がわくようなクイズを設定してくれたので、サケの生態について楽しく知ることができました。みんなが、楽しそうに壁新聞をつくっている様子も目に浮かびました。いろいろなことが、新聞を見ながら想像できたのですが、なぜサケについて調べてくれたのかと疑問に思いました。

逆川こどもエコクラブのみんなは、桜川に遡上するサケについて、長年調査や研究をしています。そこで、この壁新聞をつくろうと思ったのだと思います。壁新聞は、大勢の人が見ます。逆川こどもエコクラブの活動を知らない人もたくさんいると思います。そこで、みんなの活動をアピールするためにどうしたらよいかを考えることも大切です。クラブの活動の様子も書き加えるとよかったですと思いました。こんど作成するときは、クラブの様子も記入してください。みんなの活動の様子を、これからも壁新聞にまとめていってください。楽しみにしています。



茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

千波湖に生息する生きものの様子が、一目で分かるように工夫されていました。特に外来種と在来種に分けて書かれていたので、現在の千波湖の課題も明らかになりましたね。

記事の中では、コイやテナガエビ、ウナギについて詳しく調べられていたので、興味がわきました。コイが外来種であることは、知らない人も多いと思います。もっと、たくさんの人に知ってもらいたい内容です。テナガエビは、食べ方に注目したのが面白いと思います。そして、ウナギの体が黒い理由が分かりました。ただの日焼けであったとは知りませんでした。興味深い内容が、たくさん書かれていました。

まとめでは、思ったより在来種が多かったという調査の結果を記してくれました。自然が回復しているのでしょうか？これからも、千波湖の環境を調査し保全を続けていってください。

とっておきのゴシドウ★

楽しい記事が書かれていました。ただ、初めて見たときに中央の千波湖に目が行ってしまいました。千波湖の形に似せたものだと思いますが、中央に何も書かれていないエリアが存在するのは、紙面の構成上、もったいないと思いました。

今回の紙面で、コイとテナガエビ、ウナギの記事は、とても面白いものでした。これらの内容が、他の種にも反映されると、とても内容がある壁新聞に変身できると思います。

クイズ形式にして、壁新聞としてまとめるのもよいでしょう。

それから、なぜ千波湖の生物について壁新聞にまとめたいと思ったのか、逆川こどもエコクラブの活動の経過も含めて知りたい内容です。みんなががんばって活動している様子を、壁新聞に加えてみてください。全国のこどもエコクラブの友達にアピールできると思います。これからも、活動をがんばってください。



茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
せんばこにすんでいる生きもののしゅるいが、わかりました。たくさんの魚がいることがわかりました。魚は、ざいらいしゅと、がいらいしゅに、わけられることも、よくわかりました。せんばこの場所や広さ、ふかさをしらべてくれたので、どんな湖なのか、よくわかりました。
つりをしたり、あみですくったりしてしらべたことを、“まとめ”に、書いてくれました。エビやモツゴがたくさんとれて、よかったと思います。それから、たくさんのしゅるいの、魚がくらししていることも、かんじとることができました。とても、きょうな体けんを、することができました。
これからも、みんなといろいろな活動をつづけてください。そして、かべしんぶんに、まとめてください。

サポーターへのとおきゴシドウ★
子どもが感じとつとことを、一生懸命にまとめる様子を思い浮かべることができました。写真を見ても楽しく活動している様子うかがえました。生きものを在来種と外来種に分けて考えることで、自然保全について幼少より感じさせることができました。自然への感性が養われると思います。これらの活動を続けてほしいと思いました。
壁新聞にまとめるに際しては、大人の手が入ると思いますが、できるだけ子どもの力を引き出すように工夫してほしいと思いました。生きものの種については、図鑑か何かのコピー？をはって、まとめてくれました。小さいお子様のように、種名だけ記入させることでも十分だと思います。無理せず、子どもらしさを前面に押し出してください。お子様の感想を、もっと記入するのもよいでしょう。
全体的には、千波湖の切り抜きが大きく、目立ちすぎました。この中には、所属クラブの情報などを記しておくといでしょう。これからの活動もがんばってください。



茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:千波湖の一日と音とひびきの風景

逆川こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
せんばこと、ひぬまにすんでいる魚の、しゅるいのちがいが、わかりました。ひぬまには、海にすむような魚がいることも、わかりました。ひぬまは、海とつながっているからですね。
せんばことひぬまの形を、色がみでできてくれました。とてもわかりやすかったです。
また、いっしょうけんめいに、魚をスケッチしてくれました。とても、よくかけたと思います。
それから、せんばこにも、ひぬまにも、がいらいしゅの魚がすんでいることが、わかりました。この魚たちを、どうしたらよいか、逆川こどもエコクラブのお兄さんやお姉さんと、かんがえていってください。これからも、いろいろなことにかんしんをもってください。そして、かべしんぶんに、まとめてください。まっています。



サポーターへのとおきゴシドウ★
子どもたちと保護者の方がいっしょになって、まとめている様子が目に浮かびます。魚のスケッチも、一生懸命に描くことができました。まだ小さなお子様のように、外来種の意味などは、理解できないと思います。しかし、自然と触れ合う体験は、子どもの心の奥深くに刻まれると思います。これらの体験を積み重ねることで、自然への感性が養われるでしょう。活動を続けてほしいと思いました。
壁新聞にまとめるに際しては、大人の手が入ると思いますが、作成の過程でできるだけ子どもとの“かかわり”を大切にしてください。今回の新聞には、魚のカードが多用されていました。壁新聞をつくる際に、カードを見ながら「タイリクバラタナゴは、外来種ですか、それとも在来種ですか？」と質問したりすれば、たとえ意味がよくわからなくても、心の奥には何かが刻まれるはず。お子様と“かかわり”を重視され、逆川こどもエコクラブの活動に参加されることを期待します。
これからの活動もがんばってください。

龍ヶ崎市環境楽習講座のみなさんへ
師範から一言！

今年も夏休みの環境楽習講座の新聞を作成してくれてありがとう！活動の様子がよく分かります。今年は、“エコ・ファーストパーク見学”と、“親子 de エコ・クッキング”のふたつの活動が、分かれて記されており、とても見やすい紙面にまとめることができました。

エコ・ファーストパークでは、巣箱づくりをしたり、風の家を見学したりしたようですね。巣箱づくりでは、生きものといかにつき合うかを考えることができました。人と鳥が共生できる社会にしたいものですね。風の家では、地球環境を考えることができました。自然の風を利用して換気をする様子が理解できたのではないでしょう。

エコ・クッキングでは、無駄のない料理方法を学びました。親子での活動だったので、家族ぐるみでエコロジーについて考えることができました。美味しい料理ができたことも分かりました。

これからも活動を続けてください。新聞を楽しみにしています。



とっておきのゴンドウ★

活動の感想をまとめることで、その内容を深めることができていると思います。これからも続けてほしいと思いました。

いろいろな人が関心を持って新聞を見るための方法を少し考えてみましょう。ひとつは、活動の写真を大きくして、目を引くような紙面構成にする方法があります。目を引くと思うと、感想を書く分量が増えるかもしれません。写真の大きさにメリハリをつけるのです。試してみてください。

それから、全国の人も見るといふ新聞ですから、会の紹介や龍ヶ崎の位置などを記したりするのも、工夫のひとつですね。次回、新聞をつくる時には、考えてみてください。

八溝自然たんけんたいの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

大子町の自然の様子が、よく分かる新聞です。中でも、新聞タイトルにあるサシバの目撃情報は、皆さんが直接観察した結果ですから、リアリティがあり訴えるものがありますね。目撃情報が春に集中しているのは、夏鳥として飛来した様子を、上手く観察できたからでしょう。大子町の豊かな自然の中で、子育てを行うサシバが想像できました。

新聞では、サシバが暮らしている里山の様子も紹介してくれました。風景と共に、そこに生息する動植物の写真をはってくれたので、大子町全体の様子を思い浮かべることができました。季節の移ろいも分かりました。冬の大子町もいいですね。「サシバの里山生きものしらべ」や「夏休み学習会」の記事では、たくさんのメンバーが熱心に活動していました。座学と体験の時間があり、有意義な研修が行われていて感心しました。

サシバを含めた多くの生きものが生活できるといいですね。サシバを通して、自然の繋がりなど、多くのことを学んでいってほしいと思いました。これからの活動もがんばってください。

とっておきのゴンドウ★

活動の様子や、大子町の豊かな自然の様子がよく分かるように工夫された新聞です。この新聞が、こどもエコクラブのホームページから全国に紹介されることを考えると、少し工夫した方がよい点があります。

読者がこの新聞を見たとき、生きものが豊富に生活している大子町に興味を持ったはずですが、そこで、大子町はどこにあるのかな？と思うのではないのでしょうか。全国の人にも分かるような、地図があつたりすると、一段と興味がわきますね。訪れてみようと思う人も、いるかもしれません。どんな人が読むのか想像しながら、紙面を構成してみましょう。

それから、子ども達の新聞をつくっている様子が分かるように記す事も大切ですね。さらなる活動を期待しています。



ボーイスカウト宇都宮第 15 団 1 組のみなさんへ
師範から一言！

この壁新聞を作る際に工夫した所が、絵や色を使ったとのことですが、その工夫がよくわかり、とても読みやすい壁新聞でした。文章もとてもいいに書かれていると思いますし、文字も時間をかけて、ていねいに書いていたのではないのでしょうか。読む人に親切な壁新聞だと感じました。

豊郷地区のごみ拾いでは、非常識なごみがたくさんあったようですが、宮床湿原ではごみがなかったのですね。元々ごみがない場所だと、「自分も捨てないようにしよう」という気持ちになるのでしょうか。豊郷地区でもそういう人が増えるといいなと感じました。開拓者ゲームでは、あきらめないことの大切さを学びましたね。那須町を開拓した先祖のみなさんのあきらめない気持ちのおかげで、今の那須町があると気づいたことはすばらしいと思います。先人のチャレンジ精神を受け継いでいきたいですね。

とっておきのゴシドウ★

みなさんの壁新聞には「いつ」「どこで」「何をした」ということがしっかり書いてあり、とても読みやすいです。さらに「思ったこと」が書かれているのがとてもよいです。読む立場になると、意外(?)に、この「思ったこと」という部分が興味を引きます。読む人に共感や発見を与えられるからかもしれませんね。これからはぜひ、「思ったこと」を大切にすることを続けてほしいと思います。



ボーイスカウト宇都宮第 15 団 2 組のみなさんへ
師範から一言！

年間の活動も楽しかったと思いますが、何よりこの壁新聞をとて楽しみながら作れたのではないのでしょうか。小さい絵がいっぱいあって、思わず笑ってしまいました。

8 月からは毎月キャンプやハイクに出かけているのですね。場所や季節がちがうと発見することも色々あったと思います。メンバーとも仲良くなれて、ステキな活動だなと思います。夏キャンプでは、魚をさばいたとのことですが、大変だったことはどんなことですか？また、キャンプの後で、家でも挑戦してみたりしましたか？魚と私たち人間の体では、同じ部分とちがう部分があったかと思います。そういったところも観察してみるといいですね。

とっておきのゴシドウ★

エコキャンプの部分で、ごみが原因で引き起こす環境問題などがわかったとのことで、とてもよい気づきだと思います。なので、もう少し深めて、どんなことがきっかけでそれに気づいたのか知りたいなと思いました。またごみが原因の環境問題についても、身近な問題なのか、日本の問題なのか、といった具体的な例があると内容がよくわかると思います。これからは楽しい壁新聞、期待しています。

ボーイスカウト宇都宮第 15 団 3・4 組のみなさんへ
師範から一言！

どの活動も自然の中で楽しそうですね。家や学校ではできない活動を存分に楽しめた様子が伝わりました。テント設営や飯ごう炊飯など、ちょっとむずかしいことにも挑戦しましたね。挑戦して、上手くいった時はどんな気持ちでしたか？うまいかなかった部分は、次の機会に活かせるといいと思います。

2 組さんの「じゅたばた〜」新聞に対抗(?)して「いなたば」新聞。「ばた」はみなさんの名前には入っていないようですが、どんな意味があるのか興味がありました。

活動の中で、いろいろな年代のメンバーが協力しているのがよくわかります。上級生のみなさんは、これからは団をまとめていって下さいね。

とっておきのゴシドウ★

それぞれの活動について、いつ・どんなことをしたかがていねいに書かれていて、とても良いと思います。みなさんが感じたことも書かれていますが、「発見したこと」や活動をふまえて「これからやろうと思ったこと」が書けると、さらにみなさんの活動の魅力が伝わるとと思います。普段の活動も壁新聞作りも、ぜひがんばって続けていきましょう。



東峰エコキッズの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

「たがやさない畑に挑戦」の壁新聞(かべしんぶん)、ありがとう！！日本(にほん)ではめずらしい不耕起栽培(ふこうきさいばい)について、みなさんのせつめいをよんでいるおともだちに、とてもわかりやすく、ていねいにかいてくれて、とてもかんしんしました。きっと不耕起栽培にちょうせんしたいというおともだちがたくさんでくるとおもいます。不耕起栽培についてのせつめい、なぜはじめたか、草(くさ)むしりやえだまめのしゅるいごとの収穫(しゅうかく)の記録(きろく)、おいしかったえだまめ、発見(はっけん)そしてさいごにこれからの課題(かだい)まで書いてあり、とてもおどろきました。

みなさんが壁新聞をなかよくいっしょうけいめいにかんばって作ってくれたことがよくわかりましたので、「かんばったしょう」をあげたいきもちでいっぱいです。ミミズのほうこくもたくさんのでえやしゃしんでせつめいされていて、とてもめずらしく、きょうな記録(きろく)ですね、ありがとう！！これからミミズのことでわからないことがあったときには、この記録(きろく)を図鑑(ずかん)としてつかいたいとおもいます。

とっておきのゴシドウ★
みなさんのおもい、たのしかったこと、むずかしかったこと、くろうしたことなどのかんそうをみなさんの「ことば」や「じ」でかいてくれるとうれしいです。



栃木県宇都宮市 環境未来館こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル: エコたんけんしんぶん

19-09-05

環境未来館どもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！
1年間、いろんな活動でがんばりましたね。どの取り組みも楽しさが伝わってきます。しかも、楽しみだけでなく、いろいろな所で、日本の貴重な生き物の保護や、農業のお手伝いになることを、地元の人と協力して取り組んだんですね。農家の人も、貴重な生き物たちも、喜んでくれたことと思います。タガメやトウキョウサンショウウオなど貴重な生き物に出会えたのは、みんなへの“ごほうび”ですね。これからも、ぜひ、続けてくださいね。
身近なところで自分たちで火を起こして、料理する機会はなかなかできなくなっています。貴重な体験ですね。買って食べるものと、おいしさもちがったのではないかな？どうでしたか。
イベントでの、ザリガニ釣りも良いですね。周りの人にも、体験の場をプレゼントすることで、自然に関心を持ってくれる人が増えるかもしれませんね。

とおきのゴンドウ★

たくさんの内容が、コンパクトにまとめられていて、それぞれがわかりやすく表現されていると思います。ただ、時系列とは関係なく、それぞれの取り組みが配置されていますが、季節の流れに沿って、ぐるっと配置するなどしたら、エコクラブの活動全体ももっと視覚的にも、とらえやすくなるのではないのでしょうか。カブトムシやセミなど、地中の様子も描かれています。カブトムシなどに焦点をあてて、ずっと成長の観察などもまとめてみると面白いのではないのでしょうか。（フクロウなどは、繊細なので、十分注意が必要ですが。）

他団体との連携も多いです。世話役は負担も小さくないと思いますが、子どもたちには貴重な体験の場がつかれます。これからもうがんばってください。



清原ねいちゃーきっずのみなさんへ
師範から一言！
はる、なつ、あき、そしてふゆの一年間(いちねんかん)、毎月(まいつき)のたべものについて「育てるよろこび、食べるよろこびを感じよう」というテーマの「清原エコ新聞」は、いろいろなわくわくするわだいがいっぱいあり、毎月たくさんのことにチャレンジしてくれたことに、とてもかんしんしました。おつかれさま！！毎月、いろいろな野菜(やさい)をうえたり、そだてたり、しゅうかくしたり、クッキングしたりして、自然(しぜん)とともにたのしく生(い)きていると感(かん)じる活動(かつどう)ですね。うらやましい！！
壁新聞(けべしんぶん)をよんでいるおともだちがみなさんといっしょに活動したくなりますね。鬼怒川清掃活動(きぬがわせいそうかつどう)で国土交通省(こくどうこうつうしょう)からのりっぱな感謝状(かんしゃじょう)、おめでとう！！ゴミのすばらしい分別活動(ぶんべつかつどう)もいっしょうけいめいにかんばりましたね。このようないろいろなたのしい活動をおともだちといっしょになかよくこれからもずっとつづけていってほしいとおもいます。

とっておきのゴシンドウ★
このようなすばらしい自然たいけん活動ができたことは、まわりのせんせい、おうちのひと、おともだちからのきょうりょくがあったことをわすれないでほしいとおもいます。そしていちばんたいせつなゆたかな自然にもかんしゃして、いつまでこの自然をまもっていきましょう！！



イオンとちぎチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！
エコプロダクツ 2018 見学での楽しい活動についてまとめられていますね。「エネルギーを学ぼう」がテーマのようで、それに関する展示を行った会社のブースを見学してきて、まとめてくれました。みなさんも見学して分かったことと思いますが、エネルギーを扱っているどの会社も「省エネ」について考えています。ただエネルギーを作って売ればいいというわけではなく、いかに無駄なものをなくしていくか、そして地球環境のために何ができるかをどの会社も考えるようになったのですね。
エコプロダクツを見学することにより、省エネの大切さに改めて気づいてくれたのではないのでしょうか。これからもみなさんの「省エネ」活動に期待しています。

とっておきのゴシンドウ★
クラブの 2018 年度のテーマは「エネルギー」で合計 13 回も活動を行ったそうですね。年間を通して活動を行うことはとても大切なことです。この点はとてもよいことだと思います。その一つとしてエコプロダクツ見学もあったのですね。では、栃木という場所で、みなさんはどのような「省エネ」のための活動を行いますか？ 栃木県にもそのような活動をしている団体はたくさんあると思いますし、みなさんたちの活動もどんなことを行ったのか、知りたいです。次回は皆さんの住む栃木県、みなさんの家、のエネルギーに関する新聞を期待しています。



真岡児童館やさしクラブのみなさんへ

師範から一言！

「わたしたちの学びの場 in 磯山」の壁新聞、ありがとう！！四季折々のいろいろな活動の記事がいっぱいの壁新聞です！！一つ一つの記事を読んでわくわくしてきて、今にも磯山に飛んで行きたくなるすばらしい壁新聞です！！

壁新聞のテーマが「磯山の春夏秋冬」、「自然の楽しさ」、「自然のおいしさ」、そして「昔の生活」に分かれていて、それぞれの自然体験活動の楽しさやチャレンジをこの壁新聞を読んでくれているおともだちに伝えたいというみなさんの気持ちが十分に表れていますね。本当に自然は様々なすばらしいことを教えてくれますね。

「まとめ」には、磯山での自然活動の魅力がとても上手にまとめられて感動しました。特にこの「まとめ」には、森林保全活動の基本が書いてあり、『これからずっと大好きな磯山の貴重な自然を守るためのゴミ拾い、林の手入れ、植樹などをしたり、「私たち学びの場のいそ山」を未来へ残すため、これら自分たちにできることを続けていきたいと思います。』というのもしメッセージは心に深く残りました。

次回の壁新聞に磯山に関してどのような記事を紹介してくれるか、わくわくして楽しみにしていますよ！！



とっておきのゴシドウ★

みなさんの磯山の自然体験活動は日本における自然保護活動の代表的なお手本になるかも知れないので、これからも磯山の自然を大切に守りながら、ずっとこのようすばらしい自然保護活動を続けて、ぜひ小さい子どもたちにも引き継いで欲しいと思います。

栃木県大田原市 ガールズ

壁新聞のタイトル: ガールズはこんなエコ活動しているよ

19-09-09

ガールズのみなさんへ

師範から一言！

ガールスカウトの活動の中に、しっかりと組み込んで継続して取り組んでいるんですね。ハチドリの話、3Rの話など、しっかりと環境のことを学んでいることが伝わってきます。また、いろいろなイベントなどにも積極的に出展し、いろいろな啓発活動をしているのもすばらしいと思います。

生き物を指標にしたの水質調査はどうでしたか？ 一見不気味な生物も、豊かな自然環境が守られていることの証拠だったりすると、だんだん可愛くなってきませんでしたか？ 本物と触れ合うことって大切ですね。足尾の植樹も、長く続けているのですね。もう最初のころ植樹した場所では、カモシカやクマも現れるようになってきました。でも、足尾全体では、まだまだ粘り強い取り組みが長く続きます。私も、参加しているので、足尾で会っているかもしれませんね。お互い、これからはがんばりましょう。

とっておきのゴシドウ★

黒をバックグラウンドにした色使い、すごく見やすい感じに仕上がっていて素敵だと思います。黒が、効いていますね。タイトルの配置も、インパクトあって、中身を読みたくなります。また、ハチドリの話と合わせて、みなさんの宣言も書かれているのも、みなさんの気持ちが伝わって良いと思います。

それぞれの取り組みもきちんと簡潔に説明されていて、わかりやすいのですが、欲を言えば、その時のみなさんの気持ちなども、もっと知りたかったなと思います。もう少し、そんなコメントなどを増やしても良いかもしれませんね。



森の小人のみなさんへ

師範から一言！

ガールスカウトの活動の中に、しっかりと組み込んでいそくして取り組んでいるんですね。みなさんは、1年生から3年生とのことですが、お姉さんたちのクラスともいっしょに取り組んでいるのかな？ キャンプでは、カレーなどおいしくできたみたいですね。水の中のいきものはかわいかったですか？ 初めて見るいきものも多かったと思いますが、だんだん、かわいくなったかな？

足尾の植樹も、長く続けているのですね。もう最初のころ植樹した場所では、カモシカやクマも現れるようになってきました。みんなも、会ったことあるかな。いま植えているところにも、早く戻ってくると良いですね。私も、参加しているので、足尾で会っているかもしれませんね。まだ、これからも、何十万本も植えないと、足尾は元に戻りません。お互い、これからもがんばりましょうね。

とっておきのゴシドウ★

色使いがすてきですね。ハチドリ(ですね)も、インパクトあって、かわいくとても良いです。すなおな感想も、たくさんあって、みんなの気持ちが伝わって、とても良いと思います。

せっかくのみなさんの気持ちが書いてあるのですが、書きたいことがいっぱいあって、ちょっとスペースが少なかったかな？ 少したくさん書かれすぎて、ちょっと読みにくかったです。全体を見ると、レイアウトの工夫などでも、もう少しコメントの部分を広げられると思います。コメントの量を維持しても読みやすくていいのではないのでしょうか。検討してみてください。



高崎イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

エネルギーをテーマにしてどうでしたか？ 大人でもむずかしいテーマだと思います。リターナルコンテナを使ったら、エネルギーがどうなるかを説明するのはむずかしいですよ。今度の新聞では、なぜエネルギーに関係するかを全国のこどもエコクラブのみんなに壁新聞で教えてあげてください。

エコ農業もおじさんも興味あります。どんな工夫がされていたかも壁新聞で日本中のこどもエコクラブのみんなに教えてほしいです。

水のことや肥料のことや土のことやいろんなことも全てエネルギーに関係します。

壁新聞に書いてくれていた、「エネルギーは大切！ 省エネを考えながら生活しよう！」が本当に大事なことでわかりやすく良くできていると思います。

ダムや高校の見学でもいろんなことがわかったと思います。

リサイクルできるものが落ちているのを見つけたこともえらいと思いますが、ごみやものをポイ捨てしないようにすることや、ごみをふだんから減らすように暮らすことが一番たいせつだからみんなもそうしてください。

壁新聞やポスターをかいいたりしてまちのみんなに呼びかけることもだいじですよ。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

エネルギー問題は世界の課題ですね。

わかったつもりになっても、自分との繋がりや具体的に自分ができることはむずかしいと思います。

子ども達と一緒に、自分事として何が出来るか？ 何を今から取り組むかを考え、是非ともポスターをかいいたり、壁新聞にしてみんなに呼びかけることが大事だと思います。できたら、子ども達とどうしてそうなのかを深めて、それを壁新聞で紹介したら全国のこどもエコクラブの仲間や高崎イオンチアーズクラブの仲間の学びにも良いと思います。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからも是非、こどもエコクラブの活動でも頑張ってください。



スター☆クラブのみなさんへ
師範から一言！

一年をとおして、「みどり」「生活」「あそび」などのいろいろな視点から、エコなとりくみを自分たちで考えて、実行しているのはすばらしいですね！

涼しげなグリーンカーテンは、夏の暑さから多くの人を守ったろうし、エコリンピックは、「ちょっとめんどくさいなあ」と思っている人の多いごみの仕分けが、楽しいオリンピック競技に大変身することを教えてください。

それぞれが、文字と写真、イラストでかみ記事としてわかりやすくまとめられているので、「こんなことも、あんなこともやっているんだ！」と、みなさんの充実した活動にどんどん引き込まれていきました。

『スター☆クラブ』らしく、☆の形で「エコポイント」がまとめられているのも、よい工夫です。パッと目がいくので、みなさんが伝えたい大事なポイントが、しっかり頭に入ってきましたよ。

とっておきのゴシンドウ★

最初に新聞を見たときに「真ん中のかわいいキャラクターはだれかな？」と考えました。調べてみたら、太田市の『おおたん』でした！大好きなキャラクターだから描かれていると思いますが、東京にいる私は知りませんでした。壁新聞はインターネットで公開されれば、世界の人たちがアクセスできます。名前などを書いておくといいですね。

同じように、読んだ人に「？」と思わせない、工夫できるところがもうちょっと・・・例えば、グリーンカーテンに使ったのはアサガオですか？こんなにみごとに育てたのですから、植物の名前は教えてほしい情報です。児童館に植えた「日日草」のように種類がわかると、「私のまわりも、あんなふうにきれいなお花でいっぱいになりたい！」と植える人も多いと思います。

新聞には、名前や数字(エコクッキングの分量など)を正確に入れておきましょう。みなさんの活動を読んだ人が共感し、その輪がどんどん広がっていくなんて、すごいことだと思いませんか。



しらさわエコキッズクラブのみなさんへ
師範から一言！

がんばりましたね。引き込まれて夢中で読みました。ストーリーがあるので絵本か紙芝居のようでした。ここまでまとめるのは、時間もかかったでしょう！きっと、「しらさわエコキッズクラブ」の仲間のお友達やサポーターのみなさんとも意見交換を一杯したのでしょう。今度は、みんなで絵も描いてみたいと思います。楽しいよ！

大きな紙芝居にしたら、またブースを出したり、発表する時にも使えると思います。大人の人にも聞いてもらって、考えてもらってほしいと思います。

おじさんも紙芝居や絵本を作っています。

壁新聞もたくさんの人に見てもらえますが、紙芝居もとても環境活動には効果があるので、ぜひ、チャレンジしてください。

プラスチックのごみは、いつまでも腐らないのでごみのままだし、小さくなったら生きものがまちがって食べて死ぬこともあります。燃やしてもガスや悪臭がでるし、リサイクルするのもエネルギーもたくさん使うので困るのです。

みんなで、どうしたら良いかもっともっと話し合って考えて実行してください。

また壁新聞で全国のこどもエコクラブの仲間を紹介してください。

とっておきのゴシンドウ★

新聞はストーリーがあって読みやすいしわかりやすいものになっていると思います。工夫できるとすれば、縦横ではなく、渦巻きにしたり、双六のように繋いでいくような壁新聞の方が、子ども達ももっと読みやすいし楽しめるかもしれません。

わかりやすい読みやすい楽しめる壁新聞にしてみんなに呼びかけることは大事だと思います。たくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。



ガールスカウト埼玉県第 58 団のみなさんへ
師範から一言！

ガールスカウトやボーイスカウトの活動は、おじさんの周りでもみることができるので応援しています。
楽しみながらがんばって将来はすてきなリーダーになってください。
自然が豊かなところで、毎日の生活につながっているテーマを選んだ壁新聞で、みんなが感じている
や感じていることや学んだことを紹介してくれているわかりやすい壁新聞だと思います。かんたんそう
ですが、大人でも本当にちゃんとできているかを考えたらむずかしいテーマだと思います。
特に、ゴミの分別はむずかしいと思います。これからもぜひ、調べて全国のみんなに壁新聞で紹介して
ください。できたら、どうやったらゴミを減らすことができるかも調べたり考えたりしてほしいです。
みんなでセンターのそうじをすることを紹介してくれています。大事なことだし、汚さないことやゴミを捨
てないことが大事ですね。おじさんは、子どもの頃に山歩きによく連れて行ってもらいましたが、「来
た時よりも美しく」と良く教えられたし、みんなで掃除を良くしました。
これからもガールスカウトの活動がんばって、壁新聞やポスターをかいいたりしてまちのみんなに呼び
かけることも大事です。みんなの活動を応援しています。



とっておきのゴシドウ★

ガールスカウトのみんなもキャンプや山歩きにいくことが多いと思いますが、ゴミになるものは重い捨てるのに困るからゴミになるものは持ってい
かないと思います。毎日の生活でも同じなのです。生ゴミサイロのことや自然にやさしいシャンプーのことも大事ですね。
みんなでやっているのかな？おじさんも20年くらいやっていますよ。またゴミを少なくするコツやむずかしいこともわかったら紹介してほしいです。
きっと生きものが沢山いて空気のきれいな戸隠の自然も守ることに繋がると思います。がんばってください。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

ガールスカウト、ボーイスカウトは自然保護や団体活動、社会教育のすばらしい活動だと思っています。壁新聞を見せて頂いたら、子ども達が自分
たちで考えながら作っていることが伝わってきます。ゴミ問題だけをテーマにし続けることは困難だと思いますが、ゴミ問題や自然保護も活動の大き
なテーマにして指導して頂ければ、環境問題の課題が解決して行くと期待します。
子ども達と一緒に、自分事として何ができるか？何を今から取り組むかを考え、是非ともポスターをかいいたり、壁新聞にしてみんなに呼びかけるこ
とが大事だと思います。できたら、子ども達とどうしてそうなのかを深めて、それを壁新聞で紹介したら全国のこどもエコクラブの仲間やたくさ
んの人に興味を持ってもらうため、これからも是非、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。

竹の子エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

こぶしの里にはわき水や雑木林があるようで、ビンゴゲームをしながら生き
ものや植物を感じることができてよかったですね。町の中にこのような良い
環境があるのはうらやましいことです。新聞にも書いてあるように、みなさん
でこの身近な貴重な自然を大切に「守って」いってください。
落ち葉はきは、カゴに入ってからかさ小さくするのが楽しそうですね。楽しみな
がらエコ活動をしていることが伝わります。
エコクッキングでは、作るだけでなく、買う・片付けるときもできるエコを教え
てもらえてよかったですね。家でもできるよう、ご家族にも教えてあげていま
すか？みなさんの家でも実行し、つづけていってください。

とっておきのゴシドウ★

新聞はみんなで分担していねいに書いて作られているのがわかります。タ
イトもそれぞれ工夫して内容を表しているのがいいですね。タイトルの枠に
色がついているのも目立って、とても見やすい新聞です。ただ、たて書きの
ところと、横書きのところがあるので、どちらかに統一するとさらに見やす
いかもしれません。
地域の自然を楽しみ、体感し、その中から環境を大切にする気持ちが育ま
れる活動を続けていってほしいことが感じられます。エコクラブの活動が地域
でも広報されているようです素晴らしいことです。地域で子どもたちのエコ感性
を育て、それが地域に伝えられて、地域を刺激して環境への関心を高める
良い循環となっていることを感じます。このすばらしい活動を継続されること
を期待させていただきます。



MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんへ

師範から一言！

今年もすてきなタイトルが付いていますね。タイトルで新聞の内容がわかります。いつも地域でいろいろな活動を長年続けているとさまざまな問題のことが知り、地球規模の環境問題にまで考えられるようになったというのは、とてもすばらしいことです。そこにはいつもの活動の積み重ねがあってこそのことですね。

MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんの活動は、町役場、教育委員会、大学生、商店会、農家さんなどとも連携しているようで、多くの人たちとの関わりを持ちながら活動が広がっていることもすばらしいです。

新聞は、まず、真ん中に大きく目立つように⇒対策 となっているのが目を引きました。現状の問題と、対策を整理されていて見やすくなっていますね。対策としては、グリーンカーテンをつくる、バッグにはマイバッグを入れておく、こまめに電気のスイッチをOFFにするなど自分たちでもできる具体的な行動をまとめていてとてもわかりやすいです。

とっておきのゴシドウ★

いま、地球は二酸化炭素の増加が大きな原因となって地球温暖化がおきています。その対策には、二酸化炭素の増加をくいとめることです。かべ新聞をかきながらみなさんも気づいたことでしょうか、省エネ、節電、二酸化炭素を吸収する森を増やすこと、自然エネルギーを使うことなどが二酸化炭素の増加の対策になり、同じことが地球温暖化の対策にもなります。地球規模の問題を知って身近な行動を変えていくことはとても大切です。

小さく書かれていましたが、毎月のごみ拾いで、ごみの量が減った、ポイ捨てが減ったのは大きな成果です。まちがきれいであるとごみが捨てられないような環境となる、良い見本です。とてもすばらしいことなので自信をもって、もっともっとアピールしていきましょう。



千葉県市川市 かいさん ず

壁新聞のタイトル:かいさんず新聞 2018

19-12-03

かいさん ずのみなさんへ

師範から一言！

家族で、身近な日常生活からエコ活動ができているのはすばらしいことです。小さいころからエコ活動を続けて、いろいろな活動をされた中で、新しくチャレンジされたことに絞って壁新聞を作られたとのこと、タイトルも大きく、項目ごとの色分けなど、すっきりとして、とても見やすくまとまっています。きれいな文字でいいねに作られているがわかります。

おみそづくりは写真付きで手順をわかりやすく説明され、布染めについても実物つきでいろいろな素材で挑戦され、自分もやってみたくまりました。

とっておきのゴシドウ★

おみそづくりも布染めも、作った中でいろいろと苦労したことも、工夫したこともあったことと思います。作業をする中でのコツなどあるのでしょうか？実際に作業してみての感想、環境との接点や思いなどについても紹介されると、さらに読まれる方にインパクトを与え、興味を引く新聞になると思います。

また、日々の生活の中で、あたりまえのように実践しているエコ活動についても、学年が変わって、長年実践していると、あらたに気づいたこと、進歩したこと、工夫したことなどもあることと思います。そのような日々のエコ活動でのちょっとした変化も紹介してくれると多くの人の参考になることと思われます。日々のすばらしい活動を周囲の人たちにもぜひ伝えていってください。期待しています。



ななちゃんズのみなさんへ

師範から一言！

テーマの通り、とても「わくわく」がいっぱいの新聞になりましたね！紙面も楽しそうに踊っています！そして、新聞のタイトルの「ちば」を超えて、いろいろなところにも行き、環境活動にも参加して全力で楽しんだ様子がとても伝わりました！

色あいや写真も工夫がいっぱいですね。一つの体験にイラストと写真のカードが掲載していますが、バランスよく配置されているので、テンポよく読むことができます。

海、山、島、里、たんぼ、川、まち！だいすきな地球にはたくさんの表情があり、たくさんの人が住んでいます。この地球を大切にしたい、と感じるすてきな新聞でした！

とっておきのゴンドウ★

とても充実した 2018 年の一年間の活動がとてもよくわかる新聞でしたね。編集後記にも、ほんとに楽しかった様子が書かれていて、その気持ちがとても強く伝わりました。

自然は見る人、触れる人に様々な表情を見せてくれます。教科書だけではわからないたくさんの情報も得ることができます。それは一人ひとりにとって大切な宝物ですよね。今回は、それが一年間の中でたくさんありすぎて、紙面には載せきれなかったと思いますが、今度は一つ一つの自然や地球のお話をもっとくわしく聞いてみたいと思いました。

また、新聞のタイトルになっている自然を通した「ちば」のことも、もっともっと知りたいと思います。ぜひ、全国のみなさんにちばの自然のすばらしさを伝えてください！



しろくまキッズのみなさんへ

師範から一言！

いろいろなところに行って、いろいろな活動ができてよかったですね。すばらしいです。

写真も多く、楽しく、なかよく、たくさんの活動をされてきたことがかべ新聞でよく伝わっています。活動中のしろくまの帽子もとってもいいですね。帽子をかぶるとエコ活動のやる気がさらに増していることでしょう。タイトル文字も、しろくまがとってもかわいいですね(苦労したことがわかります)。

牛乳パックからパルプを取り出し、楽しくはがきづくりができたようですね。作り方にイラストもあってよくわかりました。リサイクルできるものはしっかり分別してリサイクルしていかないともったいないですね。

こども環境会議ちばでは、ほかのクラブの活動の話をきいて元気が出たことと思います。環境のことを考え行動する子どもたちのなかまたちと、おたがいに良いところを伝えあって、さらに活動を充実させてください。また、そのようななかまをさらに増やしてってください。みなさんの活動が大きく広がっていくことを期待しています。

とっておきのゴンドウ★

見明川について、歴史と水質を調べられたのはすばらしいです。実際に歩いて調べてみるのが大切です。がんばりましたね。水質調査の結果でリン酸値が高いことから生活排水の影響を考えられたことなどむずかしいことまで教えてもらって良い勉強になったことと思います。

川のように、水質調査の数値だけではわかりづらいと思いますが、他の川との比較をしたり、同じ場所でも調査を継続することで異常を知ることができます。これから毎日の通学のときにでも川をよく見て、みんなで大切に守ってってください。



中央エコキッズのみなさんへ

師範から一言！

東京スクエアガーデンでは、様々なエコの取り組みがなされているのですね。フロアには、京橋環境ステーションもあり、環境活動の拠点になっていますね。今回の壁新聞では、そんなエコの取り組みをみんなで調査して、それぞれの意見を張り出したのですね。みんなの興味や反応がたくさん見られてとても面白く書かれていますね！
特に写真の掲載が多かった京橋の丘は、美しく訪問者の目を楽しませてくれるとともに、ほかの地区ともつながって、温暖化防止にもつなげているのがよくわかりました。それから、みなさんの感想をみると、省エネ活動は、言葉や交流を通して進めることが一番だと感じました。これからも環境活動については、たくさんの意見の発信と、情報の交流を進めてほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回のテーマになった「東京スクエアガーデン」ですが、とても先進的な環境活動と情報発信をしているところで、とても勉強になりました。ただ、この複合ビルのことも知らない全国のみなさんにも壁新聞で紹介するので、まずはこの「東京スクエアガーデン」について書いておくと、自分たちのまちやビルと比較でき、内容も理解しやすいと思います。それからみんなでたくさんの意見が書かれています、中には同じような意見もありますね。

例えばみんなで意見を出し合ってから、内容を説明したり、役割分担を決めながら記事を書いてみると、よりたくさんの意見や発見を紹介できたかもしれません。

特に今回は、「エスカレーター」「ごみ置き場」「京橋の丘」「太陽光地中熱」「ミスト」「防災センター」と紹介する内容が盛りだくさんだったので、みなさんのおすすめや伝えたいことをまとめてみると、よりわかりやすく紹介できたと思いますよ。



こどもエコ広場新宿のみなさんへ

師範から一言！

いろいろな活動をしたことが分かりやすくまとまっています。それぞれの活動に対して、SDGs との対応が分かるので、まとめ方に工夫していると感じました。自分が取り組んでいる活動が、SDGs のどれにあてはまるのかということに気づくことができますね。それでも SDGs を知らない人がこの新聞をみたときには、気づかないかもしれませんので、右下の「SASTAINABLE DEVELOPMENT GOALS」のところに 17 の目標のイラストをつけておくと分かりやすい気がします。
どの活動も五感(見る、聞く、さわる、においをかぐ、食べる)を使った体験がとりこんであって楽しそうですね。五感をつかうことで、知識だけでは気づかない多くの発見につながります。南極の氷がとけるとときにはどんな音がしましたか？みつろうはどんな匂いがしましたか？手触りはどんな感じですか？キャンドル作りを通して、ミツバチの自然の中での役割のことまで考えてくれたことはすばらしいです。自然にやさしい“みつろうキャンドル”を今度作ってみたいくなりました。
里山エコパークの感想で、“ふよう土がふかふかのじゅうたんみたい”と書いてくれました。落ちばをふかふかにしたのはだれでしょうか？それは、小さな生き物やミズバチたちです。落ちばはごみとしてすてなくても、土にもどっていきます。人が作り出したものには、自然の中にもどらないものがあるので、リサイクルをしてゴミをへらしています。

とっておきのゴシドウ★

同じ SDGs のイラスト「陸の豊かさを守ろう」がいくつかの活動についていますが、それぞれの活動が、どの SDGs に対応するかみんなの中でいろいろな意見がありましたか？SDGs は 17 の目標に分けられていますが、お互いの目標がつながっていることが多くあります。例えば下水道のテーマは「安全な水とトイレを世界中に」の目標が関係していることはもちろんですが、下水道では微生物がつかつやくしています。そうするとスマホ顕微鏡でみた“ミクロの世界”も関係しているかもしれません。また、下水道処理では電気を使うでしょうか？そうするとエネルギーも関係してきそうです。



にこにこエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

すべて手書きのイラストで作られていて、メンバーの一人一人の名前と似顔絵入り！「にこにこエコクラブ」の名前のとおり、みなさんが仲良く、楽しみながらエコに取り組んでいることが伝わって来ました。

1つ1つの絵が細かく工夫されているので、たとえば『サニーレタス』のタイトルは“サニーレタス”にしか見えないし(笑)、さやえんどうも、きっとBIG サイズの収穫ができたのだらう、とイメージできました。それも、あやちゃんがしっかり水やりなどの面倒をみてくれたからですね。あやちゃん、おつかれさまでした！！

(すーちゃんがぶら下がっている)稲わらのクリスマスリース作りは、アイデアがすばらしいですね。お米が主食の日本では、昔から稲は捨てる場所がないリサイクル資源でした。家も「わらぶき屋根」でしたし、実用品の「わらじ(ぞうり)」や「みの(かさ)」を作ったり、神聖なものとして「しめ飾り」などにも使われていました。クリスマスリースの発想は、しめ飾りに近いでしょうか。

とっておきのゴシドウ★

(みなちゃんが桃を探して“どんぶらこ”と流れている?)「川を比べてみた」では、都心と東北地方の川のちがいを教えてくれました。ただ「東北地方の川」は、もう少し詳しく知りたかったかな。どんな魚がいて、どういう植物が見られたのでしょうか。また、みなちゃんのおばあちゃんに川のことを聞いてみましたか？もしかしたら、自然ゆたかな川だと思っていても、昔と今ではちがいがあるかもしれませんよ。

ゴミ拾いの感想で「ここなら見えないだろう、というのがバレバレでした…」と気づいたこと、本当にその通りだと思いました。一人一人のそうした気持ちが、小さなタバコのポイ捨てから、大きな『不法投棄(ふほうとうき)』まで、世界のごみ問題につながっています。「まちにごみを捨てることは、恥ずかしい」と、みんなが思うようにするには、どうしたらいいでしょうか？みなさんで考えてみてください。



神奈川県藤沢市 大鋸児童館こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル: 藤沢エコまる Times

19-14-01

大鋸児童館こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

真ん中に落花生の絵がかいてあって、落花生ってこんなふう実になるんだなあって、よくわかりますね。落花生の成長の記録にそれがくわしく書いてありますね。花が咲いた後に土の中で実が大きくなり熟すって、本当に面白い植物ですね。発芽のとき、大豆の芽の出方と落花生とあずきでは同じマメの仲間なのに、ちがうことに気がついたなんて、すごいですね。最近野菜売り場でも売っている、出たばかりの芽を食べる「豆苗(とうみょう)」なんかはどのタイプかしら？観察してみてください。たたき染め、玉ねぎ染めは、植物を使って染めるのをやってみたのですね。私も草木染めをやったことがあります。とても自然なやさしい色に染まるので、自分の作品を作ったときはとてもうれしかったですよ。

シャボン玉づくりも楽しそう。材料をみてびっくり。ラム酒なんかも入っているんですね。

新聞は全体的に、読みたくなるようなタイトルで、タイトルごとに短い文章で書かれていて読みやすくまとまっています。見やすく、わかりやすく心がけてがんばった甲斐(かい)がありましたね。



とっておきのゴシドウ★

水の調査は毎年続けてやっているのですね。とても大切なことです。水の調査をするときには、たぶん調べるためのチューブに水を入れて、変化した色を見て調べると思うんだけど、どんなものを使って、どうやって調べたかということも、書いておくといいですね。それと、何という水の項目を調べているか、わかりますか？「COD」とか「アンモニア」とか、ちょっとむずかしいかもしれないけど、水を調べるキットに書かれていると思うので、それを書いておくといいですね。池と川とではずいぶん差があったのですね。なぜかしら？

また、だんだんと水が汚くなっているのはどうしてかしら？みんなで考えたり、調べたりしてみて、わかったこと、気が付いたこと、あるいは先生に教えてもらったことがあれば、それもぜひ書いてみてください。

玉ねぎ染めをはじめ、植物を使って染めることを草木染めといいます。玉ねぎはとても身近で材料も集めやすい材料ですね。ほかにも草木染めのできる植物はみなさんの周りにたくさんあって、実は、ほとんどの植物が染める材料になります。よく使われるのが、オニグルミの実や枝、クヌギのどんぐり、サクラの枝などなど。材料はたくさん集めないといけないけど、植物の種類によって少しずつ色がちがいます。みんなで力を合わせて集めて草木染めにトライしてみてください。あ、でも採ってもいい場所かどうか、危なくない場所かどうか、大人の人にきいてから集めるようにしましょうね。

ミツ星エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

姉妹二人でこれだけ大きな壁(かべ)新聞に取り組んでいる姿(すがた)を思い出そうとただで感動しますね。しかも環境(かんきょう)教室をシリーズで4回開催(かいさい)し、それぞれ環境のつながりを持たせたまま、インタビュー記事を環境教室で発表したという元気に、重ねてエールを送りたいと思います。汚泥肥料(おでいひりょう)⇒段ボールコンポスト⇒エコ野菜(やさい)⇒エコバッグという一連(れん)のエコ活動が呪文(じゅもん)のように理解(りかい)されているのがわかります。これ以外にどんな活動をするエコ活動になるのか、いろんなところにかくれているので、二人で考えて見て下さい。

壁新聞は中央に大きく新聞の名前を柱のように組み込んだデザインで、左に四つの環境教室、右にはおねえちゃんの提案(ていあん)と大型(おおがた)スーパーの取組がまとめて書かれています。環境教室ではじっくり読むと第一回から第四回までつながりがあることがわかります。おねえちゃんの提案は、家族で使う電気を、使用する時間を減らすことによって節電につなげようと考えて、実際に自分の部屋で使っている電気の時間を決めて、目標達成(もくひょうたっせい)した記録(きろく)です。

とっておきのゴシドウ★

魚沼市にある大型(おおがた)スーパーにおける「環境にやさしい取り組み」について4つの質問をして、タブレットで電気の消費量やもえるごみのデータ化に取り組んでいる事例(じれい)が紹介(しょうかい)されていますが、他のスーパーの回答が小さくて読み取れず、残念(ざんねん)でした。こんなときは壁新聞に、別(べつ)の用紙で表を書き貼り付けるのがよろしいと思います。



第二上田小学校エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

この新聞を読むと、タイトルのとおり、上田には宝物がたくさんあること、またみなさんが上田のことをほこりに思っていることがよくわかります。新聞を読んだ人は上田に行ってみたくはないかな(ちなみに、もしこの新聞を読んだ人が上田に来るとしたら、みなさんはどこを案内してあげたいですか？)

愛鳥の活動とそれ以外のエコ活動を大きく分けしたあと、それぞれの活動について簡潔に整理して記事が書かれているので、多様な活動内容のわりにとても読みやすい新聞になっていると思います。記事は枠で区別されていますし、また色の使い方もテーマごとに統一されていてわかりやすいです。写真がたくさん使われているのもよいですね。上田の自然の豊かさや、みなさんが楽しく活動している様子が生き生きと伝わってきます。

とっておきのゴシドウ★

今回書いてくれたさまざまな活動は毎年続けている活動でしょうか。その場合、もしかするとこれからの壁新聞も同じような記事内容になってしまうおそれがありますね。例えば、今回特に注目してほしい活動を選んで、その記事をより強調して新聞を作ってみてもいいかもしれません。新聞を作ってくれた四年生15人ならではのとくちょうが引き立つ新聞になるのではないのでしょうか。また「愛鳥」の取り組みですが、どうしてこの取り組みは始まったのかな。そしてこの取り組みが続いているコツはなんでしょう。事情を知らない人が新聞を読んだときにちょっと気になるかもしれないね。一言説明を付け加えれば、愛鳥の取り組みについてよりしっかりと知ってもらうことができると思います。



高岡市役所 保育園合同クラブのみなさんへ
師範から一言！
「だいすき たかおか ちきゅうに やさしく」のみだしがすてきな壁新聞(かべしんぶん)ですね。
「ミールケアエコまる賞」のじゅしょう、おめでとうございます！ micro-a-hanataba.png のサムネイル画像エコまるといっしょに「環境教室(かんきょうきょうしつ)」をたのしんでいるようすがよくわかりました！
5がつのゴーヤのなえうえから、6がつと7がつにはあつというまに、みなさんよりおおきくなったようすもよくわかりました。そして8がつにはこのゴーヤでりっぱなあいじょうたつぶりの「グリーンカーテン」がついにできあがりしましたね。
5がつから8がつまでながいあいだ、ゴーヤをがんばってお世話してくれて、おつかれさまでした！！ゴーヤの「グリーンカーテン」でおんどもさがり、ちきゅうのためにとてもやくにたつたとおもいます！！
また、しょくひんロスをかんがえてのゴーヤりょうりもおいしくたべられたようですね。らいねんもみなさんがだいすきなちきゅうのためのゴーヤつくりをがんばってください。コーヒーまめのかすとかんぱつざいによる『CAFE TSUCHIKO』でのゴーヤつくりはどのようなのか、とてもきになりましたので、こんどのかべしんぶんではこうくしてくることをたのしみしておりますよ！！



とっておきのゴシドウ★
みなさんのおもい、たのしかったこと、むずかしかったこと、くろうしたことなどのかんそうをできるだけみなさんの「ことば」、または「じ」でかいてくれるとうれしいです！！また、「グリーンカーテン」でへやのおんどがどのようにになったかのほうくもあるとうれしいです！！いま、とてもわだいになっている「食品(しょくひん)ロス」のせつめいがもうすこしあると、みなさんの壁新聞(かべしんぶん)をよんでくれるおともだちにこのたいせつさがよくわかるとおもいます！！

坂口エコメイトのみなさんへ
師範から一言！
アメリカザリガニの問題は私の住む東京でも各地で起こっています。いつの間にか放流されて増えてしまった、というケースが多く、学校のビオトープでも水草がまったくなくなってしまうという例もあります。アメリカザリガニに罪はないとはいえ、駆除しないわけにはいかない状況になっていることがほとんどです。ところが、なかなか取り切るのはむずかしく、どこも何年もかかってようやく数が減ってきた、というような状況です。
継続した活動が必要になりますので、みなさんで協力して続けていってください。「にほんの里 100 選」の環境をぜひ守り続けてくださいね。

とっておきのゴシドウ★
アメリカザリガニが入り込んだ原因は数多く考えられますが、みなさんがせっかたくさん取っても、新たに入れられるとさらに取り切るのはむずかしくなります。取ることと同時に、アメリカザリガニを捨てないで、のようなポスターなどの掲示など、地域の人たちへなぜ放してはいけないのかを知られていくことも勧めていくことが大切だと思います。(東京でもそのようにしています)。
また、アメリカザリガニを取ったことにより、環境にどのような変化があったかもぜひ知りたいと思います。そして、完全に取り切ることができたかどうかにもなります。次回はその点を教えてもらえるとうれしいです。



和泉エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

写真をたくさん使った、見やすい壁新聞ですね。ワクワクします。一年間でいろんなことをやってきたことが良くわかります。下校中のゴミ拾いや川遊び、自然観察会は良いですね。ゴミ拾いをもっと来年に工夫することを考えたり、ゴミを減らすことを考えたりすごい活動をしているなあ后感心しました。

また、ぜひ、壁新聞で全国のこどもエコクラブのみんなに紹介してほしいと思います。緑のカーテンもうまく行ったみたいですね。たくさん野菜がとれて良かったです。みんなも水やりやお手伝いもしたのだと思いますが、クラブの大人の方がたくさんお世話をしてくれていると思います。またどんなことがむずかしいか大人の方にも聞いてみてください。普段から緑のカーテンをよく観察すると、虫やとりが来ていることも見つけるかも知れません。

とっておきのゴシドウ★

クラブのおやつの時にでるゴミの重さを調べて比較したのもおもしろい大切なことだと思います。どんどんおもしろそうなことや大事なと思うことをみんなで調べてほしいと思います。

これからもぜひ、調べて全国のみんなに壁新聞で紹介してください。できたら、どうやったらゴミを減らすことができるのかも調べたり考えたりしてほしいです。まだ買い物をするときから考えたら工夫できることがありそうですよ。おうちでの毎日の生活でも同じなのです。壁新聞やポスターをかいいたりしてまちのみんなに呼びかけることも大事なのでがんばってほしいです。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★

たくさんメニューを年間を通じてお世話されていることに感心致します。壁新聞を見せて頂いたら、子ども達がしっかり自分たちで考えながら楽しんでいることが伝わってきます。自然、ゴミ問題や緑、食の大きなテーマにこれからも楽しみながら、指導して頂ければ、環境問題の課題が解決して行くと期待します。子ども達と一緒に、自分事として何が出来るか？何を今から取り組むかを考え、ぜひともポスターをかいいたり、壁新聞にしてみんなに呼びかけることが大事だと思います。

できたら、子ども達とどうしてそうなのかを深めて、それを壁新聞で紹介したら全国のこどもエコクラブの仲間やたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。

長野県松本市 いきものみつけファーム in 松本推進協議会

壁新聞のタイトル:菌新聞～生き物のつながり～

19-20-01

いきものみつけファーム in 松本推進協議会のみなさんへ

師範から一言！

『菌新聞』、題名がユニークですね。「何が書いてあるのかな」とひとが読みたくなる新聞です。きっと、たくさんのことを体験し、勉強したのですね。みなさんががんばったことをわかりやすくまとめたよい新聞です。

『いきものみつけファーム』の名前のとおり、菌を「みつけ」ですね。わたしたちのまわりにはたくさんの「いきもの」がいて、さまざまな場所で生きていることを知りました。多くの人が知っているつもりでも、なかなか説明できないのが「菌の話」です。知らないことばかりだったので、新聞を隅から隅まで楽しく読みました。菌のことをたくさん教えてもらいました。どうもありがとう。

たとえば、田んぼの中には応援団がいて、「菌」が稲の成長ともつながっていることを知りました。びっくりです。私たちの生活がこんな小さな「菌」にもつながっていて、助けられているのですね。「菌」のことをもっと知って、生き物のつながりを大切にしていきたいと思いました。

とっておきのゴシドウ★

本で調べたことをまとめたのではなく、自分たちで実験して確かめていることが非常に良いところ。自分が観察して感じたことを自分の言葉で読む人に分かりやすく表現しています。さらに、新聞では伝えにくい「あじ(味覚)」についても自らが体験して伝えています。人に正しく伝えようとする熱意を感じました。また、一年間の活動とおしての感想が述べられています。記録としても良いことです。人とのつながりという視点から生態系を考えることは楽しいと思います。これからも楽しく活動を続けてください。



岐阜県山県市 とみおか2年1組
壁新聞のタイトル:まもれ！ふるさとのヒダサンショウウオ

19-21-01

とみおか2年1組のみなさんへ

師範から一言！

真ん中に赤いヒダサンショウウオのイラストがあって、とても印象的ですね。大きくていいねいな字で書かれていて読みやすかったですよ。写真もいい感じで入っていて、ヒダサンショウウオがどんな川に住んでいるのか、どんな顔をしているのかもよくわかりました。サンショウウオの産卵のシーンも詳しくイラスト入りで書かれていましたね。みなさんは、サンショウウオが卵を産むところをみたのかな？ヒダサンショウウオの卵から成体までの一生も図で表されていて、わかりやすいですね。

みなさんは教室でもヒダサンショウウオを25匹も飼っているんですね。どんな餌をあげているのかな？

サンショウウオの仲間は、きれいな水にすんでいるけれど、そういったいい環境はどんどん少なくなってしまって、サンショウウオの仲間も全国的に少なくなっていますよね。それを守るために、卵から育てて、もともとすんでいた川に放流しているみなさんの取り組みは、とてもステキなことだと思いました。毎年地道な活動が続けることは大切なことですな。

とっておきのゴシドウ★

日本には、地域ごとにいろいろな種類のサンショウウオが、山奥だったり、里山だったり、様々な環境にすんでいるのは知っているかな？種類によって住んでいる環境がちがうのですね。卵をつつむ袋の形も種類によって違うので、卵の袋の形をみると種類は何かというのがある程度わかります。他の種類のサンショウウオの卵の形もぜひ調べてみてください。

みなさんは毎週野外調査もやっているんですね。すごいな。ヒダサンショウウオを捕まえて、数を数えているのかな？きっと何年か続けているのでしょうね。みなさんが調査をやる前は、みなさんの先輩たちが続けてきたのかな。その調査の結果のデータを使って、調査を始めた時からのサンショウウオの数の変化などをグラフに書いてみたりしたらどうでしょう？昔と比べて増えているのか、減っているのか、減っているとしたらどうしてなのか、みんなで考えてみるのもとても大切なことです。

みんなが放流しているおかげで増えているのかもしれないし、放流していても数が変わらないかもしれません。その調査の結果をみながら、これからどんなふうにヒダサンショウウオを守っていけばいいのか、考えるための大事な一歩になるかもしれませんよ。



静岡県静岡市 しみずっこエコクラブ

壁新聞のタイトル:ゴミのゆくえ

19-22-01

しみずっこエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

海のプラスチックごみ問題が国際的な問題となっていることを知り、自分たちの活動と結びつけたのは、いいことに目をつけましたね。公園、遊水池、海岸と、いろいろなところでごみ拾いをして、どのようなところにどのようなごみが多いのか、それはなぜだろうということと考えられたことと思います。また、海岸のごみも、町からきたごみが多いことに気づいたことでしょう。

海のプラスチックごみ問題は、ヒトへの影響など研究中の部分が多く、まだわからないことも多い分野です。大きな問題となってからでは遅いので、これ以上悪い状態にならないよう、今からでも防がないとしないことです。

とっておきのゴシドウ★

図を大きく描いて、伝えたいことがわかりやすい新聞となりました。その図に場所のようすの写真や、どこにどのようなごみが多かったかのイラストを入れるなどすると、ごみの傾向がさらにわかりやすくなるでしょう。この図を見てもらった人にごみの問題をリアルに伝えられるようになるでしょう。

また、活動して、思ったことや感じたことなども書いて、環境を良くするよううたえられると、より多くのことが伝わるかと思います。これからもがんばってください。



三島市環境探偵団のみなさんへ

師範から一言！

1班から4班に分かれて、いろいろな活動をしているのですね。身近な自然に親しもうということで、森の中で生き物探しをしたのですね。川は「きれい」か「ややきれい」な水だったということ。たくさんの生き物が見つかったことでしょ。森の木のこともたくさん学んだようですね。

また、富士山も探検したのですね。意外に知られていないのですが、富士山はかなり高いので、上のほうはかなり寒いのです。今回、それが体験してよくわかったことと思います。

また、エネルギーについて学ぼうでは、自転車での発電を体験して電気を作る大変さがわかったとのこと。がんばって省エネにはげんでくださいね。

また、竹炭とアルミニウムで作った電池はどうでしたか？ その他にも、賞味期限や電気自動車…いろいろ体験できたのはいい経験になったことでしょ。自分たちで実際に体験してみることで気づくこと、これが大切だと思えます。

とっておきのゴシドウ★

各班にわかれて、それぞれの活動をまとめてくれました。実際に自分でやってみることはとてもいいことなので、これからいろいろな体験をしてください。そして、みなさんが行ったそれぞれの体験活動はとても意義のあるものだと思えますので、活動ごとにまとめてみる、例えば「川の生き物調べ」「自転車で電気を作る」「富士山に登ってわかったこと」などテーマごとにまとめて新聞を作るのもいいのではないかと思います。4つ班があれば4つのテーマについて書くことができると思うので、読む人がよりくわしく知ることができるのではないのでしょうか。



静岡県富士市 愛鷹アースレンジャー

壁新聞のタイトル:ハコネサンショウウオ調査

19-22-08

愛鷹アースレンジャーのみなさんへ

師範から一言！

ハコネサンショウウオの前からみたイラストが大きく描いてあって、とても愛嬌(あいきょう)がありますね。ハコネサンショウウオにはツメがあるのですね。よく観察していますね。ほかのサンショウウオにはない肺も持っているのですね。肺があるということは、陸上でも息ができるということですね。

ハコネサンショウウオの調査は毎年やっているのかな。その時の様子が写真ではあってよくわかります。新聞の下の方には、サンショウウオとサンショウウオの住む水の中の様子(石や木の葉っぱ)が折り紙で貼ってありますね。魚(ヤマメかな?)やサワガニ、カエル(ヤマアカガエルかな?)も一緒に住んでいますね。サンショウウオがすむ水辺はきれいな水ですね。サンショウウオのことを書いた新聞はほかにもありましたが、サンショウウオの住めるきれいな水や沢のような環境はどんどん少なくなってしまうと、サンショウウオの仲間も全国的に少なくなっています。毎年調査をして、どんな状況になっているのかを続けて調べることはとても大事なことで、これからもぜひ続けてくださいね！



とっておきのゴシドウ★

サンショウウオのイラストや色紙で貼った石の様子、そして調査の様子を紹介した写真もわかりやすく工夫されています。こうした活動の紹介をするタイトルがあるといいですね。たとえば「ハコネサンショウウオの調査をやりました！」とか。それと、先ほど書いた、魚、カエルも調べたり先生にきいたりして名前を新聞に書いてあげると、もっとわかりやすくなると思いますよ。調査をした年は、台風のあとでサンショウウオが流されてしまったのかな。あまり見つからなかったと書かれていましたね。自然は台風があつたり、逆に雨が少なくなったり、いつも変化していてサンショウウオも生きるのが大変ですね。それでも長い間、そんなきびしい自然のなかで生き続けてきたから今もこうしてみることができるとおもいます。

流されにくくするようにツメを持っているのかもしれないですね。どうしてツメがあるんだろう、どうして肺があるんだろう、っていうのもみんな考えてたり、話し合ったりしてみてもおもしろいね。疑問に思っ話合ったことを書いてもいいし、調べてわかったことを新聞に書くのもいいと思います。

原田湧水クラブのみなさんへ
師範から一言！

原田湧水クラブのみなさん、こんにちは！

みなさんが作ってくれた壁新聞は、とってもすばらしいですね。それとみんなが住んでいるところは身近に自然がいっぱいあって、うらやましいです。その自然の中に絶滅危惧種のサワトラノオがいる、木に生えているハコネサンショウウオがいる、とってもきれいな滝川には、きれいな水にしか生きないルリヨシノボリやカジカ、サワガニがいる、赤ドブ池にはギンヤンマやクロイトトンボのヤゴがいる、などなどふつうのところでは、発見できないようなめずらしい生き物がいるのもとってもうらやましいです。

原田湧水クラブの活動のうらやましさは、書きましたが、それと同じくらいすばらしいことは、他のクラブや地域の人たちといっしょになって活動していることです。浮島ヶ原自然公園では、約 84 種類もいる動植物を守るために地域住民の方々と協力して外来種から守る活動をしています。特筆することは、絶滅危惧種のサワトラノオを守る活動を一生懸命にやっていることでしょう。守るだけでなく多くの人たちにサワトラノオを知ってもらうためにガイドもやったのですね。ガイドのようすが写真で分かります。サワトラノオの花のぼうし(サワトラノオの花の写真をみたらそっくりでしたよ)をかぶってガイドをしたようですね。楽しくて良かったね。愛鷹レンジャーと一緒にハコネサンショウウオの調査をしました。富士山のふもと、愛鷹山の川、赤淵川の源流で毎年、調査をやっているのですね。今年は、去年と比べるとちょっと少なく、大 1、中 3、小 9 匹で計 13 匹、去年は 40 匹でした。台風のえいきょうかもしれないよね。ハコネサンショウウオは木に似ているので(写真を見ると本当に木に似ているね)、しっかりとさがさないと見過ごしてしまうかな。なぜ、毎年、調査をやるのかもしっかりと分かっている、すばらしいと思います。



静岡県富士市 原田湧水クラブ
壁新聞のタイトル:富士市の自然をまもりたい

旭化成エコトープの人たちとも仲良く、観察会をやったのですね。ナゾのキノコ発見！

サンコダケと言ってとてもくさいキノコのようなですね。だれも食べないので毒があるかどうか分からないのですね。旭エコトープのどんぐり帽子のどんぐりは、原田湧水クラブのせんばいが植樹した木の実だそうで、旭エコトープともふしぎな縁でつながっていました。

ヤゴ救出大さくせんは、常葉大学のかす屋先生に協力してもらいながらやったようですね。

外来種の水草を抜き取って、トンボのヤゴを救出したのですね。都会ではトンボもめずらしいです。従って、ヤゴを見つけるチャンスもほとんどありません。みんなは、いいところに住んでいるな—とつくづく思います。救出したヤゴは、赤ドブ池に放すのですか？だれかが飼ってトンボにするのかな？

リース作りは、富士市の公園で拾った木の実を使ったようですが、約 120 種類の木の実を拾ったようで、ビックリしました。こんなにたくさんの木の実があるのですね。木の実を食べる動物や鳥には、うれしい公園ですね。リースを作りましたが、これはクリスマスや新年の飾りとして使うのかな？この壁新聞には、一緒に活動した外部の方からもエールメッセージがたくさん書いてあります。富士市で開催する環境展や自然展示会などにも、この壁新聞を出しているだろうと思います。多くの市民やほかの地区の方にも壁新聞とエールメッセージを見て頂きたいな—と感じました。

とっておきのゴシドウ★

こんなにたくさんの活動をして、みんなが自分の字で壁新聞を作りました。写真もたくさんありました。字もたくさんありましたが、工夫をしてありましたので、楽しく読みました。

最後の感想がまたすばしかったですよ。

1. 富士市の自然の良さをたくさんの人に知ってほしい！そのためにみんなは、ガイドをしています。
2. 住んでる町が好きになってきた。3と深い関係がありますが、身近にすばらしい自然があることに気がついたので自分たちが住んでいる町は、大切にしないといけないな—と感じたのでしょう。
3. 意外と身近に自然がある。これはやはり子どもエコクラブに入って、自然と接する機会が増えたことによると思います。
4. 活動することに義務感でやったら長続きしません。楽しくなければ長続きしないよね。絶滅危惧種のサワトラノオのぼうしをかぶる、ルリヨシノボリやハコネサンショウウオ、ヤゴなどのめずらしい生き物を見つけることも楽しかったと思います。自分なりの工夫で工作することも楽しかったと思います。

次回の壁新聞では、観察など、続けている結果がどうなるかを書いてください。それと新しい活動などもあると良いかな—？

青葉台児童クラブのみなさんへ
師範から一言！

今や貴重なハコネサンショウウオを野生の状態で見られたことはとてもきょうな経験だと思います。野生動物を野生の状態で見ることはとても大切なことなのですが、今の時代はそれなかなかむずかしいことですね。

今回、専門家の案内のもと、そのような体験ができたことはみなさんの将来にとってもとても意味のあることだと思います。サンショウウオのすむ川を調べると、いろいろな発見があったことでしょう。まとめに書いてある「きれいな水だからこそ育つ生きものが多くいた」とのことですが、それはそのような環境だけにしかすめない生きものというわけです。このような環境と生きものを今後も守っていききたいものですね。

とっておきのゴシドウ★

次は、その場所がどのようにして、守られているか、新聞にまとめてみるのもいいかもしれません。新聞を読むと、ハコネサンショウウオなど、きれいな水にすむ生きものがすむことができる環境があるようですね。新聞を読んだ人は、「ハコネサンショウウオってどんな生きものかな？」とか「他の生きものはどんな生きもの？」のような興味がわいてくると思います。

みなさんの好きな生きものについて詳しく調べて、次の新聞を作って、ぜひ全国のお友達に紹介してあげてください。静岡にはこんな生きものもいます、というように。



伝法児童クラブのみなさんへ
師範から一言！

今回は2枚のかべ新聞を送(おく)っていただきました。「ごみのはなし」と「米作り新聞」、両方とも、活動で学んだことが、とてもよくまとまっています。

「ごみのはなし」は、『NPO 富士市のごみを考える会』の方々からお話を聞いて、ごみの分け方、『3R(スリーアール)』のこと、わたしたちは何をすればよいか?を、しっかり考えて書いてくれました。ごみのイラストと、それがどうリサイクルされるかがわかりやすく、感心しました。「米作り新聞」は、6月～10月までの長い期間(きかん)・・・苗(なえ)が稲(いね)に育って収穫(しゅうかく)し、脱穀(だっく)や粳(もみ)すりなどをしてご飯(はん)をいただくまでの活動がよく記録(きろく)されています。

8月が暑(あつ)すぎて葉(は)が育たなくて心配(しんぱい)したことや、1班(ばん)が一番多かった!!など、写真とコメントでみなさんのがんばりが伝わって来ました。

昔(むかし)から米作りには、「八十八」の手間(てま)がかかっているといわれます。「米」という漢字をばらばらにすると「八十八」になるところからきていますが、みなさんもお米作りを体験(たいけん)して、ご飯(はん)一つぶを残(のこ)さず食べるようになったのではないのでしょうか。

とっておきのゴシドウ★

「ごみのはなし」で学んだ『3R』には、順番(じゅんばん)があります。みなさんがまとめくれた『これから 私たちのできる事』で1番は「いらぬ物はかわない、もらわない＝リデュース」、2番は「洋服などは、すてずにあげたり、きふする＝リユース」3番目が「ルールを守り、きめられた曜日に出す＝リサイクル」になります。

はじめにごみになるものを家に持ちこまなければ、後(あと)からあげる人をさがしたり、リサイクルするためのエネルギーを使うことがなくなるからです。買い物(かいもの)のときは「本当に必要(ひつよう)？すぐ、ごみにならないかな?」とまず『リデュース』を考えてみてくださいね。

また、イラストのカメとクジラのイラストが「いきものの海を守ってね!」と書いていました。今、使いすてられたレジ袋(ぶくろ)が海に流れ、生き物(いきもの)たちに悪い(わるい)いきょうをあてています。レジ袋(ぶくろ)をへらすためにはどうしたらいいのかな?話しあってみましょう。



静岡県富士市 いずみっ子クラブ 壁新聞のタイトル:田宿川にはヒミツがいっぱい

19-22-09

いずみっ子クラブのみなさんへ

師範から一言！

いずみっ子クラブのみなさん、こんにちは！

田宿川にはヒミツがいっぱい！！と言うことでみんながじっさいに田宿川に行って、そして川にも入ってけいけんしたこと、みつけたことを書いてくれた、とってもリアリティのある新聞です。

さいしょにふじさんがどうやってできたかを分かりやすく絵でせつめいしてくれました。

ふじさんのもとは、せんこみたけ(先小御岳)だったのですね。せんこみたけがふんかしてこみたけ(小御岳)ができました。つぎにこみたけがふんかして、こふじ(古富士)ができ、またこふじがふんかして、今のしんふじ(新富士)ができたのかな？こんなふうにくわしく絵でせつめいしてくれて、どうもありがとう。よくわかりました。

それだけでなく、とってもきれいな、すきとおったわき水や田宿川がどうしてできたかをわかってもらうためには、じめんのようなすをまずはじめに知ってもらうことがひつようなのですね。そうなんだね。地下にしみこんだ雨の水がわき水として出てきたので、きれいな、すきとおった水なんだね。

きれいだけではなく生きものもたくさんいるようですね。ナガエミクリという水草がはえていて、きれいな水に生きている虫やエビやカニや貝などいろいろな生きものが生きているのですね。ゲンジボタルのようちゅうもいます。アユもいるんだね。こういう虫や生きものをみんなは見たり、さわったりしたのかな？きれいな水に生きている生きものをカードのように別にして、新聞にくっつけてくれたので、よくわかりました。

クイズでザリガニがいるか？となっていました。これはアメリカザリガニのことですか？アメリカザリガニは、きれいな水からとってきたくない水でも生きているだひょうてきな生きものですが、田宿川にもいたのですか？アメリカザリガニは外国から日本にきて、ぜんこくでいっぱいふえた生きものです。日本から昔からいるザリガニの住みかをうばっている生きものです。アメリカザリガニは、つかまえたらもとのばしよにもどさないようにしています。田宿川にたくさんいたら問題ですね。

田宿川でみんながあそんでいるようすが書いてあります。とってもきれいで、たぶん、つめたかった川であつたと思います。こんなけいけんは、ふつうのこどもたちにはできません。みなさんはとってもしばらしいけいけんをしたのですよ。

とっておきのゴシドウ★

この新聞のすばらしさは、みんなの手で書いたぶんしょうや水草の絵、かにやエビ、さかなの切り絵などがたくさんあることです。じぶんたちの新聞になっています。

これらの生きものをほろぼさないように、ごみをすてたり、きたない水をながさないように川をきれいにしましょう。とみんなが書いてくれています。

ぜひ、そのようにみんながんばって気をつけましょう。

つぎの新聞には、どんな絵があるか？どんなはっけんがあるか、たのしみにしていますよ。



静岡県裾野市 裾野イオンチアーズクラブ 壁新聞のタイトル:富士山は私たちの宝物

19-22-03 19-22-04

裾野イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

模造紙を存分に使った壁新聞で、富士山の雄大さが伝わります。動物のイラストもいいですね。一生懸命描いたことが伝わって、みなさんが富士山やそこにすむ動物を宝物のように大事に思っているんだなと感じました。

富士山のごみ問題は昔から言われていますが、世界遺産に登録された後もまだ多いのですね。ごみ減量作戦で集めたごみが、軽トラック1台分もあつたのですね！びっくりですし、残念です。生ごみなどが捨ててみると、動物たちが食べてしまい、生態系のバランスを崩すことがあります。自分のちょっとした行動が大きな影響を与えてしまうことがあることを、自然の中で活動する際には覚えておきたいですね。

とっておきのゴシドウ★

ごみの中にはリサイクルできる資源もあつたことにみなさんは気づきました。すばらしい発見だと思います。ごみを捨ててしまう人にも、それはごみではなくて資源なんだということが伝わると、気を付けてくれるかもしれません。ポスターにも、ごみではなくて資源であることをアピールしてみるといいと思います。

文字を大きく、はっきり書いてあるのでとても読みやすい壁新聞ですが、清書をする時には、漢字などをサポーターさんに確認してもらうといいと思います。難しい漢字にはふりがなをふってあり、読む人への親切さは感じますので、みなさんならその辺りをさらに磨けると期待しています。



今川こども自然クラブのみなさんへ

師範から一言！

新聞をとおして、自然豊かな今川にするためには、「調べる」「守る」「伝える」といったはばひろい活動をしていることが伝わってきました。

きれいな川を守るために、川のゴミひろいだけでなく、“森づくり”の活動にも取り組んでいることに感心しました。ドングリがなる木はたくさんありますが、何を植えたのかな？ドングリは果実も葉っぱも森でくらすさまざまな生き物のエサになりますね。除ばつ材をつかったマイ鉛筆作りは楽しそうです。木によって色や香りがことなるので、色々な木で作ってみてもいいですね。

水質調査・水生生物調査の調査結果シートは実際にどんなことを記録したかが分かるので、これから調査をはじめの人にとって参考になりますね。“川底の状態”も文字で書くのではなく、チェックすればいいように、せんとくし(小石と砂・コンクリート・コケ・泥・こぶし大の石が多い、など)があるので使いやすく感じました。

キャンプ地やこどもエコクラブの交流会で、水の大切さやホタルの保護活動内容を伝えることはよい取り組みだと思います。この新聞をとおしても読者に伝えることができますが、直接伝えることができると相手の考えを聞くこともできます。

ホタルの観察では、飛んでいるオスや草むらのメスを見つれたり、上陸してくる幼虫まで見つけたりすることができるのですね！上陸している途中(とちゅう)の幼虫はまだ見たことがありません。サナギになるためにはどのような場所が必要なのか観察をとおして気づくことができたことでしょう。ホタルを守る活動では毎年その内容をふりかえっていることが「自分たちにできること」を読んで分かりました。けいぞくてきな活動では、ふりかえりがとても大切なのでぜひこれからも続けてください。

とっておきのゴシンドウ★

ヘイケボタルを守るために、ヘイケボタルがくらす田んぼを元にもどすという気づきはよい考えだと思います。生きものを守るためには、くらししている場所も守る必要があります。ホタルの場合は、卵→幼虫→サナギ→成虫の一生をくらせる場所ということになります。さらに幼虫のエサとなるカワニナがくらす環境も考えてあげてください。

「活動からわかった課題」をみると、人が川にたくさん入る親水公園でホタルがあまりいないようですね。人がたくさん入ることによってホタルがくらす環境にデメリットがないか考えてみたらどうでしょうか？人が入っていい川の場所とホタルがくらす場所を分けるという考えもあります。



半田こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

みなさんが主人公になって、一年間の楽しかった活動を上手にまとめています。活動した内容だけではなく、そのときにみなさんがどのように感じたのか、どんなことを考えたのかなどが書かれています。この壁新聞を読んだ人たちに、みなさんの気持ちがよく伝わるいい壁新聞です。

タケノコほり、ひがたの生き物観察、ゼリーも流れてくる流しそうめん、リースづくりなど一年をとおして、楽しい活動がいっぱいあっていいですね。スナメリの骨だなんてよく気がつきましたね。大発見でしたね。干潟で生き物を観察するときに、落ちているごみを拾ってくれてどうもありがとう。みなさんが海をきれいにしたいという気持ちに感心しました。きっと、海がきれいになった分、みなさんの心もきれいになったのだと思います。トビハゼも、カニも、そしてみなさんが楽しめる海になることを願っています。

とっておきのゴシンドウ★

拾ったごみの種類についての記事があります。ごみはどこから来るのでしょうか。

みなさんは、毎年ごみの調査をしているのですか、調査した情報を使って、どんなごみが多いのか、昔と比べて増えているのか、減っているのかを調べてみてください。『ごみを少なくするには、どうしたらいいでしょうか』、みなさんで考えてみましょう。

掃除しなくてもいい干潟になって、トビハゼも、カニも、そしてみなさんが楽しむことを願っています。みなさんで考えてみるのが、とても大切なことです。つぎは、令和最初のエコ新聞を楽しみにしています。



豊明エコキッズのみなさんへ
師範から一言！

一年の活動をすごろく風に上手にまとめています。楽しかった一年間の「活動の流れ」がよくわかるいい壁新聞です。
流れに沿って、かわいいイラストがあって、親しみやすい新聞になっています。みなさんも活動を思い出して、感じたことを書いています。「どんなことを感じて、どのようにしようと思ったのか」もっと知りたい気持ちになりました。
定期的にクリーン活動をしてくれて、どうもありがとう。たばこの吸いながらやペットボトルが多いのは残念ですね、でも、『ごみを少なくするには、どうしたらいいでしょうか』、みなさんで考えてその意見を壁新聞で伝えてみましょう。掃除しなくてもごみが落ちていない「まち」になるといいなと思います。
大根や芋などの野菜が大きく成長するところを見て、触って、味わって、いい体験をしましたね。収穫した野菜はお店で売っている野菜と比べて、大きさや形に何かちがいはありましたか。観察して気が付いたこともおしえてください。
エコクッキングでは、竹でご飯を炊いたのかな、いい体験をしましたね。

とっておきのゴシドウ★

壁新聞を作る時、最初に、どんな壁新聞にしようかと相談したと思います。その時、どのような意見が出ましたか。一年間の楽しかった活動を読む人に伝える壁新聞だったのかな。みなさんの楽しそうな写真やイラストを見ているとその目的は十分に達成できています。そして、一年間の活動をとおして、そのときの感想が述べられており、記録としても良い壁新聞です。
活動をとおして、みなさんが発見したこと、感じたこと、考えたことは大切な情報です。それがどのようにしたら、読む人に伝わりやすいかを考えながら、新聞を作ってみてください。その気持ちが読んでいる人に伝わり、読んだ人の行動に変化がみられるとうれしいですね。



三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル: ①伊勢湾流域のゴミ拾い ②伊勢湾流域 ゴミ&リサイクル(1位)
枚とも推薦

19-24-02(3位) 19-24-03(1位) 2

四日市尾平イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

吉崎海岸、七里御浜海岸、鈴鹿川ってどこなのかしら？私も知りたくなって地図で探してみました。伊勢湾から太平洋まで三重県はいっぱい海に面しているのですね。その中で、四日市の海岸と七里御浜海岸のそれぞれで様子のちがいを感じ、アカウミガメのことを思って活動ができ、すばらしいです。四日市で海ガメ学習をしているので、きれいな七里御浜海岸でウミガメの上陸跡を見られたのは感動されたのではないのでしょうか。みなさんが10年間ごみ拾いを続けているように、どちらの海岸も地域のみなさんで貴重な砂浜の環境を守っているから海ガメも上陸できるのでしょね。20年後に、もしかしたらみなさんの子どもと一緒に？ここで生まれたカメがたくさん戻ってくるのを見られるよう守り続けてください。楽しみです。

去年の夏から秋の豪雨と台風で熊野の山にも大量の雨が降ったようです。鈴鹿川のごみの非常事態は、山・川・海のつながりを実感されたことと思います。自然のこわさでもあるので気をつけなくてはなりません。

砂浜の海岸、干潟、川の河口付近と、それぞれのちがいを感じながら、それぞれのところの生きもののことを学び、生きものたちがたくさんすめるような環境のことを考え、ごみ拾いができたのはとてもすばらしいことです。

とっておきのゴシドウ★

継続された長年の活動で、かべ新聞はとても見やすくなっています。タイトル、小見出しもわかりやすくなっています。その中でも「鈴鹿川は非常事態」の小見出しは、「なんだらう？」と目が引かれました。写真で活動の雰囲気もわかり、みなさんの感想や意気込みもわかり言うことありません。

強いて言えば活動した月を知りたいなと思ったくらいです。すばらしい活動をぜひ今後も継続してってください。



三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:①伊勢湾流域のゴミ拾い ②伊勢湾流域 ゴミ&リサイクル(1位)

四日市尾平イオンチアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
答志島で、伊勢湾と関係する愛知、三重、岐阜から 300 人もが集まり、ごみ拾いを行い、環境サミットに参加し、島の方のお話をきくことができたのですね。貴重な体験ができたことと思われます。マイクロプラスチック、漁業被害など海ごみの影響について学び、考えたことはとてもすばらしいです。
みなさんが、気づかれたように答志島のごみは、伊勢湾流域から集まったごみで、それに島の人たちが大変な思いをしているのですね。かべ新聞に書いた①ゴミを出さないよう意識を高める②行動に移し、現状を発信し伝えていくこと。まさにこの2つが大切ですね。小さなことでもできることをやっていき、まわりの人(とくに大人たち)に子どもたちから発信し伝えていってください。行動力のあるみなさんのパワーに期待します。
「モミガラライト」というのをはじめて知りました。お米をおいしくいただき、わらやもみがらまで利用できるというリサイクルのひとつですね。自然のものを最後まで有効に活用するリサイクルを学べたことと思います。この体験をもとに、なんでも無駄なものを出さない工夫を考えるようにしてみてください。※商品名はモミガラライト、もみ殻で作られた固形燃料



とっておきのゴシドウ★
「ゴミの問題はみんなが協力してとりくまなければならない」「ゴミを少しでも多くの人が減らしてゴミをすてないことが大切」「海のゴミを無くすために、山川海がつながること」「自然と共に、地域と共に、仲間とともにやっていこう!」。。。。ほかにも、たくさん、みなさんのとてもすばらしいメッセージが書かれていて、感動しました！これらをぜひ具体的な行動として何をしたか、日頃の生活の中で変わったことがあるか、何がどう変わったなど、次のステップとしての行動のようすなどもご紹介してみてください。

三重県松阪市 三重中学校・三重高等学校 科学技術部
壁新聞のタイトル:身近な環境を考える～私たち科学技術部の活動～

19-24-01 A2 サイズ

三重中学校・三重高等学校 科学技術部のみなさんへ
師範から一言！
この新聞のすぐれているところは、海・山の活動をまとめて壁(かべ)新聞の紙面で科学新聞のような雰囲気(ふんいき)をつくりあげていることです。もうひとつは部員のマネージメントを取り上げているところです。
「身近な環境を考える」というコンセプトで8年前から松名瀬干潟で私自身も楽しませてもらいました。前回応募(おうぼ)から海と森の野外活動を通して環境学習を組み立て実践(じっせん)するという、大人でも思いつかない事例になり、注目していました。
特に「部員のマネージメント」に注目し、部員一人一人が主体となって自主的に行動することを求めていると宣言し、主体的参加(しゅたいてきさんか)と活動内容の理解の二つの能力を求めているとしています。これは大人の団体でもここまでははっきり書かないことが多いのですが、いろんなマネージメントを求められています。円滑(えんかつ)に活動を進めることが目的ですので、仲良く楽しくこのマネージメントが進行したか、ぜひとも次回は聞かせて下さい。



とっておきのゴシドウ★
海の活動では、長年にわたって松名瀬干潟の調査(ちょうさ)をつづけているので、生物相や水質について一定の傾向がみられるのではないのでしょうか？
森の活動でも将来(しょうらい)どのような森になると良いか、地元で活躍している三重森林インストラクター会などに相談をもちかけて、現場を見てもらい、将来の森林管理のプログラムなどを提案してもらうのはいかがでしょう。もちろん、10項目あるマネージメントには、礼儀を教える、期限を守るなど日常(にちじょう)生活でも求められる簡単(かんたん)な社会的なルールも含まれていますのでどこまで達成できたか、ぜひ報告して下さい。

鈴鹿イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

壁新聞のテーマが真ん中に大きく「エネルギーって、何？」と書かれています。この新聞で、何について知らせたいのかがよく分かります。また、かわいく仕上げてあるので、目につきやすく、とても読みやすいよい壁新聞です。
私たちは毎日の生活でたくさんのエネルギーを使っています。身のまわりには、さまざまな種類のエネルギーがあり、私たちの暮らしを便利にしてくれています。そのエネルギーを作り出すときに、それぞれに、どんなメリットやデメリットがあるかを調べて、分かりやすくまとめています。みなさんがエネルギーについて調べるために、どんなところに行って、どんな体験をしたのか、また、そのときに、感じたことや苦労したことについても知りたくなりました。
持続可能な地球システムでは、調和することの大切さを上手にまとめています。環境調和をめざして、どのように行動しようか、みんなで相談してみてください。むずかしくなくてもいいので、身のまわりでかんたんにできることから始めてみましょう。そして、これからも楽しく活動が続けてください。

とっておきのゴンドウ★

みなさんががんばって活動している写真があります。いつ、何をしているところか、の説明があると、新聞を見てくれた人に、みなさんの「がんばり」がもっと伝わるように思います。がんばっているところも伝えることも大切な情報発信です。読んでくれた人もいっしょになって、行動してくれることはすばらしいことだね。
これだけのたくさんの内容を決まった一つの紙面で伝えるのは大変です。これも伝えたい、あれも伝えたいとたくさんのことを書きたくなると思うのですが、たとえば、「屋久島の動物に問題が起きています！！」という内容にしぼると、そのテーマについてはもっと伝わりやすくなると思います。



明和イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

一年間の活動が、とてもいいに書かれていて、わかりやすい壁新聞ですね。毎年、ステキな壁新聞だなと思いますが、今回もさすが！とうれしく思いました。一年間で色々な活動をする、「全部書きたい！」というクラブさんが多いですが、そうするとボリュームが多くて、少しわかりにくくなってしまいます。そこを、今回のみなさんの壁新聞では、3つの活動をピックアップして書いていますね。でも、ちゃんと古代米や募金活動の取り組みも小さなコーナーで書いています。たくさん情報が書かれているけれども、非常にわかりやすいのは、その工夫があるからだと思います。こういった書き方は、ぜひ他のクラブさんでも参考にしてほしいなと思います。
漂着ごみに木材のごみも多かったとのことですが、今年は各地で大雨や洪水が発生しましたね。港に大量の木材が流れ着いて、港が使えなくなっている場所もありました。バイオマス発電などによって、山の手入れを進めることは、そのような被害を防ぐことにもつながると、みなさんの壁新聞を読んでわかりました。

とっておきのゴンドウ★

壁新聞を読むと、みなさんが普段活動する際に、活動の目的(動機)を理解して行動していることがわかります。また、わかったことや気づいたこともしっかり書かれていて、活動後のふりかえりもきちんと取り組んでいるんだと感じます。
また、活動をする中で「良い点」と「困った点」の両方に気づけているのは、すばらしいことだと思います。環境問題の原因と言われるものは、その両面があるから、解決がむずかしいとも言えます。両方をよく理解して、どう選択していくか、一人ひとりが考えていきたいですね。みなさんの壁新聞を読んで、改めて私がそう感じる事ができました。ぜひこれからも続けていってほしいと思います。



TANAKAMI こども環境クラブのみなさんへ

師範から一言！

滋賀県と言えば、多くの日本人は琵琶湖を思い浮かべます。そうです！琵琶湖を中心とした自然あふれる滋賀県です。

TANAKAMI こども環境クラブのみなさんは、琵琶湖を中心とした自然あふれる滋賀県を世界の人に知ってもらおう、そして今だけでなく、次の時代そして未来の人たちにもこんなすばらしい滋賀県を残したいということで活動を進めていることが、この壁新聞を読むと良く分かります。

TANAKAMI って、何だろうと調べました。なーんだ、田上という地名なのだね。田上と言う漢字だと“たのうえ”とも“たがみ”とも読めるが、そうではありません。滋賀県の田上は“たなかみ”って読むのですよ！それで TANAKAMI こども環境クラブと名付けたのですね。ふつう、自分のまわりのことには、注意がいかないで、自然のすばらしさや生きものがたくさんいることに気が付かないことが多いようです。自ら自然の中に入り込んで、水の冷たさや透明さ、森、木々の緑、空の青さなどを実感することが大事です。と言うことで TANAKAMI こども環境クラブのみんなは、琵琶湖を中心とした水辺に行き、たくさんの生き物を発見し、絵にもかいてくれました。よく観察することが大切です。みんなはよく見て、生き物のとくちょうをしっかりとつかまえて、スケッチしてくれましたね。みんなは基本的なこと、“よく観察する”がしっかりとできています。

そのようなクラブですから、第 17 回世界湖沼会議に出席して、滋賀県の大事な宝である琵琶湖とその水辺のすばらしさを発表してきたのですね。タイトルは、人と湖沼の共生にしました。発表に当たって動機:なぜ発表しようとしたのか？琵琶湖をきれいにするためには？を書き、目的もしっかりと書きました。どうやって世界の人に、多くの人に知ってもらおうか？方法を考え写真を撮ろう、アンケートを取ろう。写真展の結果と考察をしました。アンケートの結果と考察をしました。私も国際会議を含め数多くの会議・発表会を経験しましたが、小中学生の TANAKAMI こども環境クラブのメンバーがこんなにすばらしい発表ができたことにおどろいています。



滋賀県大津市 TANAKAMI こども環境クラブ 壁新聞のタイトル:世界へ発信しよう！琵琶湖や滋賀の水辺

でも何もしなくても琵琶湖や滋賀の水辺がすばらしいわけではありません。すばらしくするためには、たとえば、ごみを捨てて、そのままにしておけば水辺はきれいになるわけではありません。みんなが自らごみをすてないように、そして落ちているごみは拾いましょう。それと共に滋賀県を、琵琶湖をおとずれる人々にも呼びかけて、ごみをすてないようにすることが大事ですね。このようなことに気づくには、自らが、たとえばカヌーに乗って自然の中に入り込み、あるいは生き物を網でとったり体験することで、分かることです。みんなはそんな体験をしました。本で読めば良いことではありません。頭で考えることだけでも十分ではありません。体験し、自分の目で確かめて、手でさわって感じ、耳で音を聞き、はなでにおいを感じるということがとても大事です。そんなことが田上山の今年のトピックスとして発見したことが、たくさん書いてありました。メダカについてもするどい見方が書いてありました。5 年間調べてもなかったことがおきました。だれか人間が放したのではないかな？今までいなかった生き物がいることは、一見良いことのようにですが、実は自然のバランスをくずすことにもつながります。気をつけたいことですね。自然のバランスがくずれて困ったことが、今、日本の各地でおこっていることは知っているでしょう。それは、シカがふえすぎて作物を荒らすことが問題になっています。ですから私たち人間がバランスをくずさないように気をつける必要があります。

とっておきのゴシンドウ★

きょうまで そして明日から と言うことでメンバーのみんなが活動を通して発見したこと、気が付いたこと、自らが何をやったら良いかなどの目標を書いてくれました。滋賀県の自然を守りたい、琵琶湖のすばらしさを後世に伝えたい、残したいことを自分のことばで書いてありました。いくつもやりたいことがあるでしょうが、一つで良いです。自分がやろうとすること、できることを 1 年間つづけるようにがんばりましょう。

ここの事で一つだけお願いがあります。生き物を大切にしてい、きれいな琵琶湖にする、生き物を守っていく、エコな生活をするなどとても良い宣言をしてくれました。もう一歩踏みこんで、具体的に何をやるかを書くようにすると、とても良いと思います。今からすぐに、あるいは明日からすぐにやりましょうという時に、具体的な活動が書いてあれば、迷うことなくすぐにやれますよね。

ぜひ、具体化して琵琶湖や滋賀の自然を守りましょう。

しが kids エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

わに公園は川辺にあって、とても楽しそうな公園ですね。
公園の中にも水とふれあえる小川があって貴重なふれあいの場所になっています。みなさんがきれいにしたい！という気持ちがよくわかりました。
わに公園の池の水をきれいにしたい、という思いから、なぜきれいではないのかみんなでその原因を考えて発表されていますね。原因は1つではなく、たくさんの理由があり、それぞれに対して対策を考えだしたことは、環境活動としてとてもすばらしいと思います。
また、安易に答えを出すのではなく、「きたないと思う」「きれいだと思う」という2つの意見を両方書いたことも、見方のちがいがよくわかって、池のことがよくわかりました。
それから、今回の活動をとおして「も」についてもっと調べたいという意見が多かったですね。実はこれは大人も「も」を観察していろいろな研究をしています。みんなのこれからの活動がとても楽しみです！
結論では、それぞれの仮説に基づいて、市役所に相談して実際の活動を行ったことも書かれています。まだまだ観察中ですが、はじまりの調査から問題点、解決策までしっかりまとまっていてすばらしい活動報告になっていると思います！最後に一人ひとりの希望の声を載せたのも気持ちがこもって良かったです！



とっておきのゴシドウ★

今回の活動内容は、小川の水をきれいにするために、こどもたちの意見を一生懸命出し合って、自分たちでできることを見つけ、行動した、すばらしい活動報告だと思います。実際にこの活動の内容を全国のみなさんにも理解してもらえるように、もう少し「わに公園の特徴」について、周囲の環境も含めて書き出してみると、またいろいろな意見がもらえるかもしれませんよ。
また、ホテイアオイや「も」も、確かに水を浄化する力がありますが、それは植物の中に取り込んで増えていくだけです。枯れてまた水に戻ってしまう前に、水辺から取り除かなくてははいけません。ホテイアオイやその他の特定の水草は、増えすぎて後が大変になってしまう可能性もあるので、大人と協力しながらよく観察してください。

ぼてじゃこワンパク塾のみなさんへ
師範から一言！

『魚つかみを体験することで、豊かな自然や生き物を大切に作る家族を育てる』という活動の「基本理念」を壁新聞を読む人にはっきりと伝えています。新しい企画のなかにも、毎年の継続性を大切に活動しています。よく企画されたいい活動プログラムです。
活動した時期を記載することで、年間を通しての活動の流れがよく分かります。写真やコメント以外にも、イラストがたくさん描かれています。こどもたちが楽しんで壁新聞の紙面を埋めていくようすを想像できます。よく、がんばりました。
自然体験教室が主体の活動ですが、その中にも「たらいミニ実験」は技術的、科学的な学びの要素も含んでいます。とてもいいですね。結果をデータにまとめ、その理由をきっちりと分析(考察)しています。約4か月におよぶ実験は、次につながる活動としても楽しみです。データを積み重ねることで、こどもたちの新たな気づきも期待できます。こどもたちが不思議に思うこと、『どうして?』が紙面にもっとたくさんあるといいですね。こどもたちが楽しんでいるようすはよくわかりますが、こどもたちの『生の声』ももっと聴きたいと思いました。

とっておきのゴシドウ★

いつでも、なんでも、手に入ることがあたりまえの社会です。さかなを捕ったり、サツマイモを収穫するなど苦労して『物を得る』という体験は物を大切にすることにつながります。活動をとおしてこどもたちが「何を感じたのか」、「どんなお話をしたのか」、「だからどのように行動しようと思ったのか」が壁新聞からあまり伝わってきません。すばらしい体験を通して、みなさんが感じたこと、やってみたいと思ったことをもっと知りたかったなあ。



エコアイディアキッズびわ湖(アイキッズ)のみなさんへ
師範から一言！
琵琶湖は昔から人と自然のつながりがきつと深かったのでしょうね。それを知り、世の中の人に伝えようというみんなの意気込み、感じられました。話題ごとに小さく区切られていて読みやすい紙面になっています。そして、区切りには湖にまつわるイラストがよい具合に配置されていて、色もきれいだしセンス抜群ですね！イラストだけでなく写真もあって、読む人にもわかりやすいと思いました。すばらしいと思ったのは、それだけではありません。人と人のつながりを大切にすると、伝統文化を継承しようというモットーがわかりやすく発信されていて、ダイレクトに伝わる感じがします。それにしても琵琶湖の伝統文化は素晴らしいですね。湖で魚を採り、上手に調理して食べる文化、それにそうした魚を水田で育てるんですね。まさに、昔の人は生き物をよく観察していたことがわかりますね。

とっておきのゴシドウ★
琵琶湖で伝統漁法や食文化を継承している人たちとのあたたかい交流の様子も伝わってきます。こうした地元の人たちの思いや言葉を発信することも面白いのではないかな、と思いました。例えば吹きだしで入れてみると、かた苦しくなく、一般の読者も読んでみようかな、という気持ちになりますよね。
1つ1つの記事の中でそうしたことも入れると記事が長くなってしまいますが、思い切って少し記事の数を絞ってみるのも1つの方法かもしれません。みなさんがいちばん伝えたいことは何か、ということも話しあってもいいですね。
最後に、それぞれの活動をいつ実施したか、年月日を書いておくことも大事ですね。壁新聞として、そうした今後も記録を重ねていくときに、重要になってくると思います。



浜川小学校エコクラブのみなさん、こんにちは！
みなさんが作った壁新聞は、自分たちで本やインターネットなどで調べただけでなく、県庁へ行ってヒアリングをし、琵琶湖で農業をやっている人に話を聞いたり、琵琶湖に流れこむ水を利用して農業をやっている人に話を聞いたりして、まとめたものであり、さすがに6年生の活動だなーと感心しました。
滋賀農業遺産と言うことで、滋賀県と言えば琵琶湖ですので、琵琶湖を中心として、漁業だけでなく、流れこむ川で農業をやっていることを関連付けて調べてまとめたんですね。
自分たちの足元の琵琶湖について、調べたいろいろとおもしろいことも見つかりましたね。流れ込む川が、なんと460本もあること、琵琶湖の水が全て入れ替わるのに19年かかることや400種の植物と600種の動物がいることなど、ふだんはあまり気が付かないことも分かって、琵琶湖を見直しましたね。
農業だけでなく漁業についても、琵琶湖の伝統漁法を知りました。えり漁とやな漁ですね。
それにセタジミ漁に使う網についても知りました。伝統と言うことはどういうことだろうか？最近、新しいことにばかり目が向くような気がします。伝統と言うのは先人の知恵のかたまりです。長い間につちかわれた技術のかたまりです。この壁新聞の最後にも書いてありましたが、農業、漁業のすばらしさを未来へととけたいと言うことは、漁業については伝統の漁法を伝えたいと言うことでもあるのだと思います。
今回の壁新聞は、滋賀農業遺産学習と言うことで、自分たちの地元のことをよく知る学習でありました。実際に学習してみて、滋賀県民が滋賀県のことを知るのには、とても大切なことだと気づきましたね。すばらしいことに気づきましたね。気付いて、そして知って次はどうしたら良いだろうか？6年生のみなさんが、やることは何だろうか？1年生や2年生の下級生に教え、伝えることは何だろうか？実は、農業、漁業のすばらしさを未来へととけたい、そのため琵琶湖の環境を守りたい、そのためにできることから行動したいと力強い宣言が書いてありました。その通りだと思います。ぜひ、行動を進めることを期待しています。
最後に一つ質問があります。滋賀農業遺産学習と書いてあります。日本では世界農業遺産に認定されているのは、11地域あると言うことで、どこの何が世界遺産であるかが書いてあります。しかし、この中には滋賀農業遺産は、入っていません。どういうことですか？世界農業遺産に登録されるようにこれから滋賀県民が一致団結してがんばりますと言うことでしょうか？



とっておきのゴシドウ★
環境こだわり農産物と言うことも知りました。できるだけ農業や化学肥料を使わないことと、大事なことは使ったら記録にちゃんと残すことです。それと琵琶湖や周辺の環境にやさしい技術で栽培することです。これらをパスしたら環境こだわり農産物として認定されるのですね。「魚のゆりかご水田米」も環境こだわり農産物として認定されているのですか？一つ、教えて欲しいのは環境にやさしい技術で栽培するというのは、できるだけ農業や化学肥料を使わないこと以外を言っているようですが、環境にやさしい技術ってどんな技術ですか？環境と言う観点から考えると農業をできるだけ使わない農業が大切ですね。農業を抑えている農業ですから、琵琶湖に流れ込む水も農業が極めて少なくなり、琵琶湖の水産資源の魚や特産品であるセタジミにもとても良い影響があるでしょう。でもセタジミは最近、取れる量が少なくなっているそうですね。原因はよごれた水や大量に増えた水草の影響ですが、水草と水のよごれは何か関係がありそうですが、どうなんだろう？
農業をおさえると言うことで完全無農薬で農業をやっている人もいましたね。完全無農薬でお米や野菜などを育てるのは、とっても大変だと思います。常に田んぼを見回り、虫などの被害を拡大させないようにしたり、病気のものは、直ぐに取り除き、拡大しないようにしているのでしょう。
でも、農家の人は悩んでいました。虫が食べたあとが残っていると消費者が買わないと言うことです。私たち消費者は、ちょっと見かたを変えることが必要ですね。虫が食べるのであるから安全、安心な野菜だと思えることはできないでしょうか？農薬が付いていれば虫が食べれば虫は死んでしまいます。あるいは農薬が付いている事に虫は気付く、食べないでしょう。食べあとは残りませんね。虫が付いているということは、農薬が付いていないということですよ。
それと無農薬栽培をするためには、見回りを良くする、虫が食べたものは取り除く、あるいは病気のものも取り除くなど手間ひまがかかるので、値段が高くなるが、高いと売れないので値段をおさえずなくてはいけないことも農家のなやみだと言うことは、良く分かったでしょう。私たち消費者も応援しなければ、安全で安心な商品はふきゅうしないことを知る必要があります。知って、行動に移すことが大事ですね。
最後に一つお願いがあります。字をもう少し大きく書いてくれますか？それと写真になっているので、難しいかもしれませんが、白地に字や絵などをかいてくれるととても分かり易くなり、皆さんの努力がとっても引き立つと思います。

なかす野洲川たんけん隊のみなさんへ

師範から一言！

野洲川が大好きだというみんなの気持ちが伝わる新聞ですね。年間を通して川とともにいろいろな体験や学びをしているみんなの様子がわかります。野洲川に生えていた木を使ってまな板ができるのですね！面白いアイデアだと思いました。昔からまな板に使われる木はヤナギが多いから、野洲川の生えていた木はヤナギかな？自分で作ったまな板で、お料理を作るなんてオツですね。

それと、ペットボトルで作ったいかで川を下るなんて面白そう！私の近くの浅川という川でも昔、いかだ下りのイベントに職場の人たちと出たことがあったのを思い出しました。みんなで力を合わせて作るのは楽しいね。ゴミになってしまうペットボトルを有効活用したり、洪水の時に邪魔になるヤナギなどの木をまな板に利用したり、いろいろトリサイクルの取り組みをしているのですね。

新聞の中にはった写真やイラストもいいですね。楽しそうな雰囲気が伝わってきます。楽しみながら野洲川をさまざまな角度から勉強するのはすばらしいことですね。



とっておきのゴシドウ★

1年を通して季節ごとに野洲川の自然を満喫しているたんけん隊ですね。新聞ということもあるので、是非とも何年何月何日に実施したかを書いてください。いつ行ったか、いつやったかという情報は、重要な記録になります。

野洲川の上流にあるダムに行ったときは、水質調査もやったんだね。どんな方法で調査したのかな。チューブに水を入れて色を見ながら数字を書いていく方法かな。それに透明度という言葉がでたけどどのくらいの透明度だったんだろう。つまり、調査の結果はどうだったんだろう？せっかく調査をしたのでその結果の報告も書いて、そして水質の結果をみて感じたこと、考えたことを書くと、野洲川のことをより科学的に伝えることができると思います。

野洲川にはどんな生きものがいるんだろう？鳥、昆虫、お魚、植物・・・野洲川に生きる生きもののニュースも知りたいな。川に魚が何種類かはってありましたが、それらの名前も書いてあるといいですね。今度はぜひとも教えてください。

下之郷遺跡キッズクラブ GoKids のみなさんへ

師範から一言！

『弥生時代の食について考える』がみなさんの活動のテーマであり、一年をとおして弥生人の暮らしを体験しています。そして、その活動で見つけた下之郷遺跡の魅力を発信していることがよくわかる「すばらしい壁新聞」です。とてもいいですねえ～。壁新聞は背景を黒くして、読みやすくするための工夫をしています。また、説明の文章を少なくして、写真を上手に使っています。写真からは、みなさんが生き生きと活動しているようすがよく伝わってきます。活動も壁新聞づくりも、がんばりました。年間の活動テーマがはっきりとしていて、よく企画されたいい活動プログラムです。うらやましいなあ～。「むかしの人は火をおこすのは大変な作業だった」など、たくさんの体験をとおして感じました。「物がなかったらこそ、人々は深いつながりで結ばれ、協力し合うことで困難を乗り越えてきました」と弥生人の気持ちを考えています。すばらしいことです。

とっておきのゴシドウ★

活動内容の報告がメインになっており、「史跡本質の理解を深める」、「史跡を身近に感じる」という点においては、下之郷遺跡の魅力を発信した『いい壁新聞』です。みなさんが弥生人に近い体験活動をしていることがよくわかりました。あたり前のように食品がある現在のわれわれにとって「食の大切さ」を感じる良いプログラムです。すばらしい活動です。

その活動をとおして何を感じたのか、どんなことを話し合ったのか、だからどのように行動しようと思ったのかが壁新聞からあまり伝わってきません。みなさんがすばらしい体験をとおして、感じたこと、やってみたいと思ったことをもっと知りたかったなあ～。



甲賀市立油日小学校エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

『油日小学校は、いい学校だなあ〜』。これが、油日小学校エコ新聞を読んだときに、最初に思ったことです。その理由は、だれかに「よい学校にしてもらう」のではなく、自分たちで考えて、自分たちが「よい学校にしている」ことを知ったからです。そのことが、壁新聞の記事を読んでいてよくわかります。「すばらしい壁新聞」です。実際に考えて行動して、感じたことが壁新聞からよく伝わってきます。みなさんが「何を考えて、何をして、何を感じたか」が、そして、「次に、どうしたいのか」までがよくわかります。とてもいいですね。

みなさんが参加しているエコスクール活動の合言葉は『自分、人、物、自然を大切に』であり、その目標に向かってすばらしい取り組みをしていますね。いいことばかりです。自然エコ委員会では、いろんな学年の人が楽しく参加できるように、たくさんのエコイベントを企画しています。ニコニコブック委員会の「本の修理」や運動委員会の「用具庫の点検」は物を大切にしようという気持ちが伝わってきます。スマイルファイン委員会の活動はスリッパをそろえることで、次にはく人を大切にしています。命をつなぐ花づくり(スマイルフラワー委員会)は自然を大切にす口気持ちが、学校の外への影響にも広がっていくといいですね。大空委員会寄付活動、リサイクル活動で人を大切にしています。いいことばかりです。



とっておきのゴシンドウ★

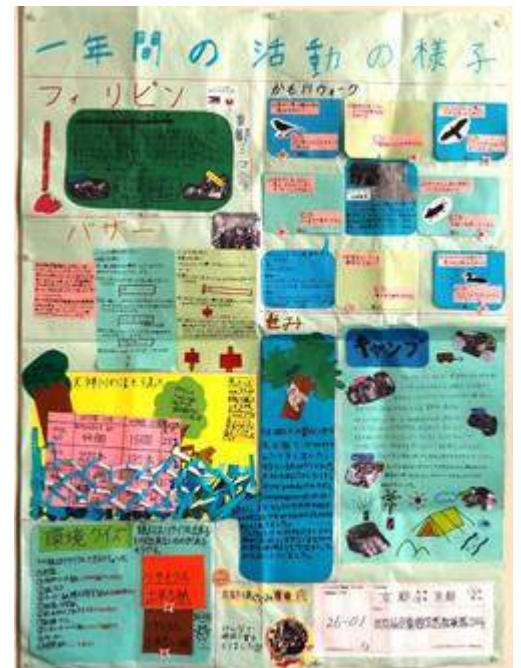
一年を通して、ザリガニ住み分け活動はとてもいいですね。目立たないかもしれないけれど、ビオトープの自然を守っていくにはとても大切なことです。産卵時期の前に念入りに捕獲するのもいいかもしれませんね。住み分けしたザリガニのデータは残っていますか。「もんどりでほかくした」数は減ってきていますか、大きさや重さをはかったことはありますか。一年の活動以外にも長年の変化も知りたいと思いました。いよいよ、来年は「ビオトープも成人式」ですね。楽しみですね。

西京極児童館自然探検隊 2004 のみなさんへ
師範から一言！

1年間のいろいろな活動についてわかりやすく知らせてくれています。クイズもいろいろあって、「なんだろう?」と開けてみたくなるようなかべ新聞にとってもよくまとまっていますね。児童館で、いろいろな学年のメンバーどうしでも楽しめる新聞になったのではないのでしょうか?

天神川の清そうは、去年よりゴミが減っているようで良かったですね!プラスチック、たばこ、ビン・カン・ペットボトルと分けてそれぞれ数えて調査したので、去年との違いが見えるようになったのだと思います。数えて調査するのは大変だったと思うけど違いが数としてわかったのは大切なことです。このままずっと調査も続けて、毎年減り続けるよう見守ってってください。

かも川ウォークでは生きものを、よくかんさつしながら歩いたようで良かったですね。生きものそれぞれの持ちようを知ると生きものすばらしさを知り生きものがもっと好きになると思います。好きになって、いろいろな生きものがすむ自然を守ってってください。生きもの観察、ごみ拾い、エコキャンプ、バザー、リサイクルなどいろいろと充実した活動が認められ「京都はぐみ憲章」を受賞されたのですね。おめでとうございます。



とっておきのゴシンドウ★

1年間の活動の盛りだくさんな内容のようすがうまくとまっています。木や川の貼り絵などとてもよく工夫して目立ち、イラストもあり、みんなでがんばって作ったのがよくわかります。すばらしいです。いろいろな内容が書かれているので、それぞれに小見出しがあるとさらにわかりやすくなるかと思えます。「フィリピン」だけでなく「フィリピンのゴミは〇〇」などみんなに知ってもらいたいことが小見出しにかんたんにまとまっているとさらに見やすいかべ新聞になると思います。

毎年、バザーでは、フランクフルトなどを売っているようですね。今、イベントでリユース食器を使うなどごみを減らす工夫が進んでいます。児童館でもエコクラブのみんなから大人に伝えて、ごみを減らす工夫を少しずつでも進めてみてください。期待しています。

京都府京都市 京都聖母アイキッズ
壁新聞のタイトル:「水・食・命のつながり」を人から学ぶ

19-26-02

京都アイキッズのみなさんへ
師範から一言！

京都アイキッズさんの新聞は、レイアウトや写真の使い方など見応えがあり、読んでみたくなる新聞に仕上がっています。どの写真からも子どもたちが楽しく体験している様子がわかります。そして、クラブの活動目的が新聞に明確にかかれており、その目的にあわせてそれぞれの活動が紹介されているところもとても良いです。とりわけ活動内容が「京都ならではの」ものばかりなので、子どもだけでなく大人の人も興味を持って読んでくれることまちがいない。

出汁の体験では、五味のちがいを実感できたようだし、おいしいお茶の入れ方も学べました。何より、日本が水道水の飲める数少ない国のひとつであることなど気づくことができました。ぜひ、お茶を入れる、出汁を取って料理するなどぜひお家でも実践していきましょう。

他にも「稲荷寿司」も作ってみたようですが、私も京都(市内じゃないけど)に住んでいますが、三角形と四角形のいなり寿司の意味のちがいはこの新聞を読んで初めて知りました。これからも、自分の住む地域の環境や文化などについてもっと知る機会をどんどん作って、周りの人に伝えて行って下さい。

とっておきのゴシドウ★

1年目の活動は、自分たちが暮らす京都の食、文化を地域におられる大人の達人から学ぶというもので、たくさんの発見があったにちがいません。新聞の大きさが決まっているのでむずかしいとは思いますが、活動を通じてどんなことを感じたかの、こどもメンバーの声、そして教えてくれた大人の感想なども書いて伝えて欲しかったなあと思います。

京都アイキッズの2年目の活動テーマは何になったのか、とても気になります。1年目の活動を受けて、子どもたち自身がどのような活動を始めたのか、ぜひ2年目の新聞で教えて下さい。



京都府木津川市 木津川市こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:鹿背山の自然を守ろう

19-26-03

木津川市こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

木津川市こどもエコクラブのみなさんは、ちがう学校・学年の子ども達が集まって、一緒に活動をされているとのこと。いつもステキな壁新聞を送ってくれていますね。今年も、黒い紙にきれいな文字で、引き締まって見えるステキな壁新聞を送ってくれました。とても目を惹き、良いですね！

荒れてしまった鹿背山の環境を良くするために、様々な活動を楽しんでいます。鹿背山がどこにあるのか、左下あたりに地図も書いてくれているので、分かりやすくして良いですね。年間の活動表もあり、いつ何をしたのかの記録もバッチリですね！

春夏秋冬それぞれどんな活動をしたのかをスッキリとまとめてくれています。活動の結果もしっかりと書かれています。鹿背山でクマゼミが見つからなかったのは、私も意外に思いました。木のアーチ、とってもステキですね。そして、おいしそうな写真や記事もたくさん。山の恵みをおいしくいただきながら、山の環境を守る楽しい活動ですね。

とっておきのゴシドウ★

内容もバッチリまとめてくれていますので、アドバイスすることがないぐらいです。ステキな壁新聞ですね。

秋の活動の中で、「台風は森にとって大切なこと」と書いてくれています。ホームページからこの壁新聞を見てくれている人も、ぜひこの部分を読んでほしいと思います。それから、バイオトイレも珍しいので、たくさんの人に見てほしい記事ですね。

これからも、こういうステキな内容を書いてほしいなあと思います！それから、例えば中学生のメンバーの感想、小学生のメンバーの感想など、同じイベントでもいろんな感想があると思いますので、そういうちがいをあえて書いてもおもしろいかもしれません。みんなで楽しく活動している様子、そして、どういことをしたら森の環境にとって良いのかということ、これからも情報発信してほしいなあと思います。



せいわエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

新聞がたくさんの記事であふれていますが、真ん中に大きな木を描くことでバランスがとれたデザインになっています。木のイラストは樹皮(じゅひ)のとくちょうをよくとらえていて、立体的にみえるのでインパクトがあります。森の木を「かんばつ」によって切ることが、元気な木をそだてて、“水源の森”を守るためであることを考えて活動をしていることがすばらしいです。まさに新聞のタイトルどおりですね。かんばつの写真をみると、のこぎりを使って大きくそだったヒノキを切ったようすがよく分かりました。のこぎりはこれまでに工作などで使ったことがありましたか？“こしをおろして切る”こといがい気づいたことや、切るコツがあれば教えてください。ヒノキの香りは私もだいすきです。全国フェスティバルで、自分たちの活動をみんなに知ってもらえたこと、そして同じような活動をしている仲間が全国にたくさんいることを知ることができて良かったですね。インターネットなどでお互いの新聞はみることができますが、会話のような意見のキャッチボールがないので交流の場があればどんどん利用してください。

とっておきのゴシドウ★

バックテストでの水質検査の記事は“見ため”と数値のちがいをおもしろく感じました。水だけでなく自然の環境を守っていくためには、こんかいのような検査や調査が必要ですが、目に見えないものを見えるようにすることによって多くの人に知らせることができます。バックテストをする場所がどんどん増えてきたら、川や湖、滝をかけた地図をつくって、バックテストの数値を表示(ひょうじ)したり、年ごとの変化をグラフにしたりするとさらに分かりやすくなると思います。



せいわエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

身近なものをつかって楽しい活動をしていることが伝わってきました。たまねぎの皮でめると、とてもきれいなオレンジ色になるのですね！ふだんはすている皮をつかった楽しい取り組みだと感じました。チリメンモンスターをさがすのは、何がみつかるか分からない楽しみもあり、それがどんな生きものかしらべることで発見があったと思います。ゾエア幼生やメガロパ幼生がカニになるとはびっくりすると思いますが、ふだん見ることができない幼生をじっくり見ることができるいいチャンスです。“ゴミ拾い”の記事で「だれがこんなごみをすてたのだろう」とありますが、ほんとにそう思います。捨てる人がいるから、ごみが落ちているのですが、いろいろな場所でおこっている問題(もんだい)です。きれいにしているようすをみて、ごみを捨てる人がいなくなると思います。 “ソラダスのかんそく”では、青森と大阪のいくつかの場所をくらべて、なぜ数値がちがうのかと考えてくれました。大阪より青森の方が空気がきれいで、緑の近くの方がきれいということですね。道に落ちているゴミは目につきますが、空気のごれはなかなか目にみえませんが、数値をみることによって気付くことができたと思います。



とっておきのゴシドウ★

北小松の20周年記念式典での丸太を100グラムに切るイベントはおもしろいです。チャレンジしてみたくまりました。木は種類(しゅるい)によって重さがちがいます。日本の木ではキリがとても軽く、水にぷかぷかと浮きます。逆に重いのは公園などで秋になるとドングリがなっているカシの仲間です。山でかんばつをしているようですね。今度木を切ったら少し輪切り(わぎり)にしてもちかえて、すぐに重さをはかってみてください。そしてまた1カ月後に重さをはかってみましょう。どうなるかな？

大阪市立旭陽中学校 自然科学部のみなさんへ
師範から一言！

個性が出ていておもしろいと思ったのは、クマゼミの調査ですね。古くから公園だったところは、いろいろなセミが時間をかけて生息する樹木を広げていますが、新しい公園ではクマゼミのように盛んに繁殖するセミが多く観察されます。セミにも樹木の好みがあると言われていて、周囲の樹木が小さいとセミの数も種類も少ないように感じます。コブシにセミがたくさん見られたのは、太いコブシだったのではありませんか？樹木の大きさだけでセミの種判別をするのはむずかしいのですが、普段観察されるセミが現れるのは※7年目の夏なので、種類が増えるのはその後になるということはわかると思います。（※正確にはまだ分かっていない）

この他にはお楽しみ会、琵琶湖(びわこ)博物館の見学、水生生物調査、クマゼミのぬけ殻調査などむずかしいテーマに取り組んでいますね。クマゼミについてもこのようなデータがあるといいですが、分らないことが多くても仮説を考えて絞り込んでみるという方法もありますので試してみたいと思います。

とっておきのゴシドウ★

メダカ、金魚、カメの飼育と野菜の栽培もやってみて、どんな成果が得られましたか？

新入生に対して身近な生き物や植物を体験して学ぶ姿勢がとても大切になって来ます。数年間の先輩たちから受け継いだ取り組みを続けていると思いますが、旭(あさひ)公園のクマゼミ調査は、どんな結果になるか、これからも注目していきたいと思います。



大阪市立新北島中学校科学技術部のみなさんへ
師範から一言！

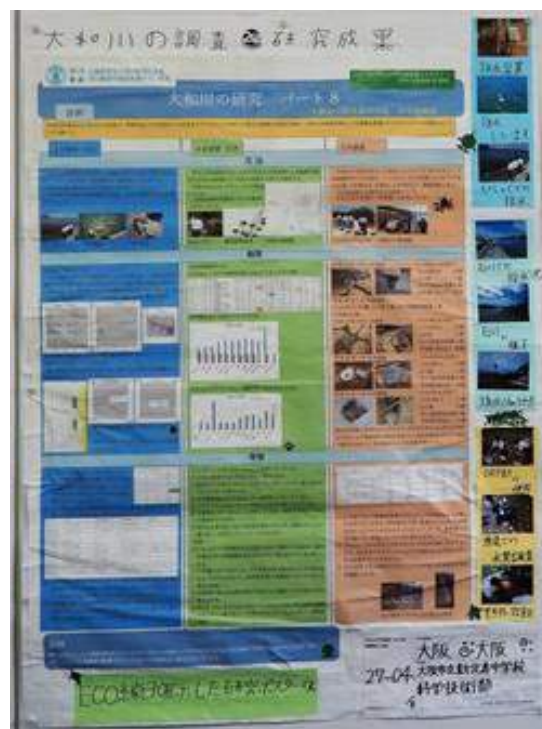
東京に住む私も大和川という名前はテレビ等で聞くことがあります。残念ながら水質があまりよくないというニュースで見ることが多いのですが、とはいえ、断片的な情報だけで実際の大和川がどういう川なのかはよくわかっていませんでした。

今回の新聞にまとめられたデータを見て、大和川の水質がどのような状況にあるのかがよくわかりました。さすが中学生だけあってよく調べられていると思います。ここでもゴミの問題があるようで、マイクロプラスチックも確認されています。この問題も今後考えていかなければいけない問題ですね。自分たちの身近な環境を調査することにより、現状が把握でき、そしてより身近に感じられることで、守ろうという気持ちも芽生えてくるものです。これからも継続した活動を期待しています。

とっておきのゴシドウ★

このような活動は、地域の環境を知るための重要な指標になると思います。サポーターの方々ともども、いろいろな困難もあると思いますが、ぜひ継続してってもらいたいものです。

一方、水辺の活動はとても楽しい反面、危険もあり、安全面での配慮も欠かせません。安全(ライフジャケットの装着等)にも留意していただければと思います。せっかくなので測定を行っていますので、大和川にはどのような生物がどのような場所に生息しているかを数値との関連を含めて発表してもらえると、より生物と環境汚染の関連もわかりやすくなるのではないかと思います。次回も期待しています。



柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーほしぐみのみなさんへ
師範から一言！

ほしぐみレンジャーのみなさん、とてもすてきな「え〜こ・レンジャー新聞(しんぶん)」をつくってくれて、ありがとう！「ミールケアエコまる賞」のじゅしょう、おめでとうございます！この新聞(しんぶん)のたくさんの写真(しゃしん)から、みなさんが「かぼん染(ぞ)め」と「いきものみつけ！」でとてもたのしくあそんでいるようすがよ〜くわかりましたので、みなさんといっしょにあそびたくなりました。給食(きゅうしょく)でつかったタマネギの皮(かわ)をつかってさまざまな、ふしぎなかたちの「かぼん染(ぞ)め」がかんせいしましたね。ふつうはすてるかわをうまくつかったところがりっぱなエコかつどうにつながったようですね。

また、ほいくえんのにわにでも、いろいろなこんちゅうなどのたくさんのいきものがいて、たくさんのざっそうや、やさいのはっぱといっしょになかよく、いきているというはっけんがありましたね。このようなはっぱも、こんちゅうも、どちらかがないといきていけないということがわかったとおもいます。みなさんがあそんでいるほいくえんのにわには、きっとほかにもこのような「自然(しぜん)」のいろいろなしんはっけんやふしぎがきっとあるとおもいますので、もっとさがしてチャレンジしてみてください！つぎの壁新聞(かべしんぶん)をたのしみにしてます！！



とっておきのゴンドウ★

はる、なつ、あきとふゆのきせつに、ほいくえんのにわで「自然(しぜん)たんけん」ができるといいね！
きっとそれぞれのきせつにしょくぶつによってはっぱの「いろ」、「かたち」や「におい」がちがったり、また「はな」や「み」もそれぞれちがいます。そしてこんちゅうのしゅるいにかんしても、それぞれのきせつによりいろいろなちがいがちがいます。
みなさんにとって自然(しぜん)がいちばんたのしい、いつまでもまもっていかなければならないたいせつなおともだちであることがきつとわかれるとおもいます。これからもっともっと自然(しぜん)のことをしらべて、「こどもしぜんはかせ」といわれようになんばってください！！

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーつきぐみのみなさんへ
師範から一言！

つきぐみレンジャーのみなさん、とてもすてきな「え〜こ・レンジャー新聞(しんぶん)」をつくってくれて、ありがとう！この新聞(しんぶん)のたくさんの写真(しゃしん)から、みなさんがどんぐりやおちばの「自然(しぜん)のおあそび」と、「すろーふーど」のうめぼしづくりやさつまいもで自然(しぜん)をおともだちとして、なかよくあそんだりつくったりしているようすがよ〜くわかりましたので、みなさんといっしょにあそびたくなりました。どんぐりで、こま、にんぎょう、やじろうべえなどのいろいろなおあそびができますね。むかしむかしのにほんじんは、どんぐりをごはんとしてまいにちたべたり、いまでもたべてもおいしいどんぐりがたくさんあります。でもどんぐりによっては、なかに たまごをうむ むしがいるので ちゅういてね。

あきになるとあかやきいろになる「き」のはっぱもあり、いちねんじゅうみどりのままの「き」のはっぱもあり、そのかたちもたくさんのしゅるいがあり、さらにとげやにおいがあつたりして、自然(しぜん)のふしぎがいっぱいあります。ほいくえんでのうめぼしづくりはとてもめずらしく、おどろきました。

さつまいものついでクリスマスリースづくりやおならクイズもおもしろいとおもいますので、チャレンジしてみてください。つぎの壁新聞(かべしんぶん)をたのしみにしてます！！



とっておきのゴンドウ★

はる、なつ、あきとふゆのきせつに、いろいろなしぜんののおあそびができて、それぞれのおあそびにたくさんのしんはっけんがあり、みなさんにとって自然(しぜん)がいちばんたのしい、いつまでもまもっていかなければならないたいせつなおともだちであることがきつとわかれるとおもいます。これからもっともっと自然(しぜん)のことをしらべて、「こどもしぜんはかせ」といわれようになんばってください！！

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーゆきぐみのみなさんへ
師範から一言！

ゆきぐみレンジャーのみなさん、とてもすてきな「え〜こ・レンジャー新聞(しんぶん)」をつくってくれて、ありがとう！この新聞(しんぶん)のたくさんの写真(しゃしん)から、みなさんがごーや、へちま、さんじゃくまめ、ふうせんかずら、ねっこ、せみのぬけがらなどで自然(しぜん)をおともだちとしてなかよくあそび、ちょうさしているようすがよくわかりましたので、みなさんといっしょにあそびたくなりました。

さらに、これらのたねのかたち、おと、いろ、さわりごこちなどのとくちょうをしらべたことにとてもかんどうしました！！さらにしゅうかくしたたねを、また らいねん もうえることは、りっぱなエコかつどうですね。

ごーやがオレンジいろになると、ごーやジュースになりとてもおいしく えいよう があるそうです。ふうせんかずらのたねははーともようだけでなく、おさるさんのかおにもそっくりですね。

2ねんれんぞくのたくさんのせみのぬけがらちょうさは、とてもがんばりましたね。このちょうさはとてもおもしろく、ぜいひ3ねんれんぞくをめざしてがんばってね。さらにこれらのぬけがらをひりょうとしてつかうことは、りっぱなエコ活動ですね。

ねっこせんしゅけんではいろいろなねっこのちがいをちょうさして、そのはっけんにとってもおどろきました！！つぎの壁新聞(かべしんぶん)をたのしみにしてます！



とっておきのゴシドウ★

はる、なつ、あきとふゆのきせつに、いろいろなしぜんののおあそびやちょうさができることがわかったとおもいますので、ほかのしぜんの おあそびや ちょうさにももっとチャンレンジしてください。そこにはたくさんの しんはっけん や ふしぎ があり、みなさんにとって自然(しぜん)がいちばんたのしい、いつまでもまもっていかねばならないたいせつなおともだちであることがきつとわかんとおもいます。これからもっともっと自然(しぜん)のことをしらべて、「こどもしぜんはかせ」といわれようになんぼってください！！

大阪府高槻市 ひじりがおかレインボーズ

壁新聞のタイトル:ひじりがおかれいんぼーず新聞

19-27-05(幼児)

ひじりがおか レインボーズのみなさんへ

師範から一言！

やさいをいろいろつくっているのですね。おせわはたいへんですか？たのしいでしょう。おじさんもキュウリやトマトなどのやさいをつくったり、レモンやブドウのくだものをつくっています。

じぶんでみずやりをしたり、そだてたものはたべたらおいしいですね。

おじさんもみんなとおなじように「うめ」もそだてていましたが、かれてしまいました。

うめジュースもおじさんもつくります。

むずかしいですね。でもひやしてのむとおいしいです。

とっておきのゴシドウ★

どんなやさいが、とれましたか？

うめやさいには、むしやとりさんはきませんでしたか？

また、こんどのときは、かべしんぶんで、やさいづくりのことやエコクッキングのことをぜんこくみんなにおしえてくださいね。

みんなでせんせいといっしょにかんがえて、またかべしんぶんでおしえてください。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★

取り組まれていることは、普段の生活に密着しているばかりでとても大切な視点で進められていると思います。

野菜を育てることも、関わる範囲や内容でもっともっと発展すると思います。雨水利用は取り組まれているし、土づくりや虫や鳥も寄ってくるので子ども達の興味もどんどん広がると思います。

セミの抜け殻も肥料にするのは凄い新しいチャレンジだと思います。

エコクッキングも幅も取組も広がりますので、これからも頑張ってください。

壁新聞は全国の方が見えていますので、楽しい活動、大事な滑動の一つとしてモデルになると思います。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

ゆきのごしよエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

児童館で“クワガタムシ”と“カブトムシ”を育ててみて、いろいろな発見(はっけん)があったことでしょう。昆虫ゼリーをあげていたようですが、どのように食べていましたか？育てるときは昆虫のからだをさわって、ぜひかんさつしてみてください。口がブラシのようになっていることに気づくはずですよ。そのブラシでゼリーをなめています。さて、森の中には昆虫ゼリーはありません。森の中のカブトムシは何を食べているのでしょうか？

“クワガタムシ”は種類(しゅるい)によって冬をこせるものとこせないものがあります。冬をこせる種類でも、外でつかまえた場合はすでに冬をこしたクワガタムシということもあります。しんぶんにはってくれた写真を見るとノコギリクワガタのようです。ノコギリクワガタはふつうは冬をこさない種類です。みどりのカーテンは、ゴーヤ、白きゅうり、パタフライピーのどれも成長してから、しゅうかくする楽しみがあっていいですね。パタフライピーは見たことがありませんが、しんぶんをよむと、まっ青(さお)な花をみたり、ハーブティーをのんでみたりしたくなりました。

クリーンさくせんは、かんそうに書いてくれたように「みんながマナーを守って、ゴミの落ちていない地域」になるべきですね。“なぜゴミをすてるのかな？”と考えてみて、ゴミをすてないよいアイデアがあったら試してみてください。

おもしろ環境化学実験では、「忍者えのぐ」と「リトマス試験紙」を使って、目に見えない紫外線を見たり、酸性なのかアルカリ性なのかを色をみて知ったりすることができて、ふしぎに感じたと思います。目に見えないと気づかないことでも、このような道具をつかうことによって気付くことができるので、環境をよくしたり、人のくらしに役立てたりすることができます。

とっておきのゴシドウ★

カブトムシのよう虫16匹(ひき)は育ててみましたか？昆虫を育てると、その昆虫の一生(たまご→よう虫→せい虫)をとおして、どのような環境やエサが必要かを知ることができます。

たとえば、カブトムシのせい虫は、つかまる木とエサがあれば育てることができますが、卵は土(ふよう土)の中にうんであったと思いますので、卵をうむためには土が必要だということが分かります。よう虫のエサはなんだろう、と考えながら育てるといろいろな発見があると思います。



しのこと・バレーヌのみなさんへ

師範から一言！

しのこと・バレーヌさんの今回の新聞のテーマは「リサイクル」、そのテーマの考え方を新聞の左のコラムにしっかりまとめることができました。そして、実践例として自分たちが集めた古着を使って新しくラグを作ったこと、その作り方とともに上手にまとめられています。

古着をさきおりして作ったラグ(じゅうたん?)のもようが神戸の町というのがとてもおしゃれです。みんなで力を合わせ作った様子もよく分かります。完成した時はとてもうれしかったにちがいません。感想からも、神戸の様子ができていく途中で楽しかった様子、座りごちの良さが書いてあるので、私も実物を見てみたいし、実際そのラグの上に座ってみたいくなりました。

とっておきのゴシドウ★

今回のテーマはリサイクルでしたが、とりわけ古着に注目してラグを作ったわけですから、一般的なリサイクルについてではなく、服のリサイクルの行方を追いかけてくわしくレポートしても良かったのではと感じます。古紙回収の時に集められた古着は、その先どのような形でリサイクルされ、私たちの元にどのような製品で戻ってくるのか詳しく伝えてくれると良いなと感じました。

さらに、新聞にも紹介している Reduce、Reuse の活動にも注目してみてもどうでしょうか？ というのも、この新聞のリサイクルを説明している場所でも、リサイクルでなく例えば、「自転車を欲しい人が買って来る」とか、「直して使う」というように、リユースについて説明しています。無駄なもの減らす(リデュース)、何回も繰り返して使う(リユース)についても今後の活動に取り入れ、自分たちでどんなことができるのかぜひ考え行動し、新聞でその活動を紹介して欲しいです。



兵庫県神戸市 神楽こども園 りんごキッズ

壁新聞のタイトル:エコしんぶん

19-28-14 幼児

神楽こども園 りんごキッズのみなさんへ
師範から一言！

おこめづくりをしたのですね。すごいなあ。とかいいにあるこども園でもそんなことができるのでびっくりしました。色がかわっていくのをじぶんの め でみることがだいじだとおもいます。

みそづくりもびっくりです。うめぼしもつくったと、かべしんぶんでよんでびっくりです。じぶんでつくったおみそやうめぼしのあじはどんなでしたか？

いまは、なんでもスーパーでもコンビニでもうっていますからおとなの人でもつくるひとはすくないのに、いいあとおもいます。

ダンボールやぎゅうにゅうパックで、こうさくもしたのですね。つくっておわりではなくて、つくったものをたいせつにつかってあそんでほしいです。

ごみひろいもしているのですね。だいじなことですから、しっかり、どんなごみが おちているかも みながしっかりひろってください。

みんながひろってくれなかったら、あめがふったら かわ や うみ にながれていってしまいます。

また、かべしんぶんで、ぜんこくの人みなにおしえてくださいね。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

取り組まれていることは、普段の生活に密着していることで大事だと思います。

様々な体験を通じて子ども達はすばらしい学びや気づきがあると思います。

先生方やサポーターの皆さんもとても準備や危機管理まで大変だと思いますが、家庭ではなかなか体験できないことを体験出来たら、子ども達を通じて家庭にも広がっていくと思います。すばらしい活動を継続されていると思います。

これからも壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの子ども達やサポーターのみなさんに紹介してください。



兵庫県神戸市 玉一アクアリウム

壁新聞のタイトル:復活・明石川にアユを戻そう

19-28-04

玉一アクアリウムのみなさんへ

師範から一言！

まずは、「ありがとう」のお礼です。みなさんの壁新聞を読んでいてうれしくなりました。活動を通じて知ったことや発見したことなど、みなさんが伝えたいと思っている情報がいっぱい詰まったすばらしい壁新聞です。『復活・明石川にアユを戻そう』、みなさんの熱い思いが伝わってきました。

外来種を調査し、駆除するという地道な活動が「目的」ではなく、明石川にアユを呼び戻すという大きな夢のための「手段」であったことがよくわかりました。日ごろの活動の目的がはっきりしていることが、壁新聞を読んでいてよくわかります。

アユを見て、匂って、触って、味わって、すべて実際に体験した内容を伝えていきます。アユが戻ってきて、明石川周辺のお年寄りが昔を懐かしんで喜ばれるのが楽しみです。孫の世代からの心がこもった大きなプレゼントです。このような地道な活動が、やがてまわりの人の意識を変え、ごみがないきれいな明石川になることを願っています。ぜひ、お世話になった人にも壁新聞の内容を伝えてください。情報発信(影響力の行使)を期待しています。

とっておきのゴシドウ★

みなさんは、日ごろからすばらしい活動を継続しています。その中でも、今回は「自らの学びがあって、他からの学びがある」についてお話しします。みなさんは明石川だけを観察し評価する(絶対評価)のではなく、「住吉川や都賀川ではどうなっているのか」、そのちがいを定期的な観察をしています。他の事例と比較評価する方法(相対評価)も採用しています。この二つの評価が定着し、バランスしていることがすばらしいと思います。他の川を見たときにも、明石川のことを知りつくしているみなさんだからこその発見があるのだと思います。がんばってください。



なんてだろう塾のみなさんへ
師範から一言！

なんてだろう塾のメンバーみなさんが、ちきゅうレスキューたいだったのですね。ざつがみとはみちかなよいところに気づいたなと思いました。トイレットペーパーのしん、ティッシュペーパーのはこ、おかしのはこなどもみんなで集めるとすごい量になるのですね。みなさんも気づいたように、リサイクルに出さないでもやしてしまうと地きゅう温だんかをすすめることになってしまいます。それをレスキューできてよかったです。

このちようさをきっかけに、これからもお家でざつがみをちゃんと分べつして、もやさないようにつづけていってください。1 か月ぐらいのちようさでこれだけの量になったので、1 年では、もっとたくさん地きゅうをレスキューできるでしょう。そしてクラスのお友だちなどにも教えてあげてさらにたくさんレスキューできるよう広めていってみてください。

レスキューたいのイラストのおどろいた顔、わらっている顔やポーズなども楽しくかべしんぶんを見ました。イラストがかかれたことでかべしんぶんが親しみやすくなっています。みなさんで楽しくかつどうし、楽しくかべしんぶんを作ったようすが伝わってきました。



とっておきのゴシドウ★

みなさんが集めた 127.9 キログラムものたくさんのざつがみは、集めたあとはどのようにしたのでしょうか？ 気になってしまいました。そして、燃やされないようにしたざつがみはその後どうなったのでしょうか？ 次は、その先のことも調べてみるといろいろな発けんがあるでしょう。ざつがみをリサイクルすることは、燃やして地きゅう温だんかになってしまうことや、燃やした灰のえいきょうを減らすのに役立つことを書いてくれています。リサイクルすることで、紙をつくるために新たに原料となる木をへらすことにも役立つなど、ほかにもいいことがあります。さいごの木 6 本ぶんというのは、二酸化炭素発生をふせぐからでしょうか？ 原料の木をへらすからでしょうか？ むずかしいかもしれませんが、よく調べてみんなでわかるように書いてくれるといいなと思いました。これから楽しくレスキューをつづけてください。

兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:あさひエコしんぶん

あさひクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

おじさんも明石川に行くこともあるので場所も川のことも良くわかります。地図もかんさつできた生きもののことも上手に書いてあるので、こどもエコクラブのみんなにも良くわかると思います。おじさんは明石川と栢谷川、伊川がいっしょになる場所と河口に良く行きます。ナマズやモクスガニ、インマキガイもいますし、河口の望海浜(ぼうかいはいま)という海岸は、ウミガメが産卵のために来たことがある海岸です。鳥もたくさんいます。川に良く生える植物もたくさんあります。まだまだ探検する場所も調べたら楽しいことも一杯あります。また継続して調べてください。

とっておきのゴシドウ★

みんなもクリーン作戦をして清掃活動していますが、明石川にとって、とても大切なことなのでがんばってください。

おじさんも明石川の河口西岸にあるウミガメが産卵したことがある望海浜のプラスチックのごみ集めに毎週くらい行っています。また、かべしんぶんで、明石川のことを全国のみんなに、紹介してください。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

取り組まれていることは、普段の生活に密着している地域でとても大切な視点で進められていると思います。明石川の魚類や生きものの観察も専門家のアドバイスを受けてしっかりと内容ですし壁新聞も良く出来ていると思います。ぜひ、保全活動ができる人材を育てることも目標の一つに挙げてください。

野鳥や植物の世界にも広げて、壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの子ども達やサポーターのみなさんに紹介してください。



あさひクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

夏休みにいっぱい活動しましたね。びっくります。楽しかったでしょうね。うずしおはおじさんも初めて見た時はビックリしました。大きな波は観たことがありますが、海がうずまくなで見ないと信じられせんよ。あんなうずを起す力で、電気が作れたいですね。古代村キャンプは行ったことがないですが、楽しそうですね。自分たちで全部を作るのはむずかしいでしょうね。ぜひ、古代村で経験したことを普段の生活でも生かして下さいね。

とっておきのゴシドウ★

牛乳パックでいろんなものを作ったり、工作したり楽しそうですね。作って終わりではなくて、作ったものを大切に使って遊んでほしいです。それが一番、大事なことだと思います。明石川清掃活動も大事です。おじさんは明石川の河口のクリーン作戦を毎日くらいしています。ものすごいプラスチックのごみが流れて来ます。また、かべしんぶんで、活動のことを全国のみんなに紹介してください。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

取り組まれていることは、普段の生活に密着していることで大事だと思います。自然や施設を仲間と訪問したりすることも良い体験になると思います。

サポーターの皆さんもとても準備や危機管理まで大変だと思いますが、学校では体験できないこと学べないことがこどもエコクラブで学べると思います。すばらしい活動を継続されていると思います。これからも壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの子ども達やサポーターのみなさんに紹介してください。

あさひクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

こうべ環境未来館に行ったのですね。どうでしたか？ 実は、おじさんは、こうべ環境未来館を作るときにがんばりましたよ。あさひクラブの活動がいいなあと思うのは、こうべ環境未来館に行く時にも、児童館からハイキングのように行けるのがすばらしいと思います。児童館の周りにもこうべ環境未来館の周りにも貴重な自然が残っています。

ピオトープはいかがでしたか？ おじさんは、形を決めて穴を掘るところからしましたよ。何を植えたり何を育てるかも調べながら作りました。

カワバタモロコも神戸市内のため池でいるところを調べて仲間と探集して入れたのです。上手く育てて良かったです。近くの明石川で採集したメダカやドジョウ、ミナミヌマエビも入れました。また、かべしんぶんで、活動のことを全国のみんなに紹介してください。

とっておきのゴシドウ★

どんぐりや落ち葉で工作を作ったり、草木染は上手く作れましたか？ ぜひ、児童館でも、作ってみてください。作って終わりではなくて、作ったものを大切に使って遊んでほしいですし、自分でもう一回、準備もして作ってみてほしいです。それが一番、大事なことだと思います。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

取り組まれていることは、普段の生活に密着していることで大事だと思います。児童館の周りも貴重な自然がまだ残っている場所があります。体験学習を継続しながら保全活動にまっつなげてほしいと思います。サポーターの皆さんもとても準備や危機管理まで大変だと思いますが、学校では体験できないこと学べないことがこどもエコクラブで学べると思います。すばらしい活動を継続されていると思います。これからも壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの子ども達やサポーターの皆さんに紹介してください。



グリーンキッズのみなさんへ

師範から一言！

グリーンキッズのみなさん、とてもすてき「グリーンキッズ No.19」のかべしんぶんをつくってくれてありがとう！！

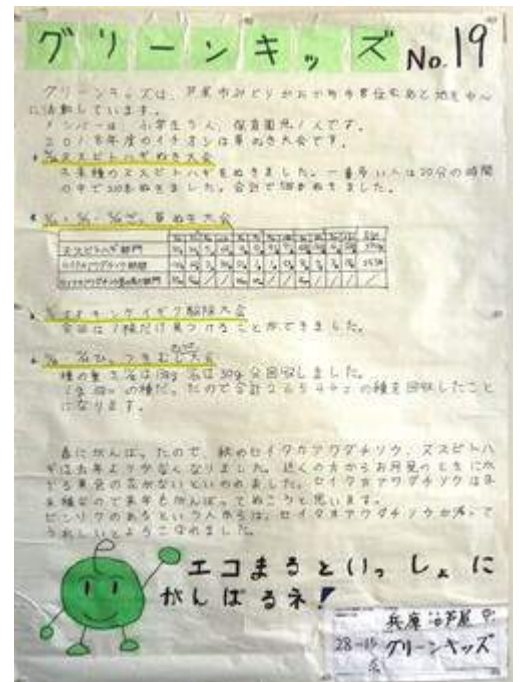
春の「ヌスビトハギ」と「セイタカアワダチソウ」の草ぬき大会、おつかれさまでした。よくがんばりましたね。これだけおおくの外来種のきいろの花がさく「セイタカアワダチソウ」の春の草ぬきをしたので、秋にはきよねんより数がすくなくなり、春の草ぬきはいせいでしたね。

「セイタカアワダチソウ」の花がたくさんさくと、かふんしょうやアレルギーせいぜんそくになるといわれているけど、これはあやまりです。秋に花がさくちがうしゅるいの「ブタクサ」という草のかふんがげんいんだと思います。また、「ヌスビトハギ」は外来種でなく、むかしから日本にある草です。「アレチヌスビトハギ」という草が外来種ですが、りょうほうとも「ひつつきむし」です。

5月から7月にきいろの花がさく「オオキンケイギク」も外来種で、できるだけ草ぬきをしてください。「セイタカアワダチソウ」も「オオキンケイギク」もむかしから日本にある草に、わるいえいきょうをあたまますので、これらの草ぬきはまいとしつづけてがんばってくださいね！！

とっておきのゴシドウ★

みなさんがすんでいる近くの外来種は草だけでなく、木、こんちゅう、どうぶつなどもたくさんあります。すべての外来種がわるいわけでありませんので、人間やいきものにとってよい外来種もあります。したがって、まずは外来種とうまくつきあうにはどのようにしたらよいかをまなぶことがとてもたいせつだと思いますので、つぎのかべしんぶんではみじかな外来種についてしらべたことをはっぴょうしてくれると、とてもうれしいです。



兵庫県神戸市 あきばだいじどうかん エコキッズ
壁新聞のタイトル:エコの森きのこ隊新聞

19-28-15

あきばだいじどうかん エコキッズのみなさんへ

師範から一言！

みなさんは、リサイクル工作をいろいろとやっているのですね。作るのも楽しいし、それを使って遊んでみるのも楽しそうです。きのこにみんなの感想が書かれていて、そんな様子がよくわかります。身近なもので、捨ててしまうようなものでも、ちょっと手を加えてきれいにしてあげることを、みんなに伝えられる新聞になっていると思います。お皿のレターラックなんかはお部屋にあると便利なな、と私も作りたくなりました。

ネイチャーゲームの様子も書かれていましたね。これは「カモフラージュ」というネイチャーゲームかな。私も時々やります。人が作ったおもちゃとかでも、周りの色と同じ色だったら見つかりにくいことを実感しますよね。周りの色と同じだと見つかりにくくするために、虫も保護色で身を守っていることがわかるんですね。すごく盛り上がりします。

そんなみなさんの楽しい活動の様子がよくわかりました。それと、この新聞で気づいたのは、2枚の新聞の周囲を、きれいないろいろな色の紙で囲まれていること。貼るのは大変だったと思いますが、にぎやかな感じがしていますね。これもリサイクルの紙で作ったのかしら。それと、きのこのキャラクターがかわいい！

とっておきのゴシドウ★

新聞は2枚になっていましたね。1枚目の最初に、みなさんの活動のことについて、少し説明があるといいかもしれません。リサイクル工作ってどんなこととか、なぜそれ続けているのかとか、みなさんががんばっている理由とか、でしょうか。こんな活動を通して、環境やエコについて多くの人に伝えたいことがきっとあるんだろうと思います。

ネイチャーゲームについても、とても楽しそうなんだけど、それをもっといろんな人にも教えてあげられるといいですね。こんな意味があるんですよ、こんなねらいがあるんですよ、ということも書いてみると、印象深く伝えることができるかもしれませんね。これからも活動を続けてくださいね。



日吉津イオン チアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

小学生9人で活動している日吉津イオンチアーズクラブのみなさんは、「エネルギー」というテーマで1年間活動をして、結果をまとめてくれました。

実際にたくさんの見学に行って、自然の力をつかって電気をつくるそれぞれの方法について、わかりやすくまとめてくれています。

この壁新聞で特にステキな記事が2つあります。1つは「OUランドのお湯をわかつ方法は2つあり、それぞれの両方の良さと欠点がある」ことをわかりやすくまとめてくれている記事。もう1つは、「鳥取県には本州で最大級のメガソーラー、雪氷熱利用など、他の地域では見られない施設がある」と、県のとくちょうを書いている記事です。どちらも読んだ人が「なるほど」「へえ～！」と思う内容ですね。

とっておきのゴシドウ★

1年間でエネルギーのことをたくさん勉強しましたね。再生可能エネルギーは、今、地球温暖化がこれ以上進まないようにするために、とっても注目されています。ぜひ、これからも、再生可能エネルギーのことに興味を持って、調べたりしてみてください。例えば、大きな施設でなくても、家庭用の太陽光パネルがあったり、家庭用の薪ストーブもあり、普通のお家でも再生可能エネルギーが活躍しています。

それから、見学したり調べたりして、びっくりしたことやおもしろかったことなどがあったら、ぜひ教えてほしいなと思いました。メンバーのみんなが感じたこと、感想も、壁新聞に書いてみるのもいいと思いますよ。

これからも、メンバーのみなんで話し合いながら、楽しい活動をしてください。また壁新聞が届くのを楽しみにしています！



上津探検隊のみなさんへ

師範から一言！

「ケロケロカエル調査新聞」はなんと12回もの発行を重ねているのですね！調査新聞を見て、その内容と、見せ方に、経験と試行錯誤の成果を感じることができました！とてもステキにまとまっています。

はじめてカエルランドのことを知る人にも、よくわかるように、ちゃんと説明が書いてありますね。この工夫はいろいろな人に見てもらうためにも大切なところです。また、年間を通じての活動の内容や報告がなされているので、どういう活動や課題があるのか、よくわかりました。特に全体の様子が書かれた「図面」がすばらしいですね。土地の様子や、まわりの周辺環境も理解しやすいので、専門家の人でも、この場所のことをよく理解でき、さらなるアドバイスももらえると思います。

活動の写真や、いきものたちのスケッチもすばらしいですね。いかにこの場所を大事にして、そして住む生き物たちのことをよく見ているのか、これだけでも十分通じます。考察の結果を踏まえて、来年に向けても具体的な計画になっているので、これから活動を考える人にも参考になるとと思います！

とっておきのゴシドウ★

壁新聞に書かれた活動やその成果も、とてもすばらしい内容でした。

特にそれぞれの記事の「タイトル」の付け方も、活動の意気込みや伝わってきて、よい工夫だと思います。ただ、「たいへんだったカエルランドの整備」というタイトルでしたが、どういう大変さがあったのか、また、「生き物ふやすぞ！水路せいび」というタイトルに対して、どういう整備を行ったかなの内容があまり書かれていなかったの、ぜひくわしく知りたいなと思いました。このように、「タイトル」は、このあとに続く記事の最も伝えたいことを意味します。タイトルと記事がちゃんと説明しあっている内容を考えてみると、記事の書き方にも工夫がでてくるとと思いますよ。



倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊ももたけ組のみなさんへ
師範から一言！

倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊「ももたけ組」のみなさん、こんにちは。
一年間の活動の中から対象を「エネルギー」にしぼることで、壁新聞の内容を
わかりやすくさせています。エネルギーについて、「昔からの知恵」と「現代の技
術」のふたつの方向から紹介しています。エネルギーについて幅広い見方をす
ることで、よく分かる「いい壁新聞」になっています。

みなさんが毎日生活する中で、あるのが当たり前のように使っているエネ
ルギーです。たくさんの方を見学して、エネルギーについて、実際に体験し
たり、学習した内容を詳しく書いています。最新の技術を見学することは未来へ
の展望が広がり、期待が生まれます。未来はみなさんの時代です。学習する時
にみなさんが気付いたことや感じたことを素直に書いています。これが大切で
す、いいですねえ。

まとめに書いている「エネルギーを大切に使う」、たいへん大切なことに気が付いています。そのためには、どうするのだろう
ね。みんなができることは何だろうね。みんなで話し合った結果を、「まとめ」と「行動せんげん」に書いています。みなさんの気
持ちは素直に表現した「いい壁新聞」です。

とっておきのゴシドウ★

紙面の半分以上は「石井さん家」のことで。このきれいな景色を守るために、私たちにできることは何だろう。自然を大切にす
ること、山の手入れに参加すること、命を大切にいただくこと、たいへんすばらしいことに気が付いています。こちらも「まとめ」や
「行動せんげん」とのつながりがあるといいと思いました。

新聞を作る時には学んだことをたくさん伝えたいと思います。でも、読む人はみなさんがどのように思って、どのように行動した
いと考えているのかも知りたいものです。壁新聞をつくるときに、みなさんが「伝えたいこと」と読む人が「知りたいこと」のバラン
スを考えることが大切です。むづかしいですねえ。でも、みなさんなら、きっとできると思いますよ。



倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊クマハム隊のみなさんへ
師範から一言！

倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊「クマハム隊」のみなさん、こんにちは。
エネルギーにテーマをしぼって活動をまとめているので、壁新聞を読んだ人にも
内容が伝わりやすくできています。エネルギーのことをたくさん学習して自然
の大切さにも気がついていく過程(経過)がよくわかります。ど真ん中の木がいい
ですね。これが、みなさんがめざしているゴールを象徴的に表現してると思い
ました。みなさんの気持ちがよく伝わってくるすばらしい壁新聞です。
マスキングテープを使って紙面を飾ったり、みつばち「はっちー」がお願いするア
イディアなど工夫がたくさんあります。

読む人にみなさんの気持ちがよく伝わります。まとめとわたしたちの行動宣言の
記事をつくって、そこに活動で感じたことや考えことを読む人にわかりやすく書い
ているのもよいアイディアだと思いました。

まとめにある『自然に対して、けんきょに！！おもしろい！！』、みなさんはたいへんすばらしいことに気が付いています。そし
て、そのことを壁新聞で多くの人に伝えていきます。すばらしい情報発信です。まさしく「みんなで地球を守ろう新聞」になっていま
す。

とっておきのゴシドウ★

みなさんの新聞の名前は「みんなで地球を守ろう新聞」ですね。こんなことを考えたことはありますか。『地球を守る』とはどんなこ
とだろう。地球を何から守るのだろう。クマハム隊のみなさんはどのように思いますか。地球を攻撃しているのも、守っているの
も、われわれ人間かもしれませんね。

地球を守る時に大きな味方になってくれるのが「太陽エネルギー」です。水力、太陽光、風力すべてのおおもとすべて「太陽エネ
ルギー」です。そこで、大切なことが「自然共生」ですね。自然に対して、「けんきょに、おもしろいをもって」、自然とつながっていつ
てください。



岡山県倉敷市 倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊

壁新聞のタイトル:①エネルギークリーン新聞②みんなで地球を守ろう新聞③守ろう地球つくろう未来新聞

倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊チームグリーンのみなさんへ
師範から一言！

倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊「チームグリーン」のみなさん、こんにちは。一年間で、ずいぶんたくさんの活動をしているのですね。その中から、テーマをエネルギーにしぼりこんで壁新聞をつくっています。自分たちが伝えたいことがよくわかる壁新聞になっています。りっぱな『守ろう地球、つくろうエネルギー新聞』です。紙面は、体験談だけではなく、読む人が興味を持つようにクイズやニュースがあって工夫しています。イラストや写真もたくさんあって、「わかりやすい新聞をつくろう」というみなさんの気持ちが伝わってきます。たくさんの活動の中から、自分たちが伝えたいことを新聞に上手にまとめています。最初に、知っているようでなかなか説明できない「エネルギー」について、そもそも「エネルギーって何だろうね」と読む人に疑問を投げかけています。新聞を読む人を引き込むのに良い方法です。活動を通して分かったこと、考えたことがよく伝わってきます。

とっておきのゴシンドウ★

エネルギーを節約することは、エネルギーを生み出していることにもつながります。エネルギーをつくる場所は「発電所」、エネルギーを節約する場所は『節電所』です。行動宣言にあるように、みなさんのおうちはりっぱな『節電所』ですね。この新聞を読んで、たくさんの『節電所』ができて、『火力発電所』がひとつでもいらなくなることを願っています。
『エネルギーって何だろうね』、結局みなさんの答えはどうだったのかな。知りたいたと思います。学校の問題には正しい答えがあることが多いと思います。でも、みなさんの質問には答えがたくさんありそうです。みなさんが思いついたことや考えたことはすべて答えです。「エネルギーって何だろうね」もう一度この新聞を見ながら話し合ってください。



広島県広島市 イオンチアーズクラブ 広島祇園 よつば隊

壁新聞のタイトル:よつば隊1年間の活動記録

19-34-01

広島祇園イオンチアーズクラブ よつば隊のみなさんへ
師範から一言！

一人ひとりの気持ちが「エコ川柳(せんりゅう)」によく表れています。みんなで作り上げたことがよく分かるいい壁新聞です。みなさんが毎日生活する中でどんな工夫をしているのか、どんなことに気を付けているのかがよく分かります。山本川のごみを拾ってくれて、どうもありがとう、ご苦労様でした。毎年掃除してくれているみたいですね。山本川の歴史は勉強しましたか、昔からみんなで守ってきた大切な川ですね。ところで、ごみはどこから来るのでしょうかね、ふしぎですね。『ごみを少なくするには、どうしたらいいでしょうね』。みんなで、考えてみましょう。掃除しなくてもいい山本川になるともいいよね。来年は、今年よりゴミが少なくなるといいなあ。
みなさんが、この一年間、学習したり、行動したことがよく分かります。24時間チャリティ募金など人に伝える活動もしていますね。このように、まわりの人といっしょに活動することも大切です。それがSDGs17番目の目標で大切にしているパートナーシップだね。みんなで協力することはエシカル活動もいっしょだね。

とっておきのゴシンドウ★

よつば隊のみなさんはたくさん活動しているから、お知らせしたいことがたくさんあったみたいだね。でも、たくさんの活動のうち、壁新聞ではどの記事を一番読んでほしいと思ったのかな。そして、読んでほしいと思った記事をどこに書いてくれたのかな。新聞を作るときに、記事の大きさはどのくらいにしよう、どこに書こうなど、どうすれば見やすくなるだろうとみんなで相談するのも楽しいよ。一年の活動を思い出しながら新聞を作るのもりっぱな活動だね。来年の新聞を楽しみにしているよ。



あわっ子！エコ！クラブのみなさんへ

師範から一言！

いくつかの色を組み合わせ配置することで、にぎやかで楽しい新聞に出来上がっていますね。記事の内容も藍の有効活用や食材の地産地消、吉野川のことなど、徳島県という地域のとくちょうがよく伝わる内容になっていると思います。

みなさんが徳島県ならではの活動に積極的に参加してきたことがわかりますよ。記事ごとに活動日・場所・分野を書いてくれているのもいい工夫ですね。読んだ人が活動の様子を具体的に想像しやすくなると思いました。なかでも徳島県で有名な藍染について、染めの工程を方法ごとにていねいにまとめてくれているのが印象に残りました。また吉野川は昔から清流として知られていますが、吉野川水系の飯尾川ではCODの数値が高かったのです。どうしてなのでしょう。活動を通じてわかったこと、不思議なこと、問題点を書いてくれており、新聞を読む人の興味を引くことができていると思います。

とっておきのゴシンドウ★

写真をたくさん使っていることで楽しい新聞に仕上がっているのですが、一部の写真が小さく、見にくいものがあるようです。せっかく撮った写真は上手に使いたいですよね。写真を撮るときに、「なにを撮りたいか」をしっかり考えながら撮影するといいいですよ。もしくは壁新聞にはったときにどのように見えるのか、イメージしてみてもいいですね。もしあまり良い写真が撮れなかったときには、イラストで活動内容を表現してみるなどし、あえて写真は使わなくてもいいかもしれません。どのようにしたら相手によりうまく伝わるか、色々工夫してみましょう。



シオン・エコサイエンスクラブのみなさんへ

師範から一言！

まず、うどんのイラストのタイトルが香川県のクラブであることを印象づけています。読者の注意を惹きつけるともよいしかけです。内容についても、地球温暖化問題、ごみ問題、自然環境の保全、と多岐にわたるテーマをバランス良く記事にまとめてくれました。まず、地球温暖化については、温暖化の原因になっている二酸化炭素濃度を継続的に調べ報告しています。私たち人間には目に見えない二酸化炭素を数字で見える化し、そして何年かにわたって観測を続け、二酸化炭素濃度量の変化を考察しているのが素晴らしいです。さらに、地球規模の問題を自分たちの生活と繋げて記事が書けているところも大変よいです。長期的な調査については、水質調査も15年以上続けることができている、その変化を考察できていることもすごいです。他の2つのテーマもうまくまとまっていますが、私が一番いいなあと思ったのは、ごみ問題のコラムです。これまでのリサイクル活動に併せて、リユースについて深く考えられているところがとても良いと思います。いずれにしても、この新聞では、それぞれのコラムが分かりやすく簡潔にまとめられており、読み応えのある新聞に仕上がりました。

とっておきのゴシンドウ★

川の水質調査の結果をもう少し詳しく分析してみてもよかったですね。たとえば、川の上流と下流など、何カ所か調べた場所の水質のちがいとその原因を探ってみるのもいいですし、緑の線で表している鹿の井出水西側の水質は2016年度以降透明度が悪くなっているようですが、その原因が何か考えて結果を書いてくれるとおもしろかったかもしれません。また、ごみを減らす活動については、リサイクルだけでなくリユースにも注目したわけですから、みんなが考えたりユース活動を年間のイベントの中で実践し、ぜひ、その活動を次の新聞で報告してほしいなあと感じます。たとえば、おもちゃのリユースを進める「かえっこバザール」など子どもたちでもできるリユースの活動があるので、シオン・エコサイエンスクラブの「かえっこバザール」を実施してみるのもいいかもしれません。他にも、自分たちでできるリユース活動を見つけて実践し、ぜひ他の人達にも教えて下さい。



香美市こどもエコクラブ 自然となかよしのみなさんへ
師範から一言！

「自然を守る私たち」と言うタイトルで、舟入小学校の3年生から6年生の4人の自然となかよしクラブが作ってくれた壁新聞は、絵と写真がちょうど良く配置されていて、文章(記事)がわかりやすく、読みやすい新聞になっています。そして写真がとってもきれいでネットまきやアユ救出などのみんなの活動やウラジオモミやリョウブなどの木のじょうたい、タラカラムツやヒメキンソウなどの花の美しさがよくわかります。

「森は元気ですか」「森はあれている 助けなくてはい」と大きな字で書いてあり、この新聞のテーマがひじょうにはっきりしていること、およびみんなの考えと意識もこのことに集中して、この壁新聞のすばらしさが良く分かります。

アユの救出大作戦をやりました。せきをのぼれなかったアユをアミですくい取り、せきの上に運んだのですね。たくさんのアユを助けました。しかし、7月、8月のごろ雨さいがいでアユがほとんど死んでしまったとのこと、ほんとうに残念ですね。でもこれにこりないで、次のきかいにまた、アユを助けるようにしてください。

一番おどろいた、うれしかったのは、この前40cm位だったブナの木が、今度行った時には67cm位に大きくなっていることだとのこと。少しずつみんなの努力が実をむすぶようになっているのですね。良かったですね。あきらめしないで大事に育ててください。

「おわりに」に山、森を育てることの意味や大事さ:すなわち、山が水をためてくれる、さいがいを防ぐ、CO2を吸収し、さんそを出してくれる、野生の生き物やきょうな花を育ててくれる、とまとめてくれました。そして私たちが山を見て、森林を見て、歩いて気持ちよくしてくれることもありますよね。自然を守るクラブの活動のいきが集約されています。次の壁新聞では、ブナの木がどの位大きくなっているか楽しみです。そして、山が森の山にいずれなるでしょうから、クラブのみなさん、あきらめずに活動をつづけてください。おうえんしています。



とっておきのゴシンドウ★

この壁新聞の最初の記事は、木の倒木(とうぼく)と言うとどこにでもありそうな、そしてそのことが意味していることは、たとえば、強風や台風でたおれたのでしょうか、とそれほど気にならないかも知れませんが、“そうではない”とても大きな意味を持っていることです。なぜ、たおれたのでしょうか？大きな木、年がたつと根っこも大きくなるが、どんな木もたおれてしまうと書いてありました。でも壁新聞を読み進んで行くと 根っこがだめになったからです。なぜ、根っこがだめになったのですか？私が読み取ったのはシカが木の皮を食べてしまい、木のいきおいが弱くなったのではないだろうか？どしゃくずれで根っこを支えきれなくなったのでは？とも読めます。

シカが木の皮を食べてしまう写真がいっぱい出ていました。植えたばかりの木は、葉っぱもやわらかく、皮もやわらかいのでシカが好んで食べてしまうのでしょう。したがって、シカが食べないようにネットで木のまわりをかこっています。自然となかよしクラブのメンバーも、木を植えることとネットで囲うことをやりました。木をふやさないと山はどうなるか？

そうです！はだかの山に雨がふると土が流れてしまいます。どしゃくずれがおきます。植林で木のなえを植えてもシカがたべてしまうとりっぱな森ができません。そうするとどしゃくずれがおき、大きな大木もたおれてしまう。それと森があると雨の水が山にたくわえられ、いろいろな植物や花が咲きみだれ、植物だけでなく虫やこんちゅう、動物も元気に生きていけます。

このような生き物のじゅんかんをりっぱにするためにも、森をだいにするひつようがあります。昔は日本にもオオカミがいて、シカを食べていました。シカがてきとうな数、山にいましたが、日本オオカミがぜつめつしたため、シカの天敵(てんてき)がいなくなって、日本の各地でシカの害が出ています。狩猟(しゅりょう)(鉄砲(てっぽう)やわな)でシカの頭数をへらしているようですね。シカをころしてしまうことに、かわいそうだと思うかも知れませんが、でもシカや他の動物や植物、森がバランスよく生きていることが、とっても大事なことです。バランス良く生き物が生きていることが、シカにとっても幸福なことだと分かるようになります。バランス良くシカが生きていれば、森も枯れることなく、鉄砲(てっぽう)やわなもひつようなくなります。みなさん、分かりますよね。今はバランスが取れないくらいシカがふえているので、シカのエサも不足して木の皮をたくさん食べているのです。森がなかなか育たないげんいんがシカにあります。分かりますか？

今、日本では林業がおとろえて、人も少なくなっています。香美市も同じようになりつつあります。高知県は林業をかつぱつにするために高知県立林業大学校を作って、昔のように林業をふつつさせようとしているのですね。日本では海外からたくさんの材木をゆにゅうしているようですが、日本の中で木材を使えるようにしたら、お金を外国に出さなくて良いでしょう。

山に行くとたくさんの花に出会います。物部の山の希少植物の花をたくさん新聞にはってくれました。こんなにたくさんの花がほろびそうになっているとのことですが、どうしてほろびそうになっているのですか？これもシカが食べてしまういきょうですか？木がシカに食べられないようにネットなどで囲っているようですが、希少植物もシカに食べられないようにするのはどうしたらいいのでしょうか？



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ みどりクラブ
壁新聞のタイトル:地産地消でエコ料理! 19-39-04

香美市こどもエコクラブ みどりクラブのみなさんへ
師範から一言!
たくさんの料理を開発したのですね。すごいです。写真を見るとどれも美味しそうですね。
みなさんが「しようと思ったわけ(動機)」、「目標」をしっかり考えて活動をしていることがよくわかります。とてもよいことだと思います。
読む人にとって、その活動にどうして取り組もうと思ったのかな、ということが書いてあると、共感を得られて印象に残ります。
また、目標を立てているのも良いですね。目標を達成できなかった場合も、なぜ達成できなかったか、についてふりかえれば次に活かすことができますよ。
私は子どもの頃は、ショウガが苦手でしたが、今はカツオのお刺身に付けたり、生姜焼きを食べたりすることができます。苦手な人でも食べられる料理があるといいですね。

とっておきのゴシドウ★
レストランで販売してみて、お客さんの反応や感想を知ることはできましたか?もしわかれれば、知りたいなと思いました。
その場で食べた料理だけでなく、お客さんが普段、どんな風にナスやショウガを使っているのかを聞いてみると、新しい料理開発につながるかもしれませんね。
地元の食材を食べることは、食材を運ぶ際にかかるエネルギーを節約することにつながります。ぜひこれからも地元の食材を活かした料理をアピールできるようにがんばっていきましょう。



香美市子どもエコクラブ 自ぜんとふれあい隊のみなさんへ

師範から一言！

自ぜんとふれあいたいのみんなが作ってくれた「エコクラブ 大すき わたしたち」のかべしんぶんをよみました。とってもびっくりし、かんどうしました。とってもすばらしいかべしんぶんでした。

水ナスをとりました。ハウスの中でナスをとったのですが、ナスがいいにトマトやピーマンもありましたが、トマトはまだあおかったので、とりませんでした。ナスがおおきいのがたくさんなっていたようですね。それをいっしょうけんめいにとったので、つかれたけど、やすみながらたくさんとりました。いえにもちかえり、ごはんのときにたべましたが、たくさんあったので、まいにち、たべたようですね。ナスは子どもたちは、あまりすきではないとききましたが、そうではないようですね。まいにち、たべてもまだたべたいのかんそうがかいてあり、わたしはビックリしましたよ。でもわたしもナスは大すきですよ。おいしいよね！

お茶をつみました。お茶の木があることと、はっぱがお茶になることがわかってよかったですね。ウーロン茶みたいなあじがしたとのこと、じぶんでつみとったお茶をのんだのは、ふつうはできないけいけんですから、よかったね。お茶はすこしにがいですが、おとなはすきですが、みんなのようなちいさいこどもには、なかなかおいしいとはならないかな？

ししとうをとりました。ししとうたくさんとったようですね。みんなががんばってとったことが、ここでもわかりました。いえにもちかえて、りょうりをしてたべて、おいしかったのかんそうには、わたしはビックリしました。みんなのようにちいさいこどもには、にがてなやさいであるときいていましたので・・・でもやっぱりじぶんでとったやさいは、おいしくなるものであることをみんながしょうめいしてくれたようです。



高知県香美市 香美市子どもエコクラブ 自ぜんとふれあいたい

壁新聞のタイトル:エコクラブ大すきわたしたち

ちいさなアユをとって、川の上のだんにはなしてやったようですね。なかなか上にのぼるのはちいさなアユにはできないので、みんながたすけてあげたようです。でも水がつめたかったので、とちゅうであたたかい石であしをあたためながら、やったようで、すばらしい いきものたすけになったとおもいます。でも、台風がきたときに、まっさきにみんながしんぱいしたのは、アユがどうなったかでしたね。じぶんたちでたすけたので、しんぱいになりますよね。たぶん、アユもなんとかいきのびようとがんばったとおもいますよ。おおきくなってみんなのところにかえてくるとおもいます。

イカダ作りにもちょうせんしたのですね。ペットボトルで作れるのですね。バラバラにならないように、そしてイカダにのっている人がこけなくふうもしました。さいごにみんなはイカダにのったのですか？ちょっとこわいなー！川ではなくて、あしのとどく いけ などためしにのれるとうれしいですよ。

とっておきのゴンドウ★

日記を書いたよ！ひとりひとりがたくさんのことをやりました。それをひとりひとりがじぶんのことばで、じぶんのきもちで、じぶんのじでかいてくれましたね。これをよんで、またビックリしました。なにがびっくりしたかというと、みんながエコのことをかんがえながら、せいかつをしている、あるいはくらしていることがたくさんかいてあったことです。

じぶんちのいえはだんねつざいでかべをつくっています。ふくのいろであたたくなったり、すずしくなるよとわかりましたね。よるおそくまでおきていないで、はやくねるとでんきをたくさんつかわなくてよいのでエコです。あさがおをまどのところでおおきくすると、日ざしをさえぎってくれて、エアコンをつかうのがすこしでよいからエコです。エアコンのおんどをさげたらエコです。あぶらをはいすいとしてながさないと、ちきゅうがよごれないよ、ペットボトルはりさいくるにだす、にんじんをかわごとたべるとごみがすくなくなる、水をたいせつにつかうこと、しかが木のかわをたべて木をだめにするこことや、でんきはどやうやって作るのか、などなどたくさんエコにきがきましたね。5さい、1ねんせい、2ねんせいのみんながこんなにたくさんエコをかんがえてくれるのは、とてもすばらしいですし、ビックリしました。

ヘチマのしゃしんもいいねー。アユをたすけたしゃしんもみんなのかつどうがよくわかっていいねー。りょうりのしゃしんも、こんなにたくさんりょうりをみんなでつくったようすばらしいです。ほうちょうでけがをしなかったかな？そしてじぶんでつくったりりょうりは、とてもおいしいとおもいます。どうでしたか？わたしもたべたいなー！！

これからもひとりひとりがやったことやきがついたこと、こうしたいことなどをかいてかべしんぶんとして作って、おくってくれるとうれしいです。がんばってね！！

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーアドベンチャー 壁新聞のタイトル:賢い選択! Cool Choice! 身近なエコでも地球は守れる

香美市こどもエコクラブ ハッピーアドベンチャーのみなさんへ
師範から一言!

2年生から5年生までの6人のハッピーアドベンチャーの皆さん、とってもすばらしい壁新聞を作りましたね。みんなの思いを何とか全国のみんなに伝えたいとの気持ちで書いたので、新聞のはじからはじめでいっぱい活動が書いてありますね。ハッピーアドベンチャーの壁新聞のすばらしさは、何か?書き出すといくつでもありますが、私が感激したことをいくつかあげます。
一つ目のすばらしさは、「はじめに」のところにも書いてありますが、エコなことってななに?すごい大きなことをやる事ではありません。すごく大変なことをやる事でもありません。お金と時間をかけてやることでもありません。みじかなちょっとしたこと、あるいは、実は、すでにみんながやっていること、当たり前のことをもう一度見直して、そうか、こんなこともエコなんだと気が付くことですね。
このことに気が付いたハッピーアドベンチャーのみんなのすばらしさに、ばんざい!はくしゅ!!です。新聞は読み終わったらリサイクルに出して、もう一度新聞紙にすることも大事ですが、みんながやれることを発見しました。防災用の新聞ヘルメットや新聞スリッパを作りました。



じしんや火事でひなんする時に足元に何が落ちているか分かりません。あるいは、上から何かが落ちてくるとも気をつけたいですね。そんな時にみじかにある新聞を利用してみようと考えたのですね。良いですねー!
新聞って、もっとうまく利用できるよ!と教えてくれました。新聞スリッパを作った時に気が付いたとのことですが、ぬのをはりつけて少し水にぬらすと手をよごさないぞうきんにもなる。そうか!すばらしいことを発見しましたね。新聞防寒もできると発見しました。オーバーのように上からかぶる、あるいは服の中に入れても良いですね。保温効果があるのですね。
みんなは、ごみの問題にも目が行きましたね。道ばたや広場、あるいは川や海にごみがあったらどうだろうか?と考えましたね。学校の行きかえりに道にかなやペットボトル、たばこのすいがら、おかしなふくろなどがあると、きたないよね。みなさんばかりでなく、ちいきの人たちも、イヤな気持ちになると思います。川や海にあるごみを魚やかめが食べたり、鳥がごみにからまったりして困っています。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーアドベンチャー 壁新聞のタイトル:賢い選択! Cool Choice! 身近なエコでも地球は守れる

特に最近はとても小さくなったプラスチック(マイクロプラスチックと言います)を魚などが食べたりしてしまいます。レジふくろのような大きなプラスチックも陽に当たり、風にふかれたり、石にあったりして小さなプラスチックに分解します。みんなのすばらしさは、ごみと考えるのでなく、工作をする原料と考えていることです。
ペットボトルでいかだを作りました。ペットボトルのふたでぶんぶんごまを作ったり、ままごとにも使えるよ。小さくなったえんぴつにキャップをつけるとえんぴつが長く使えるよ。ダンボールや牛乳パックも工作して、何を作ったのかな?牛乳パックから紙をつくるのは、私もこどもたちといっしょにやります。私の家では牛乳パックの中にひまわりの種をいれて、小鳥たちのえさばにしています。
同じようにハッピーアドベンチャーのみなさんも、自然、生き物を大事にする活動もやっていますね。馬もエコだ!と気が付いた植木さん、すばらしいことに気が付きましたね。と言うよりそういうことに注意をはらっている植木さんはすばらしいエコ人間ですよ!5年生の植木さんは植じゅをしました。木を植えることで空気中の二酸化炭素をへらすことができます。地球温暖化の進行をおくらせることができます。すごいエコですね。村山さんはアユの赤ちゃんをすくいだしたのですね。せきの下でさんけつじょうたいになっていたアユをすくって、せきの上に放してくれたのですね。大きくなってもどってくるのが楽しみです。
「みどりの小道」環境日記で、団体が金賞をとりました。個人部門でも銀賞を取りました。
とってもすばらしいです。ふだんからエコに注意をはらい、関心をもっているみんなの考えと心が評価されたのだと思います。それにしても金賞、銀賞をとったとは、ばんざい!ばんざい!ですね。日記の一例も教えてくださいました。ごみ工作の話や海ごみのことも書いてありました。調理実習のことが書いてありました。土方さんの経験かな?自分たちの土地でとれた野菜や肉もあるのかな?地産地消の料理の写真は、おいしそうですね。私も食べてみたいです。それともう一つ大事なことが書いてありました。食べ物に感謝するということです。
当たり前に考えてしまいがちですが、食べられること、食べるものがあること、食べるものを作っている人に、海などからとっている人に、“感謝”する。とっても大事なことです。
次の壁新聞ではどんなすばらしい活動をほうこくしてくれるか、たのしみです。

とっておきのゴシドウ★

最後に私も小学校に行って環境の授業をやります。そのうちの一つにごみを増やさないようにとすることで、ふろしきつつみ体験をこども達といっしょにやります。買い物ふくろをつくったり、本をつつんだり、ビンをつつんだり、リュックサックをつくったり、防災づきんやけがをしたときの応急しよちなどをやります。こども達はふろしきつつみ体験はとっても楽しくて、リュックサックを作って教室の中を動き回っています。
ハッピーアドベンチャーのみなさんもふろしきつつみもぜひやってみてください。

香美市子どもエコクラブ リサイクルチームのみなさんへ
師範から一言！

新聞のタイトルのように、楽しさがあふれるようなデザインになっていますね！まずひと目見て、どんなことが書かれているのだろう！ととても読むのが楽しみになりました。

風船の中の記事には、みなさんがエコクラブの中で、様々な体験や学習の中で、いろいろなことを学び、発見して、楽しかったことがたくさん書かれていました。中には大変だったこともありましたが、みんなでチャレンジして、協力してやりとげたことが書かれていましたね。

特にこれまでの活動を、一枚の壁新聞にまとめることは、大変だったようですね。でも自分の体験や気持ちをまとめて伝えるということは、さらに大きな力にもなりますし、それがまた次の体験にもつながります。今回の壁新聞に書かれた風船のように、みんなの活動が高く広がっていくことを期待しています！

とっておきのゴシドウ★

今回の壁新聞では、たくさんの体験と感想がぎゅっとなつたデザインになっていますね。とても魅力的な新聞になったと思います。そうすると、どんなメンバーがこの新聞に参加したんだろう？と興味をもちました。メンバーやチームの紹介があれば、この活動記事も、より楽しく読めたのではないかなと思います。

特に、情報がたくさんあるということは、反面、読む人の興味が分散してしまうということもあります。

今回はそれぞれの風船の色も楽しめたり、活動写真もついて、活動の内容もわかりやすく工夫していますが、「タイトル」つけや、メンバー紹介など、さらに、一つ一つの記事の特徴をつけるという工夫もつけてみるといいでしょう！



高知県香美市 香美市子どもエコクラブ みどりサイクル

壁新聞のタイトル:①世界一楽しいのはエコクラブ ②猛暑を「クールビズ」で乗り切ろう！
推薦

19-39-01、02 全2枚 2枚とも

香美市子どもエコクラブ みどりサイクル①の新聞を書いたみなさんへ
宮川師範から一言！

環境大臣賞おめでとうございます！

「世界一楽しい」という新聞のタイトルの通り、とても楽しい壁新聞ができあがりましたね！

たくさん活動をおこなった出来事をすごろくゲームのように、楽しくわかりやすくデザインしたのはとてもいいアイデアです！さらに、私がすばらしいと思ったことは、主体となる活動については、十分なスペースを確保して、しっかり記事でまとめたことです。自分たちの伝えたいことしっかり壁新聞の中で表現できたと思います。

また、写真と説明にバランスもいいですね。ちゃんと相手に理解してもらいたいことがわかりやすく伝わっています。

これまでとても苦労した分、すばらしい賞を得ることができましたね！

とっておきのゴシドウ★

今回、こうして環境大臣賞をもらえるような壁新聞に仕上がったのも、これまで「環境日記」などの活動で培った経験やアイデアが積み重なったものだと思います。環境活動では、失敗や苦労もたくさんめぐりあいますが、それをみんなで乗り越えていくと、ちゃんと力になって、楽しさも広がります。今回の壁新聞では、みなさんの努力と工夫の積み重ねを強く感じることができました。

今回は、全体のデザインも魅力的でしたが、それぞれの活動の内容もとても興味を引くものでした。「エアコンなしで過ごす実験」では、みんないろいろ知恵を絞って点数化したみたいですね。また、地産地消のレシピもすばらしい活動です。こうした実験やレシピの紹介では、表や絵などもつかって表現できると、文字の数を減らしつつ、小さい子どもたちにも理解しやすい内容になるんじゃないかな、と思いました。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ みどりサイクル

壁新聞のタイトル:①世界一楽しいのはエコクラブ ②猛暑を「クールビズ」で乗り切ろう！

香美市こどもエコクラブ みどりサイクル②の新聞を書いたみなさんへ

岡本師範から一言！

夏をどうしたら涼しく過ごせるか？と言うことでエアコンをできるだけ使わずに過ごす方法として、「服の色」と「住まい」についてヒアリングと実験を行い、答えを見出そうとしました。みどりサイクルのみなさんが壁新聞として、自ら実験をしたり、ヒアリングをするなどで答えを見つけようとした姿勢は、とってもすばらしい。ほかの人、グループにも大変、参考になるやり方だと思います。どこかの情報や記事だけでまとめるのではなくて、自ら体験、実験するのはすばらしいです。

夏にエアコンなしで涼しく過ごす方法の調査実験もおもしろいですね。

もっとも、涼しく過ごす方法ですから、人間がどう感じるかを調べる実験だと考えれば、うまいやり方だと思いますが。涼しく過ごすというより涼しく感じるかの実験でしょう。

涼しく過ごすと言うことでは、首にぬらしたタオルをいたり、保冷剤を首にくなどは、ある時間、涼しくなるので良いでしょう。アイスを食べたり、氷水に足を入れるのは、その時だけの涼しさであり、涼しく過ごすというのは無理かな？窓を広く開けることは、昔、最高温度が30℃の時代には、ある程度有効でした。それは一つには、空気がそれほど温度が高くなく、窓を開けて風を通すことで、身体からがして体温を下げたので有効でした。

しかし、最高温度が35℃をこえる今日この頃では、風の温度も高く、をさただけでは、涼しく感じないでしょう。むしろ、35℃を越えるような日には、窓を開けずにいたほうが、少しは涼しいのかなと思います。外の空気の温度より家の中の空気の温度の方が低いかも知れません。そんなことを調べてみるのもおもしろいかも知れません。

クールビズファッションショーはおもしろい試みですね。これは涼しく感じるかのファッションショーですね。おおよそ予想通りの結果だったと思います。

「ガラス2重の家は涼しい」ことの実験もおもしろい結果が出ていますね。これらの実験結果をどう考えますか？住宅展示場のや窓ガラスが3重、4重になっていることとみなさんがミニチュア模型で実験した結果、ガラス、レースのカーテン、すだれはどれも1枚より2枚の方が箱の中の温度が低いことは、どう考えますか？みなさんの実験と住宅展示場の場合で共通することは、2枚あるいは3、4枚にして間に空気があることです。窓ガラスが熱を通しにくくしていると展示場の人は言っていますが、正確にはどういうことかと言うと、空気が熱を伝えにくくしていることです。ですから、みなさんが行った実験でも2枚にしたほうが、間の空気が熱を伝えにくくしているので、中の温度が低くなります。この現象は、実は服を着る時にも当てはまります。冬場は厚着をすると寒さを防げるのは、服を重ね着すると服の間に空気ができて、自分の熱が外ににげないので温かく感じます。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ みどりサイクル

壁新聞のタイトル:①世界一楽しいのはエコクラブ ②猛暑を「クールビズ」で乗り切ろう！

もう一つ注意したいのは、ガラスとレースのカーテン、すだれを同じ視点で考えるのは、むずかしいかなと思います。外の太陽の光が通ってくることと、上でのべたように熱が通りやすいか、通りにくいかのちがいになっているので、比較がむずかしくなります。ガラスは光が通って来るが、レースやすだれは光をさえぎっているの、温度のちがいが出てくる場合があります。

まとめに書いてあることで気になるのは、エアコンをなるべく使わずに暑い夏を涼しく過ごすには？が問題提起ですね。室内での過ごし方を検討することですから、太陽の光をさえぎることは、室内環境では、涼しくなるはずですが、壁新聞に書いてある結論は、ガラスとレースのカーテン、すだれでは、ちがったことが書いてあって、ちょっと分かりにくかったですよ。

みなさんが実験で確かめるはとてもすばらしいです。これからもぜひ続けてください。

とっておきのゴシドウ★

ところで今回の活動のは、エアコンを使わずに過ごすと言うことは、室内環境での問題提起かと思いますが・・・この点に着目して新聞を見てみたいと思います。

実験をやるに当たって、計画段階での準備をそれなりに考え、実行しました。

服の色の調査をしました。これは実験と言うより、夏の暑いりにどんな服、どんな色の服を着ているかを調べました。親が服の色を決めている場合もあるだろうと思います。その時に暑いからこんな色の服を着て行きなさいと言っているかな？

1年生から6年生までの児童112人の服の色を調べたら、全体では白色の服を着ている児童が24%、27人と言う結果でした。学年ごとにも差があって、6年生と1年生が白を着る児童が多い。6年生は自分で決めている、1年生は親が決めていると考えるとある程度納得がいきますね。逆に白を着ている児童が少ないのは、3年生で、黒を着ているのが多いのが4年生でした。白と黒のちがいは、日光を通す、通さないではなく、白や白服は日光のすべての色や光を反射する、黒や黒服は日光のすべての色や光を吸収します。従って、白色は表面温度が上がらない、黒色は表面温度が高くなります。

これを実験で調べるのをTシャツを着て、Tシャツの下の温度を測るのは、ちょっと無理があるようです。と言うのは、Tシャツの下で温度が高くなれば、体は温度を調節するために汗をかくて、すなわち水分をさせて温度を下げようとするでしょう。したがって、Tシャツの色と表面の温度の関係を調べても良く分からないかと思っています。

代わりに、住まいの実験でミニチュア模型を使ったようですが、これを使って、電球(太陽モデル)に面した所を白や黒、いろいろな色のTシャツでおおい、内部の空間の温度を測るとちがいがはっきりと出るのではないのでしょうか？模型は汗をかきませんので、内部の温度は、外側の色の影響を受けますから。ただし、Tシャツの色や電球のワット数を、少しくわしく調べる予備検討が必要かと思えます。



若松イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

かっぱ隊のみなさん、こんにちは！

大胆なデザインで壁新聞をアピールできていますので、つかみはばっちりですね。
また、かわいらしいマスコット隊員たちも、活動を紹介してくれて楽しく記事を読ませていただきました！今年のかっぱ隊はいろいろな方面に探検にでかけたのですね。「響灘ビオトープ」「山田緑地」「環境ミュージアム」そして活動拠点の「イオン若松店」。どこでどう

いう活動を行ったのか、とてもよく理解できました。

活動を通して、自然のことをよく理解して、今どういう問題が起きているのかを実感したり、普段目にしているエネルギーの仕組みも勉強しましたね。楽しみながらしっかり勉強できたことがよくわかります。マスコット隊員のように、元気に楽しく！これからの活動や発表をがんばってください！！

とっておきのゴシドウ★

みんなでたくさんの体験をして勉強したことがしっかりまとめられていました。みなさんが発表されたことはとても大切な知識です。もっともっと勉強したいという気持ち、とてもうれしく思いました。

今回の活動場所は、それぞれ素敵な場所だったと思います。環境問題のことはとてもよくわかりましたが、それぞれの場所について、もっとたくさんの人に知ってもらえるような情報も伝えてみたらいかがでしょうか？写真で見るとそれぞれ魅力的な場所だと思いましたので、それぞれの場所や施設の特ちょうや環境の様子なども全国のみんなにぜひ紹介してみてください。あと、自然の「せいたいピラミッド」も勉強して図にしましたが、写真で一部隠れてしまいましたね。記事と写真、図の配置について、読んでくれるみんなのことを考えて工夫してみると、もっと大切な情報が伝わりやすくなると思います。ここは伝えたい！と思ったことは記事の見出しとして表現してみてもいいかもしれませんね。



若松イオンチアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

かっぱ隊のみなさん、こんにちは！

大きなバスの絵や、それぞれの場所に関連したかわいいキャラクターがたくさん書いてあって、とても楽しそうな壁新聞が出来上がりましたね。

今年みなさんが活動した内容の紹介ですね。それぞれの活動に「生き物たちのつながりを知ったよ」「僕達の紅はるか」など、工夫を凝らしたタイトルがついていて、とてもわかりやすく興味をひきました。こうしてタイトルや構成で興味を引くことは、自分たちの活動を知ってもらうためにはとても大切なことですからね。とてもよくできています。

また「僕達の紅はるか」では、疑問に思ったことを、農家の人にたずねてみる様子が書かれていましたが、その交流の様子も伝わって、とてもわかりやすかったです。他にも様々な疑問を投げかけるようにタイトルにして、記事にしていますね。実際の体験や疑問を通じて環境のことを紹介することは、とても良い情報発信の方法になると思います。

とっておきのゴシドウ★

とてもいい活動の様子が書かれていて、みなさんの活動の熱心な姿勢もとても伝わってきました。様々な絵やキャラクターも書かれていて、とても楽しく紹介できましたね。

それぞれの活動には、「タイトル」や「絵」が書かれていて、記事の様子を伝えるようにしていますが、一部タイトルと記事の中身が合わないところが見えました。例えば「新エネルギーと生き物達」とあって、エネルギーと生き物とのかかわり合いが書いてあるのかと想像しましたが、生き物の情報はありませんでしたね。

また、真ん中の右側にはダム絵が書かれて、とてもわかりやすかったのですが、山田緑地での話なのか、また別のところで見かけたものなのかがわかりませんでした。

このように、「タイトル」や「絵」は、記事の中身を紹介したり、情報を抜き出して紹介するものですが、記事とあった書き方をすると、もっと情報を伝えやすくなりますよ。



ガールスカウトF9クラブのみなさんへ

師範から一言！

幅広く勉強しているのですね。1級河川、2級河川のちがい、ずっと疑問が解決できなかったのですが、やっとわかりました。ありがとうございました。

キャンプは、楽しいですよ。最初は、夜暗い中を歩くのは、怖いけど、わくわくでした。“おこげ”、最近はなかなか食べる機会が無いと思います。私は、おこげ大好きなのですが、みなさんは、食べてみてどうでしたか？“やわやわ”でも自分で作るとおいしいですよ。不思議ですね。

植樹も良いですね。植樹をした後、植樹地の近くを流れる水のきれいさ、冷たさ、顔を洗ったりしたときの気持ちよさ、これを直接感じることも、植樹活動の醍醐味ですね。

(むずかしいことばがおおいので、ちいさな子は、おねえさんたちに、きいてね。)

とっておきのゴシドウ★

全体の構成も、わかりやすくて良いと思います。川の水質調査から、水のきれいさを確認し、それが森作りなどにつながり、実際に植樹に行って、水と自然を守る活動に参加。キャンプで、森の恵みを体験。すごく実感しやすい流れだと思います。それが、うまくまとめられた壁新聞になっているので、とても良いと思います。水質調査の項も、わかりやすいです。

プライバシー保護の関係もあるので、むずかしいかもしれませんが、キャンプなどで楽しんでいる子供たちの表情なども、見せられるととっても楽しい壁新聞になると思います。また、小さな子供たちも、参加者のところでは自分で書いているようですが、他にも、もっと直接壁新聞に参画できるように工夫できると良いのではないかと思います。



ライジングアップのみなさんへ

師範から一言！

ライジングアップのこどもたちが、はじめて かべしんぶんを おくってくれました。かべしんぶん いっぱいに かかっている 3さいの こどものかたちの なかに、しゃしんや えを たくさん かいてくれています。きょだいなさかな、ちょうちょ、とんぼなど、たくさんの いきものを みつけましたね。だんごむしと ありの えは、とても じょうずに かけています。よく かんさつ しましたね。それから、さつまいものおやは、だいはっけん ですね！いちねんかんで たのしい かつどうを とてもたくさん しましたね！どのかつどうも とっても すてきですね！

とっておきのゴシドウ★

おおきな かみに かべしんぶんを かきますが、きっと、たくさんの かつどうを したら、ぜんぶ はいりきらないことも あるでしょう。

そういうときは、みなさんが とくに たのしかったことを えらんで かいてください。

これから みなさんは どんどん おおきく なっていきます。きっと、まいとし いろんな はっけんを するとおもいます。

どんな はっけんを したのか、どんなことが とくに たのしかったのか、ぜひ かべしんぶんを おしえてください。たのしみにしています。

これからも みんなで なかよく、いまだからこそできる たのしい かつどうを してくださいね！



サポーターの方へ★

3歳児の人型というアイデア、むちゃくちゃ素敵です！

子ども達の「今」を大切にしたいステキな活動されている様子が伝わってきました。これからも無理なく楽しく活動が続けていただければと思います。

エコまめクラブのみなさんへ

師範から一言！

ツバキという植物のことをしらべるだけでなく、ツバキにかかわる生物のつながりを考えてくれたよいテーマだと思います。

「ツバキをめぐるいきもの」のイラストでは、シギゾウムシのとても長い口のとくちょうがよく分かります。その下にかかっているガはチャドクガでしょうか？卵をうみつける場所は虫によってちがうので、ツバキのイラストに花といっしょに葉をかいてみてもいいですね。

ツバキとサザンカの見分け方がイラストで比較(ひかく)してあるので分かりやすいです。新聞にはってくれた本物の葉も分かりやすい工夫だと思います。

ツバキの油は有名ですね。タネから油をとりだす体験(たいけん)はおもしろそうで、きょうみぶかく読みました。かたいので20こも大変だったことと思いますが、油がとれて感動したことでしょう。少ししかとれない油はきちょうですね！

「みんなに伝えたいこと」にかいてくれた“むだな命はない”はすばらしいメッセージです。生物どうしは植物もふくめて「食べる」「食べられる」のつながりの中でささえあっていて、人はそのめぐみを直接(ちよくせつ)あるいは間接(かんせつ)てきにうけています。My 行動宣言の5つのアクションのうち、自分でできることから小さいことでもぜひはじめてみてください。

とっておきのゴシドウ★

ツバキにタネができるためには、花のめしべに花ふんがつく必要(ひつよう)がありますが、冬に花をさかせるツバキの花ふんはだれがはこんでいるのでしょうか？

冬は花ふんをはこんでくれる昆虫もすくない季節(きせつ)です。新聞の中にその生物がかかれていますので、かんさつして見たことがあるかもしれませんが、メジロなどの鳥にまっ赤な色の花でおいしいみつがあることをアピールしています。



長崎県佐世保市 だいやエコクラブ

壁新聞のタイトル:こどもツリズム・エコ会社設立 2018～エコ主を増やすっちゃん大作戦～

19-42-01

だいやエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

消費者庁長官賞おめでとうございます！

ツアーガイド会社のエコツアー運営を通して、様々な活動をわかりやすくていねいに紹介することができていますね。

たくさんの方が積み込んだすばらしい記事の数々ですが、記事の内容ごとにアイコンで示したり、活動写真をいれて紹介することで、大変わかりやすく読みやすい内容になっているのがすごいです！

また、特に大切な活動のキーワードには色付けや、クイズ形式で紹介するなど、情報をしっかり理解した上で、みんなにもわかりやすいよう工夫していますね。

たくさんの学習と体験でしたが、この壁新聞を読まれた人たちは、環境が楽しく学べ、活動できるということを伝えられたと思います。それこそが、エコツアーでもっとも大切なことだと思いますし、皆さんが立派に役割を果たすことができた成果だと思います。

とっておきのゴシドウ★

「こどもツリズム・エコ会社」を運営して、活動を行うというすばらしいアイデアを、ていねいに紹介することができ、その会社の広報誌として、この壁新聞は大成功だったと思います。「エコクラブから会社へ」そんな活動がもっと広がるといいですね。

「こどもツリズム・エコ会社」の活動目的である、「資金調達」「事業:エコツアーの実施」「活動発表会」は、実際の社会にある企業や組織の活動としても、それぞれ大変大切な内容です。そのため、もう少し「こどもツリズム・エコ会社」のことをくわしく紹介することができれば、その活動の趣旨や意味も強く伝えることができたのではないかなと思いました。実際、いろいろな企業のパンフレットも、ただやっていること(事業)だけを書いているのではありません。自分たちの会社がどんなことを考え、社会に役立っているかも伝えています。ぜひ、そんな社会の会社にもまけないような、情報発信ができるように、これからもがんばってください！



水俣市立水俣第二中学校のみなさんへ
師範から一言！

189 名も参加しているこの新聞のすぐれているところは組織力です。大人でもむずかしいと思われる組織化が出来て、その上で着々と成果を上げつつあるところはぜひまねをしたいものです。特に「二中環境(かんきょう)教育で育む3つの心とは？」というコラムを新聞題字の真下に組んでタイトルを目立つところに掲(か)けています。メッセージがより鮮明に伝わって来て良いですね！もったいないの心、やってみようの心、広めようの心の三つです。強い主張をしてみることは余程の決意がなければ出来ないことです◎

それから地域ごみ分別収集参加活動が 22 年目になったことを取り上げています。これは毎月1回の家庭で発生するごみをごみステーションに運び込み、分別を手伝っているのです。範囲(はんい)は二中の校区で、約 100 カ所のステーションがあるそうですので、環境 ISO コーナーには分別収集参加率が公表される仕組みです。中学生がごみ分別をさりげなくできるのは、なんといっても 22 年の歴史があるからです。小さい頃から「やってみようの心」を育ててきた成果なのですね。

とっておきのゴシドウ★

さらに今年から学校で出したごみは、自分のごみ MY バッグで毎週自宅へ持ち帰る活動を始めています。環境 ISO 委員会では学級ごとに分別カレンダーや環境ポスターを作成しています。このような活動を「啓発(けいはつ)活動」というのですが、粘(ねば)り強く続けていただきたいと願っています。水俣第二中学校のみなさんを見習って、日本中がごみ分別に熱意をもって取り組んでほしいと思います。



熊本県益城町 広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)

壁新聞のタイトル:①益城のよさをみつめよう～広西湧き水再生プロジェクト～ ②広西みなエコ大作戦 2018

02、03 (全 2 枚)

19-43-

広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

新聞全体のデザインや工夫がとても気に入りました。湧き水の風景かと思いますが、樹木の多彩(たさい)な葉と水辺のあざやかな青が目をはきます。湧き水見守り隊のメンバーが行ってくれた水質調査の記録が、葉っぱや魚をかたどった紙に書かれているなど細かいところまで工夫していますね。

「環境×防災×生き物を考えた湧き水の取組」という大きなテーマですが、大きな地震を経験した熊本ならではの防災の視点はとても参考になります。湧き水はそこです生き物たちにとっても人の日常生活においても役立っていますが、災害時は貴重(きちょう)な水源として活用できるため全国的にも注目されています。

“益城町湧き水マップ”は湧き水の場所と地表地震断層変位確認場所がひとめで分かるようにマッピングされていて、すばらしい内容だと思います。PH が 6.5～7.5 と少しばらついていますが、PH に何が影響(えいきょう)をあたえているか分かったら教えてください。

とっておきのゴシドウ★

湧き水は地下水が地表に流れ出てきたものなので、湧き水のうらにある山の森林が水をたくわえる力にも関係します。そのため湧き水でくらす生き物はもちろんのこと、森林でくらす生き物や森林そのものも大切にすることも必要です。元気な森林でありつづけるためには木を切るなどして人が手を加えていくことも必要ですので、地域の人たちと協力しながら、湧き水を次世代につないでいってください。

新聞にのせてくれた“益城町湧き水マップ”の湧き水の水量や見つかった生き物の調査をけいぞく的にしてみてください。



広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

目標の決め方が分かりやすく、全校の環境目標に対して数値目標を設定して、それを達成するためにクラスごとに目標を設定しているということですね。特に、数値目標を設定することは、その数値をいくつにするかむずかしいことも多いのですが、数値を設定することによって目標に対する達成のようすをはかることができるのでモチベーションをけいぞくすることができると思います。

日頃のごみの計量活動の2年間のデータは目標を設定するのに貴重なデータになったのではないのでしょうか。グラフにすることによって“気づき”があったようなので、ゴミをへらすためのアクションをみなさんで考えていきましょう。

SDGsの17の目標と委員会の活動の関係が分かりやすく整理されています。17の目標の中にはお互い関係が深いものもあるので、いくつかの委員会で協力していこうという考えはよいですね。

アクリルタワシは我が家にもいただいたものがいくつかあり、くつみがきやキッチンのできるものに活躍(かつやく)しています。環境活動に楽しさも必要です。手作りの大切さも経験できるので、好評のたこさんたわし作りをぜひ続けてください。

とっておきのゴシドウ★

4Sの意識を高めるために紙芝居をして伝えたのはいい工夫ですね。どのような紙芝居かみてみたいくなりました。

整理、整とんだだけでなく、清掃、清潔をくわえた活動をしていることに感心しました。前の3つは「整理をする」「整とんをする」「清掃をする」と何をするかすぐに分かりますが、「清潔をする」とは言いませぬよね？「清潔にする」ためには清掃することがもちろん必要ですが、身だしなみも整えると自然と気持ちが整って、みんなが気持ちよく感じると思います。



姫城中ボランティアのみなさんへ

師範から一言！

自然豊かな緑地に囲まれた都城のまちで、環境を考える活動を学校ぐるみでおこなったと聞いて、とてもうれしく思います。水も豊かな場所ですから、特に水について興味を持たれたようですね。まずは身近な水環境を意識的に考えるきっかけになる取り組みや、施設見学にいて、社会システムとして水環境を考えたことは、中学生の立場としてすばらしいことだと思います。

生徒会のみなさんも、朝の清掃活動、おつかれさまです。写真も見せていただきましたが、これはなかなか目立っていいですね。挨拶をかわすことで、コミュニケーションも深まり、地域の目も通ることで、ゴミ捨ても少なくなります。環境に配慮した生活のサイクルというのは、こうした活動から生まれてきます！今後もがんばってほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回、リーダーシップを発揮して、学校ぐるみで環境活動や環境学習を行ない、それをまとめたくださいました。その活動は、身近なものから、学校外にでて活動するなど、幅広く活動、紹介することができていますね。今の中学生生活というのは、忙しく、活動を広めるにも大変だと思います。また、学年も変わって、環境活動の継続が難しいという声も、全国の中学生の活動報告では聞こえてきます。

そうした学校での環境活動の継続の秘訣が、こうした壁新聞などで情報をまとめ、紹介し、残していくことです。これまでにいった活動を、形に残していくことで、次の環境活動の目標ややり方が学べます。また先輩たちの活動を積み上げて、新しい分野に羽ばたくこともできます。

そのため、ぜひ、今後の後輩や応援してくれる地域の人たちに、自分たちの活動をPRし、活動を残す！という意思をもって、今後とも活動を行ない、情報発信を続けてほしいと思います。また、今度は、都城独自の自然の豊かさをも全国に発信してほしいと思います。



田上川こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

自己紹介に公民館のメンバーで構成されたエコクラブですと書かれていますが、33名もスタッフがいるといういろいろな活動ができますね。新聞の名前は、かべ新聞とカメラ新聞の語呂合わせかと思い、笑ってしまいました。最初に壁新聞の上半分に3種類のカメを紹介して、みんなをカメラ好きにしているのを面白く拝見しました。ここに取り上げたニホンイシガメ、スッポン、ミシシippアカミミガメの3種は、よく見かけることの多いカメで、スッポンにはかまれないように特に注意して下さい。また、生きもの調査と水質調査を4回行ったと書いていますので、その結果も報告して下さい。

今回はカメに焦点を当てたようですが、来年や再来年のテーマは何でしょうか？特にミシシippアカミミガメは外来種ながらニホンイシガメと餌やすみかを競い合うため、生息環境を狭めています。この3種のカメにとってはどのようなすみ分けが好ましいのかみんなで考えてみて下さい。

壁新聞の下にはホタルの幼虫を放流した記事とかめ川柳が面白いですね。かめ川柳では、夜になると活発に活動するミシシippアカミミガメの特徴やスッポンのひなたぼっこの組み合わせなど生態の特徴などを俳句で実にうまく表現していると思いました。これは次回も続けて下さい。

とっておきのゴシドウ★

水質調査と生きもの調査も並行して実施したということです。表やグラフにまとめておいてはいかがでしょうか。特に生きた生物を数えたりすると死んでしまう生き物がいますので、その場で判定することができるように、近くの博物館などで田上川にはどのような生き物が住んでいるのか事前に調べておくことをお勧めします。これは環境調査の影響をできるだけ小さくすることが大切だと考えているからです。身近な生きものや植物を体験して学ぶ姿勢がとても大切になって来ます。カメラ調査は、どんな結果になるか、これからも注目していきたいと思います。



鹿児島県鹿児島市 色響(IRO&HIBIKI)

壁新聞のタイトル:「海からの便り」を音にのせて

19-46-01

色響(IROHIBIKI)のみなさんへ

師範から一言！

タイトルがステキですね。海からのいろいろなメッセージをみなさんが漂着物を通して知り、それを楽器にする、というストーリーがひとことで表現され、いいタイトルだなと思いました。紙面の中の囲いの記事もカラフルで、プラスチックごみのカラフルさがイメージできるようで、面白いなと思います。

プラスチックごみの問題は、最近になって日本でも注目されるようになりました。そして、みなさん自身も実際に海でゴミを拾って、深刻な問題だということを知りました。その後、マイクロプラスチックのことを勉強して、世界のいろいろな対策や議論のこともよく調べましたね。とてもすばらしいです。新聞を読む人たちに知ってもらいたいというメッセージもよく伝わりました。

いろいろなイラストもマンガも写真もみんなで手分けして作ったのかな。力作になりましたね。そして、自分たちではこの問題に対して何ができるかもしっかり考えましたね。レジ袋をもらわないとか、プラスチック製品をなるべく使わないとか。ほかにできそうなことがありそうですね。

それとも一つすばらしいのは、ゴミを使って楽器を作ったことです。遊び心満載で、楽しみながら環境問題に向き合っているように感じますね。これからもできることから実行していきましょう！

とっておきのゴシドウ★

プラスチックを使わないでも生活できるでしょうか。この間、テレビでプラスチックを使わないで生活することに挑戦する番組をやっていましたが、とても大変なことだということがわかりました。生活のあらゆる場面で私たちはプラスチックを使っているのです。身の回りの物はプラスチックでつくられているものであふれ、それなしでは生活ができないほどです。でもちょっと考えてみましょう。昭和30年代くらいまで、石油製品がまだそれほどなかった頃は、身の回りのものを何から作っていたのでしょうか？

例えばお弁当箱。これは現代では石油から作られたものが多いです。でもかつてはお弁当箱はわっぱのように木や、アルマイトのような金属でつくられていたり、あるいは竹の皮でおにぎりを包んだりして持ち運んでいたわけですね。身の回りのもので、プラスチック製品の代わりに昔は何で作っていたかを考えてみてほしいと思います。

それと、これから日本でもマイクロプラスチックの対策への動きが活発になってくると思われます。みなさんは、消費者として日々、いろんな製品を買おうと思いますが、プラスチックを使っていない製品もこれから増えてくるかもしれません。これからは消費者も環境のことを考えて買う物を選んでいく時代です。つまり賢い消費者になってもらいたいなと思います。そうすることで企業や社会も変えていくことができるかもしれません。そんなことも話し合っ



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞 19-46-02(推薦)、03(推薦)、04~11 (全 10 枚)

大崎 5 年われら環境守り隊①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

みなさんは、移動教室の時などに電気がつけばなしの様子を見て、「電気がもったいない、節電をよびかけよう！」と思ったのですね。そこで「節電を訴えるポスター」を作成したと思うのですが、そのポスターはどんな内容でどこに何枚くらいはったのでしょうか…？新聞には「ポスターで、節電を心がけてくれるようになったと思う」と書かれています。せっかくの行動なので、実際にポスターをはった写真などでそれを伝えてもらえたら、よかったかなと思います。

2つの「クイズ」は、具体的によいですね。大崎小学校の「100 人のうち 85 人ぐらいが節電できている」とは、優秀です！また、「季節によって電気を使う量が変わる」ことは、大人でも知らない人も多いので、みんなに考えてもらうよい機会(きかい)になったと思います。

とっておきのゴシドウ★

みなさんがポスターを貼って訴えた「前と後」で、節電できている人数が変わったのかを調べたら、なお、よかったですね。環境活動はやりっぱなしではなく、自分たちの行動が人にどのように伝わり、どんな効果があったかを確かめることが大切です。

みなさんの活動によって、大崎小学校で「節電できている」と答えた人数が「100 人中、100 人！！」にまでなったら、とってもすごいことだと思いますか？

大崎 5 年われら環境守り隊⑦の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

みなさんは、「トイレの電気を消していな時がある」「教室の電気も係の人が消しわすれる」ということに気付いて、節電大作戦を始めたのですね。

身近な「気づき」から行動につなげることは、とてもよいことです。ただ「ポスターをかく」「係の人が気づいたら消す」「係が気付かなかったら、気づいた人が声をかける」という作戦が、どのように行われたのか？具体的な説明がないので、ちょっと残念でした。「どんなポスターを描いたのか」「どんな声かけをしたのか？」もっと教えて欲しかったです。

私の想像では。。電気の神様「デンキング！！」が活躍しているポスターかな？と思っています。どうでしょう。

とっておきのゴシドウ★

まとめの「わかったこと」に「電気をムダに使うとお金もかかるし、環境も悪くする」とありますが、電気を使うといくら電気代がいくらかって、どんな風に環境を悪くするのでしょうか。

その内容をくわしく調べてみんなに伝えたら、「節電しないと、こんなに大変なんだ！」と理解して実行してくれる人が増えるのではないかと思います。「デンキング！！」のキャラクターを上手に使って、みんなに節電の大切さを教えてあげてくださいね。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞 19-46-02(推薦)、03(推薦)、04~11 (全 10 枚)

大崎 5 年われら環境守り隊⑩の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

「空気ビックリ新聞」のタイトルは、みんなで決めたのですか？ステキな名前です。「ビックリすることが書いてあるんだ。楽しみ！！」という期待をもって読みました。

空気は、私たちになくてはならない身近な存在ですが、目には見えないため、改めて考えることが少ないと思います。そこに注目し、いろいろな角度から調べたのは、大変よいと思いました。

「せんぷうきのクイズ」も、なかなか気づかないポイントです。長い時間、換気をしないと、外から新鮮な空気を取り入れることなく、汚れた空気の中で過ごすことになります。教室はたくさんの方がいますので、みんなに知らせて、適切(てきせつ)なタイミングで空気の入れ替えをするとよいですね。



とっておきのゴシドウ

空気が汚れてしまう原因には、いろいろな大気汚染物質(たいきおせんぷうじつ)があります。新聞で説明された自動車からは、燃料(ねんりょう)を燃やすときに、窒素酸化物【NOx】(ちっそさんかぶつ)や粒子状物質【PM】(りゅうじょうぶつ)など、人や環境に悪い影響を与える物質と一緒に排出されています。

その対策には、新聞でも取り上げた「ガソリンや軽油などの燃料を使わない新しい自動車に変えていくこと」と、「今ある自動車に有害物質を排出しないように規制(きせい)をおこなうこと」があります。交通が集中する大都市では、「自動車 NOx・PM 法」という法律で基準(きじゅん)を作って、それ以上に有害物質を出す自動車が走ることを禁止しています。みなさんが住んでいる鹿児島県で、自動車の排出ガスについて、どういう対策をしているか、調べてみるとよいですね。

また、私たちが歩いたり、自転車や電車などで移動し、自動車を使わないことで空気の汚れをへらすことができます。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

19-46-02(推薦)、03(推薦)、04~11 (全 10 枚)

大崎 5 年われら環境守り隊②の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！

色や図を上手く使って見やすい壁新聞を作ることができましたね。大崎町のリサイクル率が日本一というのは、初めて知りました。住民のみなさんが協力しないと実現できないことです。ごみの分別の仕方が細かいことが、壁新聞にも書かれています。普段みなさんが取り組んでいて、分別はむずかしいですか？慣れればむずかしくないものでしょうか。他の地域でもそういった取り組みが広がるといいなと思いました。

日本全国をきれいにするのは難しいけれど、まずは自分たちの町からきれいにする、というのはすばらしい提案だと思います。

環境問題への取り組みでよく言われる「Think Globally, Act ・・・（地球規模で考え、地域で行動する）」を正に表していますね。それに、全国にはたくさんのエコクラブの仲間がいるので、それぞれが町をきれいにすれば、日本全国がきれいになると思いますよ。

とっておきのゴシンドウ★

文中にあるアンケートについて、どんなアンケートだったか知りたいなと思いました。人が感じたことや思ったことは、他の人にも共感を得られやすく、読み応えがあります。なので、アンケートを実施したのはとても有効な手法だったと思います。どんなアンケートだったかがわかれば、結果の見方もいろいろと変わりますし、発見することも多くなり、アンケートの価値がさらに高まります。ぜひ次の壁新聞では、アンケートの具体的な方法のように、活動の具体的な方法も書いてみると良いと思います。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

大崎 5 年われら環境守り隊③の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！

みなさんで壁新聞を作っている時は、とても楽しかったのではないのでしょうか。内容もきちんと書いていますが、それ以上に自由な発想でワイワイ話し合いをしながらこの壁新聞を作ることができたことが伝わります。メンバーも仲が良さそうですね。

ねこの隊長はどのような発想から生まれたのでしょうか。クラスで流行っているのかな。

応募用紙の方には「ねこの隊長が敵をどんどんたおして分別の大切さを伝えていきます」と書かれていますが、そのことがちょっとわかりにくいのが残念です。面白そうなストーリーなので、ぜひ壁新聞で読んでみたいなと思いました。

とっておきのゴシンドウ★

すでにみなさんはリサイクルに取り組んでいると思いますので、取り組んでみてよかったところ、むずかしかったところはどんなことでしょうか。また周りの人にも取り組んでもらうためには、どんなことが必要だと思いますか？いろいろな活動をした際には、この「ふりかえり」を行うと、活動の価値がさらに高まります。むずかしかったところも、みなさんで話し合えばよい解決方法が見つかるかもしれません。そういったことも壁新聞に書けると、より読み応えのある素敵な壁新聞になると思います。

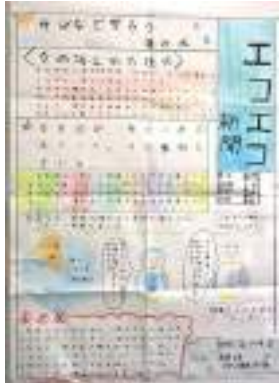


大崎 5 年われら環境守り隊④の新聞を書いたみなさんへ
品川師範から一言！

大崎小 68 名の中から 9 名も参加している海好きなメンバーによる海水をきれいにする活動が取り上げられています。水道から出た水と砂浜に落ちているごみがつながっていることに気づき、考えを呼びかけることが出来たと応募用紙に書いていました。少年団のすばらしい取り組みを広げてほしいと要望を出しています。この背景には、リサイクル率が 10 年連続日本一の自治体なので、もっとしっかりとした心に響くような壁新聞が期待されているのではないのでしょうか。

とっておきのゴシンドウ★

壁新聞の下半分には海に出かけた時に、海のごみを持ち帰る人が 70 人に対してその他が 28 名でした。つまり、100 人が海へ行くとまだ 28.6 パーセントの人はごみを持ち帰らないことがわかりました。まだまだ海岸ごみの回収は低いようですね。より高い目標に向かって海の水をきれいにしていくことが求められます。特に海洋を浮遊しているプラスチックごみなどは海で暮らす生き物の胃袋にたまり、命を失う事態も起きています。海浜におけるプラスチック汚染は、すでに身近な問題となりつつあります。この問題も取り上げていただきたいと思います。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

大崎 5 年われら環境守り隊⑤の新聞を書いたみなさんへ
品川師範から一言！

節水の試みを啓発で呼びかけているところが他には見られない特徴です。水道を使うときに蛇口をしっかり閉めようと呼びかけていることです。さらに蛇口を必ず下向きにしておこうと呼びかけています。続いて実際に蛇口が下に向いているかどうか、調査を行っています。結論はおおむね 4 つに一つ程度の蛇口が上向きになっていることがわかったので、「もっとみんなで心がけるようにわたしたちが呼びかけをしたい」と啓発をその主眼としていることにおどろきました。かんたんな主張でありながら、でもすばらしいことです。

とっておきのゴンドウ★

新聞の名前、メンバーの名前、中見出し、小見出しの工夫などは良くできている壁新聞と思いましたが、がんばってほしいところは色合いの組み合わせでした。上段の見出し「水をたいせつにしよう！」の記事は、緑色の地色に濃い青色のしずくもようをちらし、その上から黒色で文字を書いています。これでは目の悪い人には読みとれないと思います。ところが二段目の見出し「水をきれいに！」では、緑色の地色に黄色い格子模様(チェック柄)を入れ、その上から紫色で文字を書いています。何とか読み取れます。下段の「水の大切さクイズ」では、虹色になったところで、特に文字が読みにくくなっています。こんな時は一部分を取り出して色の見本を作って、壁新聞にはめ込んで比較してみる事です。もし、色合いのコントラストがぼんやりしているようであれば、色を変えてどの方向から見てもくっきり見える色合いを探して見て下さい。必ず気に入った組み合わせがあると思います。この色の組み合わせの検討をおこたると満足な壁新聞は出来ませんよ。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

大崎 5 年われら環境守り隊⑥の新聞を書いたみなさんへ
池田師範から一言！

「なぜ整理・整とんをしないといけないか」という理由をかいてくれた中で、けがをしやすくなることや、環境にも悪いということに加えて、“身近な人の心をきずづけてしまう”というのは、なるほどと思いました。自分のまわりが整理・整とんされていない状態と、されている状態で、それぞれどのように感じるか体験してみると実感できそうですね。

“くつ箱”と“トイレ”の整とんにかんして、一学期と二学期を円グラフでくらべてくれたのは分かりやすい工夫です。せっかくグラフにしてくれたので、数字をいれてくれると もっと分かりやすくなります。

整理・整とんをする対象(たいしょう)として、つくえやたなもあると思いますが“くつ箱”と“トイレのスリッパ”をとりあげているのは、みんなで使う共通の場所だからでしょうか？まとめにあるように高学年が低学年の見本となって、けいぞく的に整理・整とんを続けてください。

とっておきのゴンドウ★

新聞ぜんたいに、ななめの線と水玉のようなものもあり、さらに水玉はぬってあるのか分からないようなものが多いため、文字がよみにくくなっています。新聞のまんなかにあるピンク色のコーナーは文字ですが、いちばんよみやすいです。“整理”と“整とん”のちがいを新聞でも説明してくれましたが、順番は先に整理してから整とんになります。いらないものはすてるなど整理してから、整えるということですね。大人の方が整理・整とんがじょうずとは限らないので、ぜひ整理・整とんがじょうずになってください。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

大崎 5 年われら環境守り隊⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

ボランティアというむずかしいテーマに取り組んでくれたと思います。
ボランティアという言葉は、災害時の復旧活動などで最近では新聞やテレビで目にすることも多くなってきていますね。
学校でのボランティアの現状の問題点を4つ書いてくれてあり、どれも状況(じょうきょう)が頭に浮かんで来るような内容です。ボランティアをすることによって学校生活をもっと気持ちよくしたいという考えに共感(きょうかん)してもらうことが大事だと思います。
ボランティアアンケートは、円グラフになっていますが、「ボランティアをしていますか？」という質問に対する回答でしょうか？一学期よりボランティアをする人がふえたのは、どのような取り組みをしたのか、ぜひ教えてください。

とっておきのゴシドウ★

10分間で行うボランティアはどのようなことで、その内容はどのように決めたのか興味(きょうみ)があります。たくさんの方が集まれば全員の考えがいつかはあつまることはありませんので、みなさんそれぞれができることを続けることを期待しています。
ボランティアは自ら(みずから)進んですることが基本ですので、たとえば「学校生活をもっと気持ちよくするために何かできることがありますか？」という声かけをしてみるのも良いと思います。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年われら環境守り隊

壁新聞のタイトル:①節電に心がけよう ②エコ新聞 ③ぼくら分別調査隊 ④みんなで守ろう海の水「エコエコ新聞」 ⑤水をきれいに大切にしよう新聞 ⑥学校での整理・整とんをがんばろう！ ⑦エコ新聞 ⑧ボランティアをがんばろう新聞 ⑨ゴミエコ新聞 ⑩空気ビックリ新聞

大崎 5 年われら環境守り隊⑧の新聞を書いたみなさんへ
池田師範から一言！

ボランティアというむずかしいテーマに取り組んでくれたと思います。ボランティアという言葉は、災害時の復旧活動などで最近では新聞やテレビで目にすることも多くなってきていますね。学校でのボランティアの現状の問題点を4つ書いてくれてあり、どれも状況(じょうきょう)が頭に浮かんで来るような内容です。ボランティアをすることによって学校生活をもっと気持ちよくしたいという考えに共感(きょうかん)してもらうことが大事だと思います。
ボランティアアンケートは、円グラフになっていますが、「ボランティアをしていますか？」という質問に対する回答でしょうか？一学期よりボランティアをする人がふえたのは、どのような取り組みをしたのか、ぜひ教えてください。

とっておきのゴシドウ★

10分間で行うボランティアはどのようなことで、その内容はどのように決めたのか興味(きょうみ)があります。たくさんの方が集まれば全員の考えがいつかはあつまることはありませんので、みなさんそれぞれができることを続けることを期待しています。
ボランティアは自ら(みずから)進んですることが基本ですので、たとえば「学校生活をもっと気持ちよくするために何かできることがありますか？」という声かけをしてみるのも良いと思います。



大崎 5 年われら環境守り隊⑨の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！

いろいろなキャラクターが登場して、楽しい壁新聞だと思いました。かん君、ボトル君はわかりやすいですが、ゴンちゃんはおみ全般をイメージしているのでしょうか。自由な発想で、壁新聞を楽しく作ることができたのではないのでしょうか。
草むらや砂浜にごみが落ちている、というのも残念ですが、まず教室に落ちているのは気になります。まずはみんなが生活するところからきれいにしていききたいですね。「まとめ」で書いているように気持ちの良い生活をするにつながると思います。

とっておきのゴシドウ★

「これからどうするか」で、一人ひとりにできることを書いていて、とてもよいと思います。さらに、実際に取り組んでみた感想が書けると良いと思います。人が感じたことは、人の心に響きます。かんたんなことの良いので書けると、ごみを拾い人ももっと増えると思います。
また、物を燃やすと二酸化炭素が発生する件についてですが、二酸化炭素の発生は火事になる可能性につながるのではないかと思います。火事が起これば二酸化炭素は発生するので、逆のイメージになっているのかなと思います。本で調べたり、先生に聞いたりして確認しておきましょう。



沖縄県那覇市 はなぞのエコクラブ
壁新聞のタイトル:水のぼうけん

19-47-01

はなぞのエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

一年を通して、色々な活動をクラブで協力して行ったことがよく伝わります。どの写真もみなさんの表情が楽しそうですし、文章を読んで、私も楽しくなりました。

みなさんが使う水は、沖縄本島に降った雨水を使っていますね。本州でもそれは同じ(広い国でも同じ)ですが、そういったことをより実感する地域だと感じます。水がどこからどうやって来るのか、どこへ行くのか。普段は意識しなくても生活できます。その見えない部分で地球に負担を与えていることを、意識して水を使っていくことが大切だと思います。みなさんの壁新聞にはそれが書いてありますので、とても共感できました。野菜や沖縄そばも自分で作ってみると、その大変さがわかりますね。でも「安心して食べられる」というように、見えない部分を見ようとすると、発見もありますね。



とっておきのゴシドウ★

みなさんは今回、初めて壁新聞を作ったのでしょうか？初めてとは思えないほどステキな出来栄だと思います。体験したことと、感じたことがていねいに書かれていますし、写真もみなさんの表情がよくわかって、活動の様子がよく伝わります。一つひとつの活動を一生懸命に、そして楽しく取り組めたことがわかります。また、これから自分たちにどんなことができるかを書いているのもとても良いです。読む人が「自分も書いてあることに取り組んでみようかな」という気持ちになるとと思います。活動して終わり、ではなくてその後どうするかが書けるというのは、ふりかえりもきちんとしているのかなと思います。ぜひこれからも、メンバーとサポーターさんと協力して、楽しく活動してってほしいと思います。

沖縄県那覇市 ともだちや児童クラブ
壁新聞のタイトル:大嶺海岸

19-47-02

ともだちや児童クラブのみなさんへ
師範から一言！

大きなカニのキャラクターがすごく目立っていますね！なるほど、大嶺海岸では、カニがたくさんいるのですね。沖縄の第二滑走路の計画については、多くの人が知っていますが、その計画地となる海岸については知らない人も多いと思いますので、しっかり記録しておくことは大切です。その意思と行動はとてすばらしいと思います。

大嶺海岸の概要についてもよく調べられましたね。クイズ形式で、いかに大切な自然であったかを感じることができました。

この海岸の風景は、それぞれの体験として残っていくと思います。また、この壁新聞を見て、多くの人々の心にも残ることと思います。とてもよい観察記録でした。



とっておきのゴシドウ★

大嶺海岸のいきものたちについて、大変よくわかるすばらしい内容でした。ただ、沖縄のまちのことをよく知らない全国のこどもたちには、場所や空港との関係がよくわからなかったかもしれません。とても大切な観察情報ですので、地図などで、大嶺海岸の場所や、まちや港との関係も書いておくと、もっといろいろな地域の人にもわかりやすかったかもしれませんね。

全国でも同じように埋め立てにより、海岸がなくなりました。それは人の安全や便利さを守るためではありますが、その責任や記録はしっかりとっておくべきだと思います。そういう意味で、今回の観察記録も、全国の人にもっと知ってもらえるような工夫も入れてみるといいなと思いました。

OMRC こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

自分たちで魚を取るという、一から始めたところにまず感心しました。やはりお店で買ってきた魚と、自分たちでとった魚では気持ちも変わると思います。きっとみなさん、一生けん命がんばって調べて解説板を作ったことでしょう。

取れた魚も沖縄ならではのものが多いですね。私の住んでいる東京ではあまり見ることでできない魚が多くてうらやましい限りです。そして3回移動水族館に行ったということですね。生きた魚を見る機会は思ったよりも少ないので、訪問した施設のみなさんもよろこんでくれたことと思います。これからも、このような活動を通じて人々に生き物や環境について勉強する、そして何よりよろこばれた活動を続けていってください。東京より応援しています。

とっておきのゴシドウ★

解説板は次も使えるようにラミネートとかで補強してありますか？ せっかく使った力作ですから、いつまでも使えるようにしていけるといいですね。今後も取れる魚がどんどん増えたとさらに楽しいですよ。

せっかくのいい活動なので、ひとつひとつの施設での移動水族館の様子を細かく、新聞にまとめてみるのもいいかもしれません。みなさんはどんな風に解説して、クイズをして、施設のみなさんとコミュニケーションをとったのか、興味のある人は全国にたくさんいると思います。新聞を読んだ人は、「こういう活動もいいな」とか「施設の人の感想も知りたいな」のような興味を持ってくれると思います。



沖縄県竹富町 西表ヤマネコクラブ

壁新聞のタイトル:西表山猫新聞

19-47-03

西表ヤマネコクラブのみなさんへ

師範から一言！

これは、すごい情報がいっぱい詰め込まれた新聞ですね。みなさんがいかに西表の自然を大切に思っているのか、それだけで伝わってきました。また、アンケートや細かな記録や計測などで考察されており、科学新聞としても立派なものになりましたね。今回の新聞のテーマになった「イリオモテボタル」の育成について、研究のきっかけから、採取の様子も描かれています。全国の同じこどもエコクラブのみんなも、ホタルや自然の珍しさもあって、興味津々の情報だと思います。その様子をていねいに書かれたことは素晴らしいと思います。

また、特に面白かったのは、小さな記事ですが、「ヤマネコになってみた」などのコラム記事がのっていたり、ジャングルエコすごろくといった、読み手を楽しませる工夫がたくさんあることです。いくら環境活動が正しいと思っても、興味を持ってもらわないと、広がりません。こうした工夫をどんどん取り込んで、みなさんの活動をより広く伝えてほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回の「西表猫新聞」は、一般の新聞に近い形で構成されてすごいなと思いました。縦書きはなかなか構成しづらかったのではないのでしょうか。それをていねいな書き込みとタイトルづけなどの工夫で大変読みやすくまとめられていて、素晴らしいと思います。

ただ、小さな子どもたちも読んでもらいたい壁新聞ですので、文字ばかりだと、どうしても疲れてしまったり興味が引けなかったりします。もうすこし写真や絵などを使いながら、構成で魅せる工夫にも力を入れてみるといういいかもしれませんね。

それから、記事の上に重ねる手法も取られていました。

ホタルの記事の場合は、ホタルの生息位置と記事の内容が釣り合っていたので、とてもよい工夫だと思ったのですが、文化祭のとエコすごろくでは、趣旨が違う記事が重なっていたので少し混乱しました。記事を重ねる場所にも配慮してみてくださいね。

